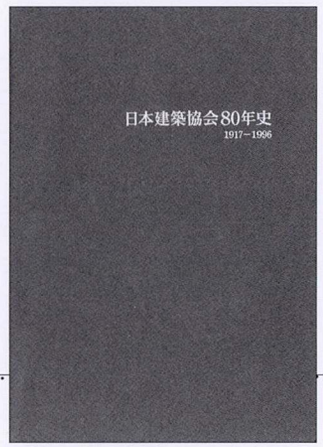
建築と社会

Architecture and Society
2007
No.1018
日本建築協会
01

特集：光り輝く京都の景観まちづくり
―再生から創生へ―





「日本建築協会80年史1917-1996」

増刷頒布中　頒価　3,000円

1999年７月に発刊した「日本建築協会80年史1917-1996」は、各方面から好評をいただいておりますが、このたび、皆様の強いご要望により、増刷・頒布することにいたしました。大正６年３月30日に関西建築協会として誕生した日本建築協会の80年の歴史を、様々な事業や委員会活動を通じて、また、本会設立者の片岡安、武田五一以降現在までの会員たちの社会活動を通して知ることができる記念誌として、A4判・240頁にまとめています。

とくに、協会草創期の大正・昭和初期の片岡安ら協会のメンバーと当時の大阪市長・関　一との交流を物語る一文は、大阪の都市計画史、あるいは関西の建築人物誌ともなっています。本会の歴史を知るだけでなく、建築を通して、それぞれの時代の雰囲気を身近に感じることができる大変貴重な資料となるものです。

購入ご希望のかたは、下記要領でお申し込み下さい。

＊

申 込 先　社団法人 日本建築協会
〒540-6591　大阪市中央区大手前1-7-31
大阪マーチャンダイズ・マートビル7階B室
TEL 06-6946-6981　FAX 06-6946-6984

頒　　価　１部3,000円（税・送料込み）

※増刷部数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。

「日本建築協会80年史」…

A4判・240頁・並製本

●日本建築協会の沿革／委員会活動／「建築と社会」の変遷／大正時代から現在までの本会主催の博覧会・展覧会・講演会／よろず相談住宅展／青年建築家・青年技術者顕彰／工高生デザインコンクール入選者etc.

●日本建築協会創立者と会を支えた38人のプロフィール（片岡　安・設楽貞雄・武田五一・池田　實・波江悌夫・竹腰健造・尾崎久助・東畑謙三・塚本猛次・福田朝生・佐野正一・葛野壯一郎・横濱　勉・松本禹象・宗　兵蔵・園部文雄・日高　胖・野村一郎・古宇田　實・松室重光・松井貴太郎・安井武雄・中澤誠一郎・坂　静雄・今林彦太郎・井上新二・松本儀八・池田宮彦・錢高輝之・中西六郎・大林芳郎・鴻池藤一・伊東五郎・竹中錬一・鷲尾健三・松村雄吉・横尾義貫・足立　孝）

●座談会「戦中から戦後初期の協会活動」―尾亀清四郎・大林芳郎・小西　岬・佐野正一・横尾義貫・三品哲夫の6氏による終戦前後の協会活動の証言―

＊

■執筆ワーキンググループ
坂本勝比古／安達英俊／石田潤一郎／植松清志／梅宮弘光／桐浴邦夫／酒井一光／橋寺知子／山形政昭／吉田高子／和田康由

■80年史編纂委員会
長谷部朔郎／安達英俊／近藤達夫／谷淳之介／十倉　毅／原見昌志／和田康由／吉田悦二



「日本建築協会の遺産と功績」（坂本勝比古）より



「草創期の人々」より片岡安の項

2007年を迎えて

社団法人 日本建築協会 会長　佐野吉彦

新年明けましておめでとうございます。
2007年も、会員の皆様にとって手応えを感じる１年であることをお祈りいたします。

私たちが日々取り組んでいる建築という仕事は、社会の繁栄と安寧に寄与する仕事です。専門家がつねに研鑽を怠らず、社会に対して積極的な役割を果たすこと。今年創立90年を迎える日本建築協会がその設立から一貫して推進したのは、そうした精神をバックアップし、活動の場を充実することでした。一昨年通算1000号に達した「建築と社会」誌はその中枢を成すものですが、ここには近代都市の形成期から戦災復興、成長の時期を経て成熟の時代へと移り変わるなかで、さまざまな課題に、専門家がどう真摯に応えてきたかを知ることができます。とりわけ、設立期の同誌の論文群には社会変革に向けての強い志を感じるものです。
ひるがえって、現代に生きる私たちは、まだまだ努力が足りないのだと思います。日本はいま、ネット化やグローバル化の進展が日々社会のかたちを変化させています。また、顕著になってきた少子高齢化社会、加えていろいろな社会不安がこの国の将来像を描きにくくしています。流動化する社会は興味深い面もありますが、理想主義では押し切れない状況にあることも事実です。そうしたなかで、建築の専門家が現状を嘆き、あるいは追認するような姿勢で良いのでしょうか。次のステージの日本がどうあるべきかをつねに考え抜き、提言してこそ、真のプロフェッショナルであると思うのです。
そうした観点から、日本建築協会も、引き続き「一肌脱いでゆこう」と決意を新たにいたしました。「建築と社会」誌のさらなる充実はもとより、すでに半世紀を超えて実施している「青年技術者表彰」「工高生デザインコンクール」などの取り組みを継続して、有為な人材の育成に努めてまいります。現在募集中の「デザインアイデアコンペ」を通して、中之島を中心に大阪の将来像を描くことを考えています。
さて、本会の「創立90年」にあたっては、３月30日に記念式典を挙行いたします。ここでは「日本建築協会賞」表彰のほか、本会がスポットライトを当ててきた近代建築にかかわる講演とシンポジウムの開催を計画しています。この日を重要な節目として、各地支部の創意ある活動と連携し、志を共有する他の建築団体と積極的な協調を図りながら、粘り強く活動を進めてまいります。

専門家どうしが日常的に忌憚のない議論を交わし切磋琢磨する場として、また正しく建築をつくるための健全な基盤として、日本建築協会の活動をさらに充実させてゆきたいと考えております。
本年のご多幸をお祈りいたします。

日本建築協会・常設委員会

本年の抱負

編集委員会

新たな地平にむけて

編集委員長
設楽　貞樹

今年は日本建築協会にとって創立90年にあたる記念すべき年です。一世紀に及ぼうとする協会の長い歴史、また建築界に果たしてきた業績の重みをいまさらながら感じています。
協会では90周年記念のシンポジウムと祝賀会の開催をはじめ、デザインアイデアコンペの実施などの記念企画が進行中です。さらに、機関誌「建築と社会」においても４月号を90周年記念特集号として発行する予定で、旧年中より準備に取り掛かっております。いずれも単に協会の歴史を振り返ることにとどまらず、90周年、さらには100周年と継続して、今後協会が建築界に果たすべき役割を議論するとともに、会の活動の活発化につながる企画となることを目指しております。
当会の特徴のひとつに、幅広い間口を持っている団体であることがあげられます。法人会員、個人会員ともに多彩なメンバーで構成されている点、他団体とは異なる特徴ということができます。90周年を機に、協会のこのような特徴を活かした活動を展開していくことが会員の皆さんの期待に答えることにつながると考えています。
「建築と社会」の誌面も上記のような趣旨のもとに、
- 幅広い年齢層に読まれる企画の追求
- 話題を提供できる誌面づくり

のテーマを持って編集に取り組んでいく所存です。
90周年はひとつの通過点であると、編集委員会では話しています。90周年から100周年に向けて、活動の新たな地平を模索し続けて参ります。皆さんのたゆみないご支援をお願い申し上げます。

出版委員会

「ものづくりの喜び」を伝えたい

出版委員長
上原　正行

平成19年、日本建築協会は？　会告で会員諸兄に問いかけているが、反応が気がかりです。私たちも、この情報社会の中で出版企画をどう進めるか、悩みはつきません。
ところで昨年、仕事の合間をぬって、ささやかな作品：２坪の木造平屋一棟：を夫婦２人だけで設計施工、竣工させました。大津に残る築150年の民家は10年余り無人。年数回の仏事に戻り、座敷に風を通す。近年床も落ち、白壁も崩れ、瓦もずれてきて雨漏りが心配。さらに五右衛門風呂、汲み取り便所では孫たちも近づかぬ。都市ガス化、生放流可を機会に一念発起。名神を何度も往復、素人２人で葺きあげた古瓦再利用の屋根もようやく完成。湯船に浸り、田舎の庭を眺め、ものづくりの快感を味わったのでありました。
さて関西経済界も長い低迷を乗り越えて設備投資などものづくりに回復感が出てきているとのこと。東大阪の人工衛星「まいど１号」打ち上げ計画、ロボット産業…話題は豊富。今年は、建築界で、ものづくりの楽しさがお伝えできる企画をさぐりたいものです。

教育委員会

独自性を力に…

教育委員長
山形　政昭

設計実務におけるCADの日常的普及に呼応して、学校の卒業設計も同様にCADの図面が主流になっています。そのテクニカルな表現には驚かされるものも少なくありません。表現の新しさは常に時代の要請であり、学生の早い時期に身につける傾向は賞すべきことですが、えらくスマートな作品を見ていると、建築を発想しエスキースを重ねて具体化するなかで生まれるはずのリアリティーの希薄さが時に気になります。
こうした時勢のなかで、伝統的教育事業の一つとなっている「工高生デザインコンクール」は鉛筆仕上げ図面を条件としているもので、本誌１月号に掲載されている入選作は、ご覧のように力作揃いです。また、「建築工事実務講習会」は実務に即した教育事業としての役割を果たしながら、テキストの見直しなど検討に入っています。
協会の今後のあり方が問われているなかで、独自性を保持しつつ社会に応答する教育事業のニーズを、委員一同ともに探ってまいります。ご提案をお寄せ下さい。

事業委員会

収支の健全運営の下に事業を!

事業委員長
瀬戸川　葆

社団法人日本建築協会が会員減少の続くなかで、今後存続していくには、収支の採れる事業を企画し、会員に参加してもらえるように進めていくしか方法はないと思います。協会の理事会で数回、議論を重ねて参りましたが、落ち着く結論となりました。協会の収支の健全運営は当然ですが、事業委員会の企画についても、同一の視線で実施していく必要があると思います。

平成18年度は「これからの建築と社会」の講演会１件（耐震強度偽装事件）、建物見学会３件の実施となりました。平成19年度につきましても、同様の取り組みをしたいと思います。

建材委員会

新鮮な情報の発信を目指して

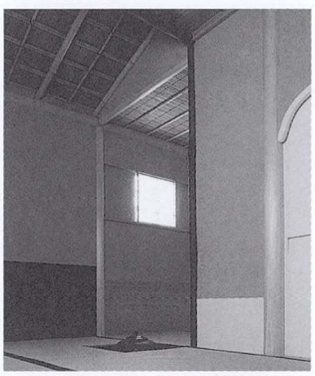
建材委員長
松原　徹雄

建材委員会では、建材情報の発信を「建築と社会」の誌面を通じて行ってまいりました。欲しい情報はインターネットで瞬時に得ることができる現在にあって、日頃、建築材料を扱っている委員より評価が得られたものを紹介するこの誌面は貴重な情報源になると思います。しかし、当委員会へ寄せられる情報は以前より減少しております。

そんな中で昨年、建材委員会として初めて建材メーカーとの交流の場に参加しました。そこで得た情報はどれも新鮮なものでした。このような機会を今後も持ち、会誌を通してお伝えできればと思っています。情報の発信の方法はほかにもあると思います。今年はいろいろチャレンジをしていきたいと思っております。

会告

第23回茶室見学会
朝雲庵
―利休大坂屋敷の茶室の復元―



朝雲庵内部

千利休ゆかりの地・堺市にこのたび、秀吉の築城後、利休大坂屋敷に実在した「御成りの茶室」が復元されました。この茶室は秀吉の御成りを念頭において、点前座が客座からは見えにくいように構成された三畳台目構えの初めての試みであると言われています。客を上座に迎え、亭主は下座で茶を点てるもてなしのこころを強調した侘び茶の原点に立ち戻ったかのような深い思惑がうかがえます。

これまで実在しなかった茶室と言われてきましたが、このたび、民間企業の力添えで書院や庭園を備えて、中村先生の監修により、利休の弟子山上宗二が書きのこした間取り図や当時の茶会記などの資料をもとに、４世紀ぶりに復元され「朝雲庵」と命名されたものです。

本見学会では、復元に対する先生のご苦労話も含めてお話をお聞かせ願えればと思います。　（森田芳次）

日　時　2007年１月27日（土）
　　14：00～16：00
講　師　中村昌生
　　京都工芸繊維大学名誉教授
集　合　現地・併設施設「江久庵」２階
　　／南海高野線堺東駅から徒歩約10分
定　員　30人（申込者多数の場合は抽選）
参加費　会員3,000円、一般4,000円
　　学生半額　＊税込
申　込　１月15日（月）までに
　　FAXまたはE-mailで、
　　①催し名「茶室見学会」
　　②氏名
　　③会員・一般の別
　　④職場名または学校名
　　⑤参加証送付先（郵便番号）
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
申込先　㈳日本建築協会編集事業課
　　〒540-6591
　　大阪市中央区大手前1-7-31
　　（OMMビル７F）
　　TEL：06-6946-6981
　　FAX：06-6946-6984
　　E-mail：jigyoka@aaj.or.jp
主　催　㈳日本建築協会編集事業課
　　事業委員会情報見学小委員会
担当主査　森田芳次／安井建築設計事務所

監　修　中村昌生
設計監理　財団法人 京都伝統建築技術協会
施　工　建築／株式会社 安井杢工務店
建物面積　72.49㎡
付帯設備　広間、書院、日本庭園

第6回　読者と選ぶ「建築と社会」賞実施
2006年1～12月号「建築と社会」誌から

2006年12月号P37に、2006年の「建築と社会」総目録を掲載しました。ご参照下さい。

■賞の趣旨
「建築と社会」という本誌の趣旨にふさわしい社会性・環境などに配慮した有意義な建築作品や建築にかかわる論文・記事などを顕彰する。選考にあたっては、会員の声を反映し、広く開かれた賞とする。

■選考対象
本誌「建築と社会」2006年１月号～12月号に掲載された作品及び個別の論文・記事などを対象とする。（2006年○月号掲載の論文・記事名及び同執筆者名を明記の上、ご投票ください）
・「作品作風頁」欄掲載の建築作品
・「本会支部作品頁及びそれに準ずる作品頁」掲載の建築作品
・「特集頁」掲載の論文・記事―ただし特集頁全体は選考対象としない―
・「シリーズ頁」の記事（研究の風景、gallery、法令コーナー、構造の頁、設備の頁、新建材の頁）

■投票締め切り日
2007年１月31日（水）までに、FAX（06-6946-6984）またはe-mail：ken-sha@aaj.or.jpにより、氏名、勤務先、「とくに良いと思う作品、論文・記事」「本誌についての意見、要望」を㈳日本建築協会へ投票する。

■賞の部門
・作品部門　１～４点
・論文・記事の部門　１～４点

■選考方法
会員読者による第一次審査を経て、選考委員会による第二次審査にて決定する。

■第６回選考委員
井上　豊（財団法人日本建築総合試験所常任理事試験研究センターセンター長）
徳矢典子（弁護士、徳矢法律事務所）
柏木浩一（兵庫県立大学大学院環境人間学部教授）
鈴木克彦（京都工芸繊維大学大学院助教授、編集委員）

■第一次審査
e-mail、または「建築と社会」会告欄の読者アンケート用紙を用いてFAXで投票されたものの中から、「作品」及び「論文・記事」を編集委員会において各部門10点程度選出。これを第二次審査対象とする。

■第二次審査
第一次選考を通過した選考対象のうち作品部門については、該当者に下記の説明資料を求めることがある。
説明資料は、2007年２月末日を提出期限とする。
①写真５点以内②図面５点以内③周辺環境との景観的調和がわかる資料④設計趣旨（A4判１枚以内）として、①②以外の写真、図など計５点以内。

■発表と表彰
作品部門は建築主、設計者、施工者の中の代表者に賞状（記念楯）を贈呈する。論文・記事部門は執筆者（複数の場合は代表者）に賞状（記念楯）を贈呈する。
入賞者は本人に通知するとともに、「建築と社会」2007年７月号で発表。

「建築と社会」賞読者アンケート

送付先
㈳日本建築協会
FAX06-6946-6984
e-mail：ken-sha@aaj.or.jp

「建築と社会」では読者の方々のご意見を参考に、充実した誌面づくりをめざしております。2006年１～12月号で、とくによいと思われた作品、記事、その他についてのご意見をFAXまたはe-mailでご送付下さい。このご意見は、読者と選ぶ第６回『建築と社会』賞の１次選考に反映されます。

お名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

勤務先＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

□とくによいと思われた作品とその理由

□とくによいと思われた記事とその理由

□本誌についてのご意見や、取り上げてほしい内容などがありましたらご記入下さい。

会告

創立90周年事業へのご参加を!!

★式典・シンポジウム・祝賀会
★平成19年3月30日（金）
15：30～
★大阪市中央区大手前1-7-31
OMMビル20階　東天紅
TEL：06-6944-1015

日本建築協会は、大正6年3月に創立されて以来、この3月で満90周年を迎えることとなりました。
ついては、これを記念し次の事業を行う予定です。

①記念式典（15：30～16：20）
・式辞・来賓祝辞
・感謝すべき方々への謝意
・第7回日本建築協会賞表彰

②シンポジウム（16：25～18：25）
●基調講演：
神戸芸術工科大学名誉教授
坂本勝比古
●その他講師・パネラー
大阪ガスエネルギー・文化研究所
栗本　智代
竹中工務店大阪本店設計部
松隈　章
㈳日本建築協会会長
佐野　吉彦

③祝賀会（18：30～19：30）
会費：￥5,000

＊-＊-＊

●詳細は、本会誌2月号の会告にてご案内します。
●会員以外の方々のご参加も歓迎します。
●問合せ先：
㈳日本建築協会
TEL：06-6946-6981
FAX：06-6946-6984



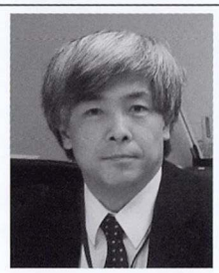
坂本勝比古　氏

1949年－神戸工業専門学校建築科卒業
1949年－神戸市復興局建築課勤務
イタリア政府給費生としてローマへ留学後、千葉大学、神戸芸術工科大学教授を歴任。



栗本智代　氏

1988年－奈良女子大学家政学部卒業
1988年－大阪ガス㈱入社
1991年－大阪ガスエネルギー・文化研究所
現在、大阪の個性や魅力を探求し、まち歩きコースや観光ルート開発に取り組む。

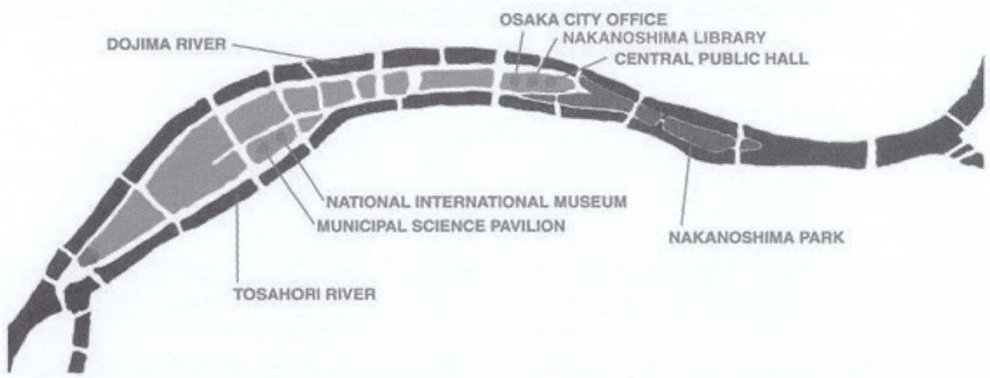


松隈　章　氏

1980年－北海道大学工学部建築工学科卒業
1980年－竹中工務店入社
現在、大阪本店設計部勤務。「関西のモダニズム建築20選展」企画の一人として活躍。

日本建築協会・大阪ロータリークラブ共催

デザインアイデアコンペ「都市の魅力をつくる－中之島の将来を考える－」



大阪の中心に横たわる中之島。歴史的建造物や美術館・オフィス・ホテルが点在するこの島は、都市のにぎわいが濃縮されたゾーンとして世界に誇れるものであり、大阪の都市観光の重点地区としても今後ますます期待されています。
平成20年に予定されている中之島新線の完成により公共交通の整備は飛躍的に高まりますが、中之島の魅力を高めるために、水辺の整備や歩行者ネットワークの整備など、従来の発想にない提案が求められます。いきいきとした中之島がどうあるべきか。あなたのイメージで、夢のある提案を自由につくりあげてください。

●提案内容　　中之島の将来イメージを構想しつつ、次のいずれかを自由に提案してください。
①中之島の魅力的都市景観形成に関する提案　②中之島の歩行者空間、交差点などの公共的空間の魅力づくりに関する提案　③中之島の既存建築物の活用・活性化に関する提案
●提出様式　　A1・1枚。　　●参加資格　　制限なし。
●募集期間　　2006年11月6日(月) ～ 2007年1月20日(土) 消印有効
●表　　彰　　2007年2月24日(土) に最優秀 1点(30万円)、優秀作 数点(各10万円)を表彰すると共に展示
●詳細は本会ホームページ(http://www.aaj.or.jp)をご覧ください。

会告

平成18年度 建築工事実務講習会

主催　㈳日本建築協会

〔※CPD対象
本講習は、大阪府建築士会及びJIAのCPD対象です(7単位)。〕

と　き　平成19年 2 月20日(火)
午前９時５分～午後５時５分
ところ　エル・おおさか　５階研修室２
大阪市中央区北浜東3-14
定　員　100名
受講料　15,000円（含テキスト代）
＊消費税を含む。
＊テキストは、当日配布

■趣旨と内容

- 官公庁・設計事務所・建設業をはじめ、設備・営繕など幅広い分野の有能な技術者を養成する目的をもって講習会を開催します。
- とくに取りつきにくい施工計画と、現場実務の基礎である仮設見積に重点をおき、講義します。
- また、都市環境の変化に伴う法令・規準の改正なども加え、技術の進歩に即応した知識の習得をはかります。
- 「仮設見積」では具体例により、その着工準備から完成に至るまでをわかりやすく解説します。

■申込要領

下記受講申込書に必要事項ご記入の上、受講料を添えて本会編集事業課までお申し込み下さい。(受講料は銀行振込・郵便振替でも可。但し、その場合お払込みいただく前に、必ず受講申込書を郵便かFAXでお送りください）引き換えに受講券をお送りいたします。
※定員に達し次第締め切ります。

■申込先

㈳日本建築協会
〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31
大阪マーチャンダイズ・マートビル７階
TEL.（06）6946-6981
FAX.（06）6946-6984
e-mail：jigyoka@aaj.or.jp
http://www.aaj.or.jp

- 受付時間　毎日、午前９時半～午後５時半。但し、土・日・祝日を除く。
- 詳細は、事務局編集事業課へお問い合わせください。

■交通

- 京阪・地下鉄谷町線
「天満橋」駅より西へ300m
- 京阪・地下鉄堺筋線
「北浜」駅より東へ500m



■科目・講師

一歩踏み込んだ先手の計画!!

施工計画

有光　利治氏
鹿島建設㈱関西支店
建築部生産計画グループ長

河野　浩司氏
㈱竹中工務店大阪本店
建築技術部課長 技術担当

適切な施工計画を立案できることが、建築現場技術者の必須条件です。安全で、経済的な施工計画を解説します。

計画と一致した仮設費を!!

仮設見積

阪井　聡氏
㈱大林組本店建築生産技術部
仮設見積り、施工計画一１グループ長

仮設工事費は、一般には非常に把握しにくい面があって、ついつい単位面積当たり、あるいは請負金比率のみで処理されがちです。施工計画に基づいた合理的で迅速な見積方法を解説します。

- 三井住友銀行
大阪中央支店（普通No.860034）
- 三菱東京UFJ銀行
瓦町支店（普通No.210054）
- りそな銀行
北浜支店（普通No.272234）
- 郵便振替口座　00910-9-39975

キ　リ　ト　リ　線

平成18年度建築工事実務講習会 受講申込書

No.＿＿＿＿

社団法人　日本建築協会　御中

年　　月　　日

郵便番号		受講者氏名	年齢
所在地			
事業所名（または氏名）			
担当責任者			
電話番号			
受講料支払方法	• 事務局へ持参　• 現金送金　• 銀行振込　• 郵便振替　（いずれかに○印を付して下さい）		
会員区分	• 当会会員　• 大阪府建築士会会員　• JIA会員（No.　　）　• 無所属		

※受講申込書が足りない場合は、複写して下さい。

「建築と社会」誌

特集一覧●1985~2006

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6946-6981、FAX 06-6946-6984）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1985 vol.66	●大阪湾物語＊	●東海の現在と近未来	●自由様式への道―建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール―それが生みだす文化―	●建物の表情―最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合―人体と建築にみる― ●日建設計作品＊	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 vol.67	●これからの住空間―都市型集合住宅にみる	●屋根―そのデザインと素材	●現代デザイン―ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発―その創造的仕掛けの鍵をもとめて― ●ツイン21	●CAD―その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 vol.68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚の街づくり＊	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 vol.69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統―東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ＊	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明＊	●制振＊	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ＊ ●大阪府営善	●第35回青年技術者 ●800号記念＊	●讀賣テレビ
1989 vol.70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術＊	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備I	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備II ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 vol.71	●商品化住宅のデザイン＊	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館＊	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識―中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化―設計の多様化をめざして―＊	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観＊	●高級感―建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 vol.72	●新しい都市空間づくり―I―	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり―II― ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識―複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号＊	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木―構造技術の世界― ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 vol.73	●夢物語―人がかわる、まちがかわる―	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン―東海支部―＊	●建築家のための設備知識―集合高層住宅の設備システム―	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り―住宅・都市整備公団関西支社10周年―	●木構造を使ってみませんか―集成材による構造―＊	●接着―建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」＊	●屋台一仮設の魅力に学ぶ―ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 vol.74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境―限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生―構造技術の役割― ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境一人にやさしい空間創造をめざして
1994 vol.75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと貌	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈＊	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって―会員作品＊	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美―建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 vol.76	●光がつくる風合の世界＊	●音―騒音から操音/創音へ	●飛騨・美濃―まちの活性化と地方文化＊	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法―会員作品	●新しい「都市・建築」の視点＊	●建築構造と社会の接点 ●日建設計＊	●ライフラインと建築設備＊	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 vol.77	●阪神大震災から学ぶ＊	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念＊	●遠江―その地方振興と文化＊	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 vol.78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり＊	●東海支部会員作品 ●金沢・能登―風土・文化とまちなみ・建築＊	●創立80周年記念/建築と私と社会―80人の眼―＊	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興―法・制度の運用と新たな展開へ― ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA＊	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法―会員作品―	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 vol.79	●新しいまちづくりの予感 ●東畑建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたし、そして建築	●東海支部会員作品 ●信州―諏訪とその周辺―	●街並みの演出―最近の外構材料	●生活環境の安全・安心	●地球環境保全と建築	●心と体を元気にするインテリア	●建築設備―ビルメンテナンスの立場から	●建築への証言'98―21世紀に向けて	●ゆれをとめる―たえる技術からかわす技術へ	●私の空間作法 ●2001年の医療施設	●第45回青年技術者 ●駅とともに歩んだJR西日本の12年
1999 vol.80	●“らしさ”のデザイン ●建築を綾どる小粋なモノの仕掛人	●大阪市都市整備局	●東海支部会員作品'99 ●北信濃―街並み修景と地域文化の再構築	●都市のパブリック	●関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる	●大阪城天守閣平成の大改修	●改正建築基準法―まちづくり・すまいづくりへの展開―	●私の目でみた環境問題	●アーバンインテリア―都市空間としてのインテリア	●木とともに	●私の空間作法	●第46回青年技術者
2000 vol.81	●21世紀のデザインの動向を見る ●安井建築設計事務所創業75周年	●中国支部―しまなみ海道と中国地方の街づくり―	●東海支部会員作品2000 ●越中・富山―地域文化の振興と新たな施設づくりの流れ	●こころを癒す環境デザイン	●測る―測定方法と測定結果が意味するもの―	●スケルトン&インフィル	●改正建築基準法―パートII―	●100年後へのメッセージ ●日建設計創業100周年	●来世紀に引き継ぐ―わざ、もの、こころ―	●時間	●私の空間作法―会員作品― ●21世紀の高齢者の居住環境	●第47回青年技術者
2001 vol.82	●エヌ・ティ・ティファシリティーズ	●21世紀の建築設計教育	●東海支部会員作品 ●岐阜・大垣	●IT社会におけるきずな	●自然素材をめぐる「もの・わざ・ひと」	●成熟社会をささえるまちづくり	●現代の日本の空間・文化を探る	●環境―近未来に向けて今できること― ●大建設計―作品特集1996~2001―	●建築の力都市の力	●緊張 ●都市基盤整備公団関西支社	●私の空間作法―会員作品―	●第48回青年技術者 ●NHK大阪放送会館・大阪歴史博物館＊
2002 vol.83	●国土交通省近畿地方整備局営繕部＊	●再生・リサイクル	●東海支部会員作品 ●愛知・名古屋	●生活環境の安全・安心―パート2―	●塗装のいろいろ	●都市再生に向けた建築基準法集団規定のあり方	●いま、インテリアデザインは ●濱町リバーブレイス	●建築をささえるセンサー	●建築とボランティア	●時を超えて~サステナブルエンジニアリングの現在~	●私の空間作法―会員作品―	●第49回青年技術者 ●大阪市中央公会堂
2003 vol.84	●東畑建築事務所創立70周年	●九州の地域づくり・まちづくり	●東海支部会員作品2003 ●愛知・名古屋―この地の文化・芸術と建築・街づくりを考える―	●サスティナビリティ~次世代に引き継ぐ都市・建築・暮らしのデザイン~	●建築と五感	●都市計画法及び建築基準法等の改正	●コンバージョン―インテリアから発信するまちなみ―	●介護と建築・設備	●建築とノスタルジー~建築の主観的価値について~	●力と楽しくつき合う方法	●私の空間作法―会員作品―	●第50回青年技術者＋青年技術者顕彰50年
2004 vol.85	●大阪市住宅局	●都市緑化	●東海支部会員作品 ●愛・地球博＊	●省リスクな「まち再生」＊	●リニューアルの技	●地域住民主体のまちづくりと支援制度	●Product Design＋1	●銭湯~心地よさを求めて~	●建築家とは何か	●巨大地震にそなえて	●私の空間作法―会員作品―	●第51回青年技術者
2005 vol.86	●震災から10年	●「健やか」 ●長崎医療センター	●東海支部会員作品2005 ●東海における施設づくりへの新たな試み	●建築の経済化	●住まい方の変化	●人工栽培	●次世代に伝える「木」の建築 ●「建築と社会」1000号記念	●改正建築基準法と景観緑三法	●火災から守る	●構造の過去から未来へ＊	●私の空間作法―会員作品―	●第52回青年技術者
2006 vol.87	●都市環境デザインと参加のまちづくり	●「地方空港の時代」~まちと共存する空港づくり~	●東海支部会員作品2006＋東海支部特集3部作＊	●都市再生の本質~光と影のはざまで~	●変容する家族形態とあたらしいライフスタイル	●身近な省エネルギー~エネルギーをたくわえ、有効利用する~	●設計図が伝えるもの	●建築物の安全・安心＊	●第53回青年技術者	●「セキュリティ」	●もしも…~構造が未来へつなぐ夢~	●私の空間作法―会員作品―

＊は欠号

今月の表紙

企画・デザイン　高橋 善丸

日本人は、水墨画や浮世絵そしてアニメなど、二次元的表現で三次元を表現することに長けた文化を持っているといえます。

表紙の今シリーズは毎号のキーワードに建築素材イメージを盛り込んだタイポグラフィです。
その平面の文字群で三次元空間をも表現しています。

建築と社会

Architecture and Society　JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第88集　通巻1018

2007 01

特集●

京都支部創設60周年記念特集

光り輝く京都の景観まちづくり―再生から創生へ―

［作品］

柊家新館 ―― 16
西賀茂の家 ―― 18
路地型共同住宅団地の継承的再開発事業 ―― 19
浄土真宗本願寺派安養山正覚寺本堂／庫裡 ―― 20
諏訪神社／観音堂 ―― 21

［本文］

京都の景観・まちづくり

京都市の景観制度の歴史的転換●福島信夫 ―― 22
「景観」から「町」づくり―京都市景観行政10年●吉田秀雄 ―― 23
建築協定の運営と景観まちづくり●鈴木克彦 ―― 24
京都市の建築協定―住民自治による環境づくり―●望月秀祐 ―― 26
来てみて良かった京のまち　その願いが適うか？：
過去・現在・未来をみる●蓮佛　亨 ―― 28
山紫水明の都は今●アレックス・カー ―― 30
千年の都、生かすも殺すも京都人の考えしだい●山本良介 ―― 32
祇園町のまちづくり―南側地区―●杉浦貴久造 ―― 34

京都の匠と技

京町家　歴史性とその再生●大谷孝彦 ―― 35
現代数寄屋再考●上野益彦 ―― 36
今日の数寄屋　中村外二の技と心●中村義明 ―― 37
京の家―民家・町家・数寄屋●小林一彦 ―― 38
柊屋新館の基礎的構成について●道田　淳 ―― 39
国際文化教室（アメリカ・ペンシルヴァニア州・ピッツバーグ大学内）●長瀬博一 ―― 40

年頭のことば　2007年を迎えて●佐野吉彦　1

本年の抱負　常設委員長●設楽貞樹・上原正行・山形政昭・瀬戸川葆・松原徹雄　2

会告　茶室見学会㉓ 朝雲庵―利休大坂屋敷の茶室の復元―．第6回読者と選ぶ「建築と社会」賞実施．創立90周年事業へのご参加を！！．デザインアイデアコンペ「都市の魅力をつくる―中之島の将来を考える―」．平成18年度建築工事実務講習会．　3

作品作風

ペプチド研究所　8
東宝南街ビル　10

研究の風景　森　一彦研究室（大阪市立大学生活科学部居住環境学科）　12

gallery　22世紀への扉をひらく（岡崎　誠）●中村文紀　14

法令コーナー　建築士法の改正―建築士制度の見直し等―●中迫悟志　42

構造の頁　テンセグリティの実験を木造で実施●待永崇宏　43

information　フォーラム「都市は子どもを守れるか」．「ストップ地球温暖化」．2011年秋にUIA2011東京大会．2006年度・CM講習会開催．ひょうごまちづくりセミナー2007．建設リサイクル法説明会．2007年秋、東京・中央通り照明デザインが一新される．第5回エコビルド賞大賞決定．大阪証券取引所からたこ焼きミュージアムへ．内藤多仲と三塔物語．「あたりまえのこと（四角のこと）」展．企画展「新春の寿ぎ」．「日本画の風情」展．兵庫県立美術館、新春の展覧会．ジャン・ル・ギャック“ESTAMPE”　44

デザインコンクール　第52回工高生デザインコンクール　設計課題：やすらぎの宿　46

月間の動き　平成18年11月分　50

■特集予告
2月号／学校新時代
3月号／東海支部特集
4月号／90周年記念号

編集委員会（平成18年度）

■副会長
井上　豊
中井　進
■編集担当理事
上原　正行
岡田　聿之
木戸　徹
佐藤　栄一
佐藤友美子
◎設楽　貞樹
竹中　統一
立成　良三
吉村　英祐
■特集小委員会
□計画分科会
★計画系
飯田　匡
鈴木　克彦
田中　直人
高橋　和也
辻　武之
紅谷　昇平
松田奈緒子
△三宅　次郎
森　康郎
守井　辰
吉村　英祐
★建築計画系
安部　新二
△荒木　宏之
江副　敏史
奥村　明孝
菅野　忠司
神戸　嘉也
木多　彩子
楠　敦士
小林　優子
所　千夏
野田　隆史
枇杷　健一
松森　織江
★インテリア・住宅系
阿部　泰浩
加藤　力
神谷　浩司
黒栁　亮
高野　直樹
田中　浩介
戸井賢一郎
ペリー史子
本山　仁
□構造分科会
秋田　智
岸本　光平
木下　隆嗣
瀧野　敦夫
鶴田　潤
△中塚　光一
難波　尚
肥嶋　好浩
房安　智也
向井　洋一
安野　郷
□設備分科会
△赤澤　正治
石井　勝秋
梶井　宏修
河井　康人
近藤　国夫
谷野　太志
夏井　重行
福谷　周
桝井　貴廣
村上幸三郎
山下　修
□施工材料分科会
石原　卓也
平田　茂良
平野　剛
△藤丸　啓一
山岡　篤人
吉田　正友
□法令分科会
△赤井　英稔
片岡　正和
七堂　元敏
中迫　悟志
根岸　芳之
文山　達昭
山口　一郎
■作品作風小委員会
赤城　隆
石塚なぎさ
居内　章夫
○井上　雅祐
稲垣　和江
池上　明
川上比奈子
倉澗奈千子
澤田　純一
戸川　勝之
鞆野　淳司
豊田　充広
中村　文紀
芳谷　晴彦
増田　敬彦
山田　俊紀
■広告企画小委員会
荒本　俊明
今井　成年
大竹　賢次
○虎谷　伸幸
古畑　健一
○前田　衛
森川　幸信

◎委員長　○副委員長　△幹事

印　刷　2006年12月22日
発　行　2007年1月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電　話　06-6946-6981
振替口座　00910-9-39975
印刷所　㈱NPCコーポレーション
定　価　1200円〔税込〕




PEPTIDE

作品風

建築主■
株式会社ペプチド研究所

建築主代行■
阪急電鉄株式会社（建設コンサルタント）

設計・監理■
安井建築設計事務所

施工■
大成建設

ペプチド研究所　彩都研究所

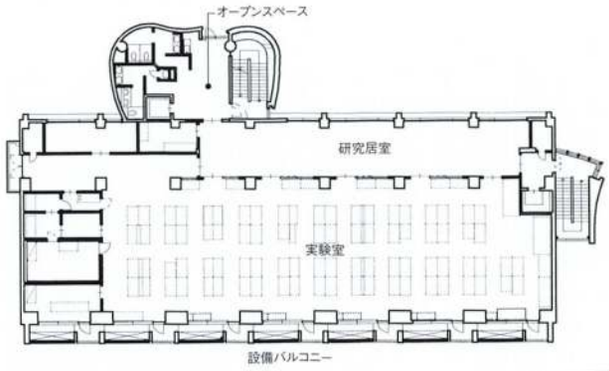
大阪北部・茨木市の緑豊かな丘陵地に2004年４月に誕生したバイオメディカルの研究開発拠点・彩都ライフサイエンスパークに計画されたペプチド研究所の新研究所のプロジェクトである。周辺には既に、医薬基盤研究所や彩都バイオインキュベーターが稼動している。

新研究所は、世界のペプチド化学研究をリードする研究所にふさわしい、「アメニティ」「フレキシビリティ」「安全性」を備えた最先端の研究環境づくりを目指した。研究所としてのフレキシビリティを最大限確保するため、階段、エレベーター、便所などのコア部分を研究・実験スペースの外側に配置するコアレスな平面計画とするとともに、給排水・給排気・ガスなどのルートを外部側に設けた設備バルコニーを装備している。

設備バルコニーを覆う穴あきブロックの格子状フレームの端正な表情と曲面壁のやわらかさをあわせもつ特徴的なフォルムにより、実質性と創造性が融合する研究活動を表現している。

施設内外に配置された光・吹抜け・色彩・オープンスペースなど多様な仕掛けにより「ひと」や「自然」とのさまざまなコミュニケーションが誘発され、新しい研究成果が生み出されることを期待している。

（楠　敦士／安井建築設計事務所）



1：600　平面図

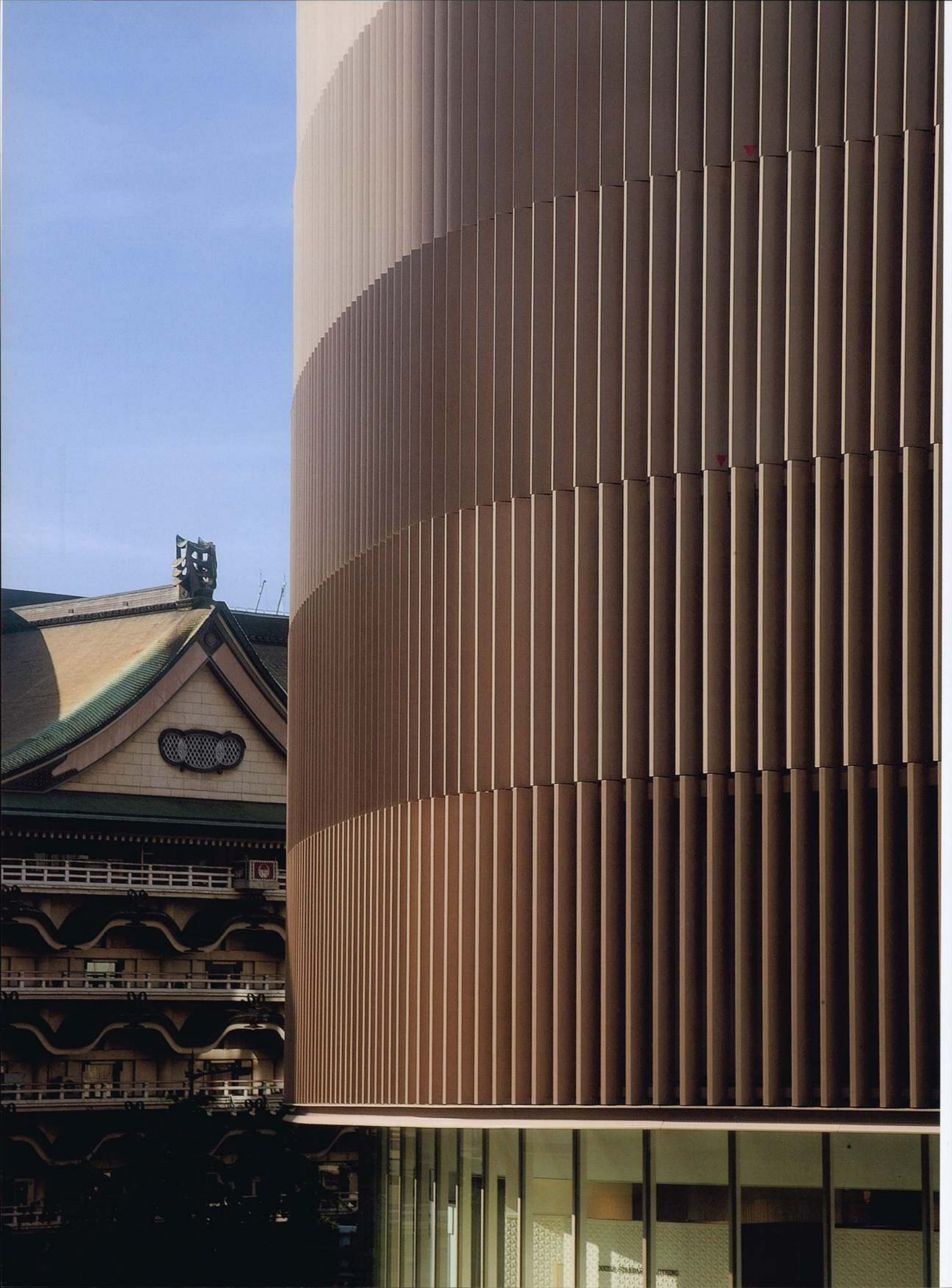
所 在 地 ――茨木市彩都あさぎ7-2-9
敷地面積 ――4,388.00㎡
建築面積 ――1,187.30㎡
延床面積 ――4,438.09㎡
構造規模 ――RC造、5F
工　　期 ――2006年１月～2006年10月
最 寄 駅 ――大阪モノレール・彩都西駅（2007年３月開通予定）
撮　　影 ――伸和











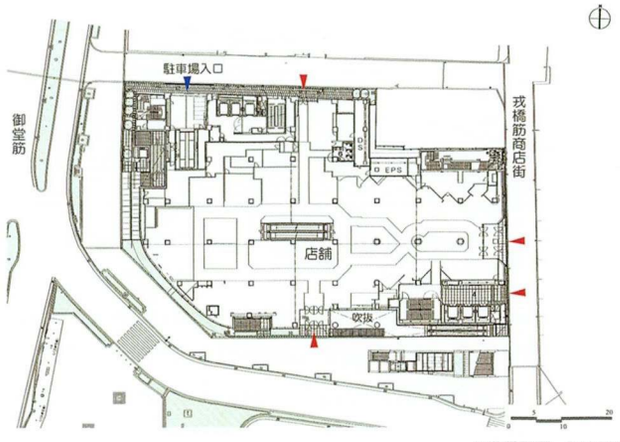
作品風

設計・監理■
竹中工務店

施工■
竹中工務店

東宝南街ビル

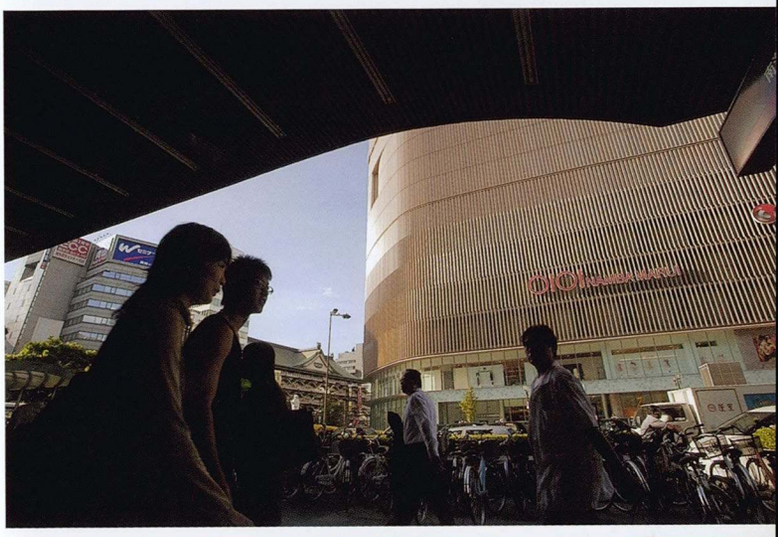
東宝南街ビルは、大阪市内最大級の９スクリーン1960席を擁した「TOHOシネマズ」のシネマコンプレックスと、2003年に神戸で関西へ初進出した「マルイ」との複合商業ビルである。
外観は視認性の高いシンボリックな建物とするべく、店舗階の避難バルコニー全体を伝統的な日本建築を構成する要素である連子格子をイメージした堅型ルーバーで覆った計画とし、その角度を各階で15°ずつ調整することで、平面的にも、立面的にも、また天候や時間の推移によっても、様々な表情の変化を見せるデザインを追求した。このルーバーは外壁からの熱負荷の低減にも寄与しており、環境に配慮した設計となっている。
平面計画は全館避難安全検証法（Cルート）により、階段と避難バルコニーを合理的に配置することで、建物としての安全性を高めると同時に、有効面積を最大限に確保している。
また、地下１階レベルでは、地下鉄御堂筋線難波駅コンコースとの接続や、既存地下街との接続により、地下空間の回遊性や快適性の向上を図っている。
（野田隆史/竹中工務店）

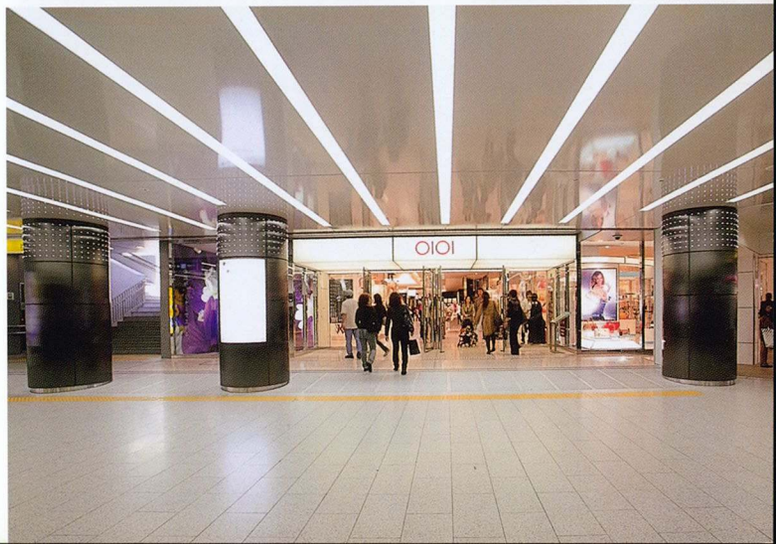


１階平面図　1：1500

所 在 地 ――大阪市中央区難波3-8-9
敷地面積 ――3,498.87㎡
建築面積 ――3,189.03㎡
延床面積 ――35,908,51㎡
構造規模 ――SRC造、S造　B2F　12F
工　　期 ――2004年10月～2006年９月
撮　　影 ――清水向山（左頁、右頁上２段）
古川泰造（右頁下２段）

左頁：外観近景/新歌舞伎座との対比
右頁上より：南西面外観/南側外観/夜景/地下鉄側から見る



大阪市立大学生活科学部
居住環境学科

森　一彦　研究室

（居住福祉計画研究室）



2020年高齢者居住

2020年には日本の高齢者（65歳以上）は人口の30％を超えます。75歳以上の後期高齢者は現在の２倍。認知症高齢者も２倍以上になると言われています。これは世界１位です。私たちはこの超高齢社会における居住環境のあり方（**図１**）について考えています。

都市生活の現実

「エンド・オブ・ライフをどこで迎えますか」かつて、50年前には70%が自宅で死を迎えていたものが、現在８割が病院で亡くなっています。これは日本が戦後60年かけてつくり上げた都市生活の姿です。お金をかけた病院で最新の医療機器に囲まれて最後を迎える。一見、恵まれているようにも見えますが、本当に幸せな場面であるのかが問われています。介護では、約半数の人が自宅で受けたいと思っているものの、３割の人は介護施設を望んでいる。その理由は「家族に迷惑を掛けたくないから」。かつてのように自宅で最後迎えたいものの、実際はそれが困難な状況にあります。今日の都市はかつての家族介護に代わる地域介護力を持った新たな居住環境が求められています。

居住福祉計画

私たちは、多様なライフステージをもつ高齢者が安心して豊かな生活を継続するための居住環境計画、いわば「居住福祉計画」に取り組んでいます。人は高齢になると誰でもからだの機能が低下します。手足の動作が遅くなり、頭のきらめきも鈍くなりますが、住まいや暮らしを工夫することで、今までの豊かな生活が継続できます。この課題について、居住福祉計画の立場から取り組んでいます。

現場から考える

まず、私たちは現場に赴きます。認知症の高齢者が居住するグループホームや特別養護老人ホーム、地域にある公園や店。郊外に開発されたニュータウン。そこでの現状を体験し、問題を明らかにし、その改善策を考えます。さらに、可能な場合、それを実行してその改善策の効果を検証します。この一連のプロセスを「アクションリサーチ」といいます。30?40年前に開発されたニュータウンでは高齢化が進展しています。2015年を予測（**図３**）してみますと、独居の高齢者や認知症の高齢者がここそこに住むことになります。ここに住む高齢者の中でからだの機能が低下すると外出が極端に低くなっています。これはニュータウンが車利用を前提に計画されたため、歩いていける範囲の近隣に魅力的な場所がなく、歩いて散歩や買い物など気軽に出かけられないことが原因です。私たちは高齢者が最後まで生活できる居住環境（**図２、写真２**）を提案しています。ここでは住まいをつなげることで、相互に助け合えるとともに、お店やふれあい喫茶などの役割をする近隣の安心拠点ともなります。

現在まで約6000の特別養護老人ホームが整備されました。しかし多くは高齢者にとって居住の場にはなっていません。介護することが優先され、個々の高齢者が生き生きと生活する環境は整っていないのです。私たちは、現場の高齢者の日常の行動調査（**図４**）に基づき高齢者の生活スケールにあわせた計画を行い、高齢者が思い思いに過ごせるための環境改善（**写真３**）を行いました。

人間行動から考える

高齢者のための居住環境は高齢者の行動の特徴に配慮する必要があります。特に身体能力や認知能力が低下しても、今まで通りに生活できるための工夫が求められます。認知症高齢者の迷いは環境との不一致で生じます。空間内を移動する際に、どんなものを見てどのように移動するのかを実験（**図５**）で明らかにしています。視力が衰え、白内障になった状態の注視行動からみた、分かりやすい空間のあり方を明らかにしています。細かなサインより空間そのもの特徴が重要で、特に見通しの良さが求められています。

世界から考える

世界から日本をみると絡み合った問題がすっきりとほぐれていきます。西欧の先進国でも同様の高齢社会問題を抱えています。また、急激な都市発展を遂げている中国や韓国でも高齢社会が間近に迫っています。私たちは、各国での高齢者の生活の質（QOL）を比較し、そのQOL向上のための居住環境を探っています。オランダ（**写真１**）では約10万床の介護施設を４万床に減らし、その代わりに既存の共同住宅を生かして、介護付きの30人の小規模な共同居住に展開しつつあります。上海では毎年１万床の介護施設をつくっています。高齢者を含むすべての人々が安心して豊かで自由な生活ができるための居住環境を考えています。



図1：高齢者の近隣資産



写真1：オランダの近隣

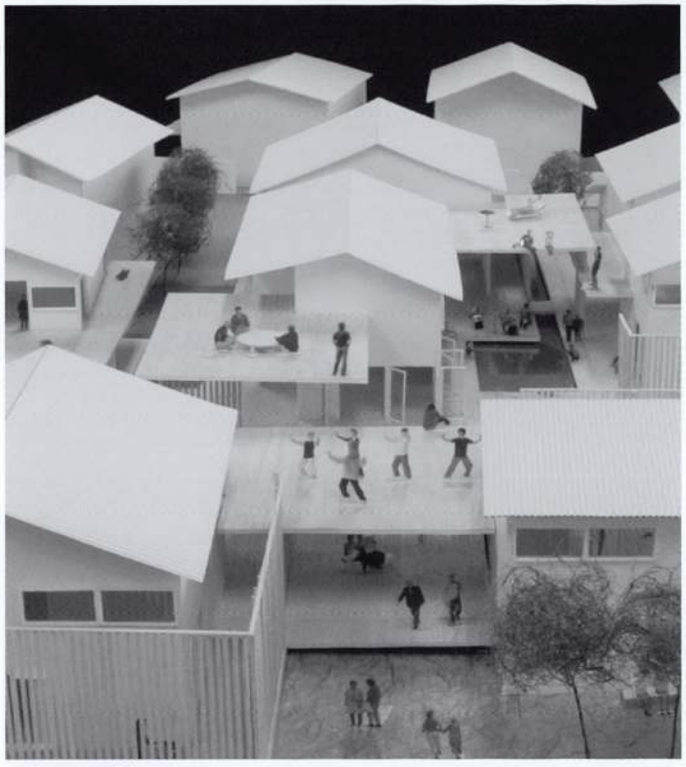


写真2：連結住居

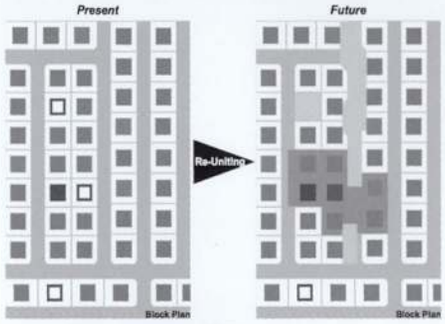


図2：連結住居の配置計画

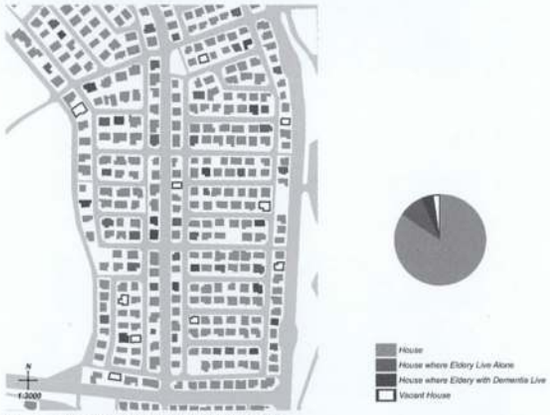


図3：高齢者住居の2015年予測

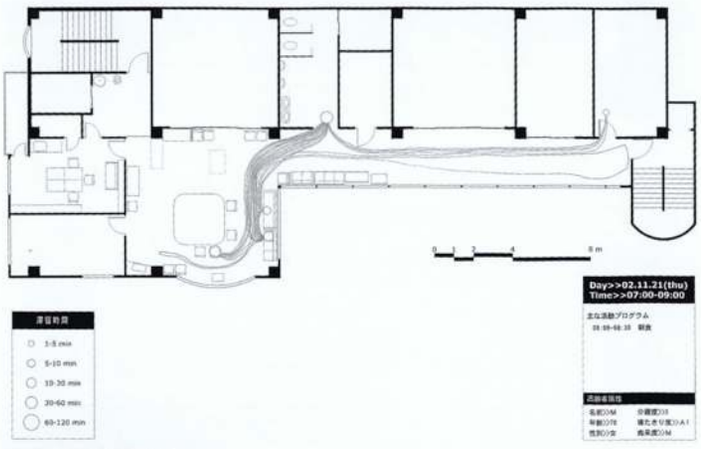


図4：行動観察調査



写真3：ディルームの環境改善



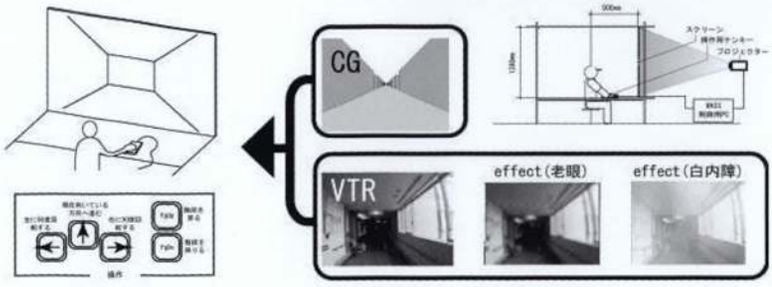
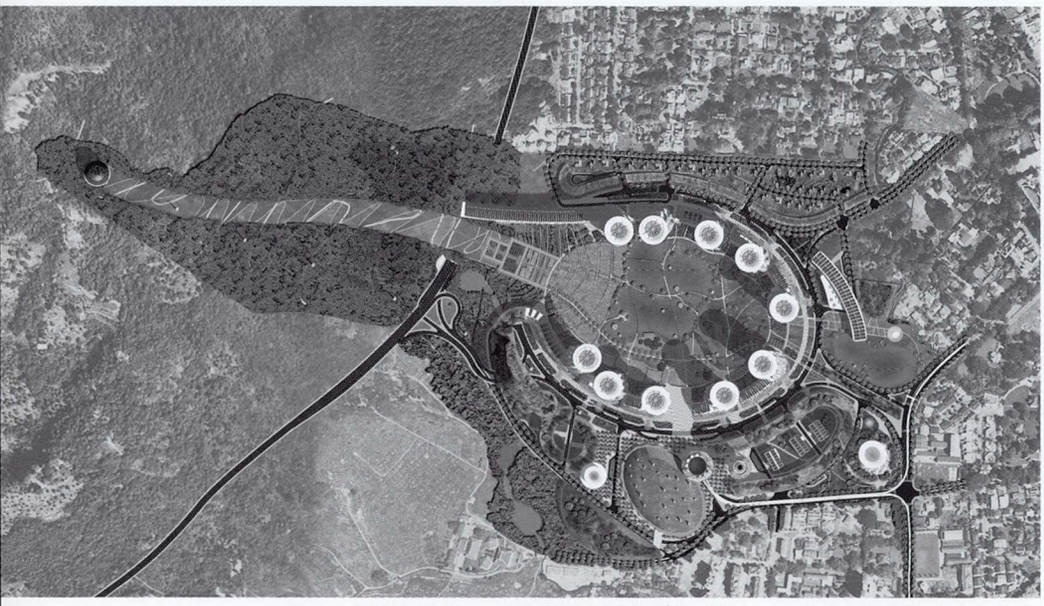


図5：WASS経路探索行動実験装置

gallery

22世紀への扉をひらく

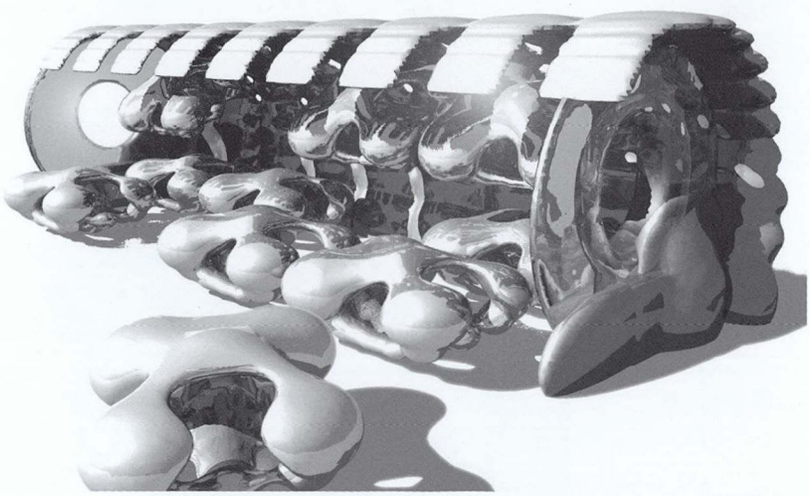
建築士・アーバニスト
岡崎　誠



Penang Peaks/ マレーシア、ペナン島新都心マスタープラン（2004）　Copyright Michael Sorkin Studio

我々は22世紀への扉をひらくエネルギー的に自律する都市・建築のありようを考えている。

雨をためて豊かな緑を育てる、太陽の光で建物を暖める、風をキャッチして、または地中をくぐらせた冷たい水で建物を涼しく冷やす、一度使った水を緑の力を使って浄化して再利用する。近未来の建物はツルツルピカピカした鉄とガラスのテクスチャーではなく、地球上に降り注ぐ太陽の力を最大限に利用するために緑に被われたもっと毛深いものになるだろう。自然と対話しながら最適の形態を３Ｄシュミレーションで探し出す。そうして得られた不思議なかたちは木の芽や花弁や種子を見た時のようななつかしい感覚をよび起こす。植物や動物は生き抜くために途方も無く複雑な要因を処理してそのかたちになった。その不思議なかたちは生存の戦略を埋め込んでいる。
我々は自然環境と混ざり合って成立するファンキーでセクシーなかたちを求めている。



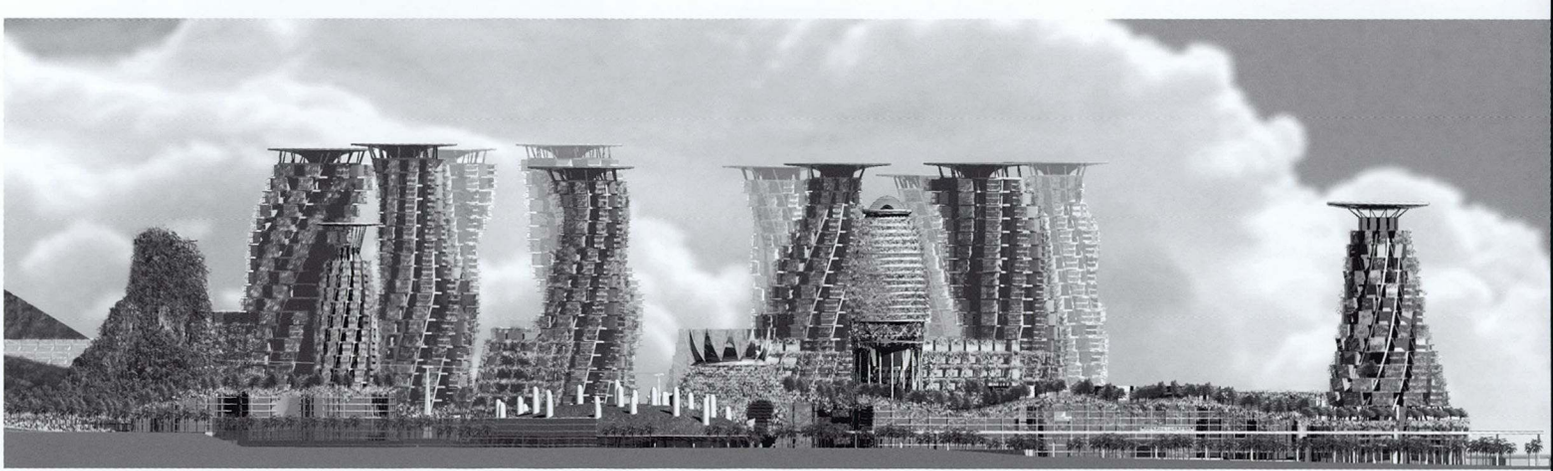
ソフトビークル（2006）　Copyright Mitchell Joachim/Terreform

我々は建築にとどまらずエコロジー自動車のデザイン開発を手掛けている。それはサスティナブルな仕組みを考える上で都市とモビリティの問題は密接に関わっているからだ。近未来の車はバイオ燃料や燃料電池で動き、ボディはソイ（大豆）プラスティクのバブルで包まれたとてもソフトなものになるだろうとイメージしている。ソフトなボデイは人を傷つけることがないから従来の歩道車道という交通システムを劇的に変える。それは都市構造をも変える。このプロジェクトは素材や燃料供給に始まり生産システムなどインフラストラクチャに大きく影響を及ぼす提案になるだろう。

石油の周りはいつもキナ臭い。エネルギーを廻る摩擦は数多くの戦争を引き起こして来た。それは20世紀の悲しい遺産である。人類が化石燃料に依存するエネルギーシステムから脱皮できれば、世界はどれだけ平和に、空気はきれいになることか。我々はそれを夢見ている。

岡崎　誠（おかざきまこと）
神戸生まれ
東畑建築事務所設計部を経て
Michael Sorkin Studio/Terreform（ニューヨーク）パートナー
www.sorkinstudio.com
www.terreform.org

企画編集　中村文紀（作品作風小委員会）



Penang Peaks

京都支部創設60周年記念特集

光り輝く京都の景観まちづくり
―再生から創生へ―

美しい千年の古都に滋賀の里を加えて、京都支部が創設されたのは昭和22年で、まさに戦後の混乱の真最中でありました。

それから60年を経た今日、京都は幾多の経済大変動に耐えながら、美観地区(昭和48年)、伝統的建造物郡保存地区（昭和51年）その他数々の市街地景観制度について常に先導的役割を果たしてきました。それでも、京町家を代表する伝統的町家・町並みの保全には十分でなく、新しい京都景観づくりが国政レベルで論じられるべき時代になっています。

私たち建築士をはじめとして、京都の景観まちづくりの創生・再生に携わる支部会員には、率先して京の匠の継承と伝統の技の発展に寄与すべき責務があります。

ここに京都支部創設60周年の記念すべき年に当たり、支部会員一同は新たに時を超え、光り輝く京都の景観都市づくりに向けて強く邁進することを決意するものであります。

（京都支部長　望月秀祐）



〔作品〕
柊家新館
西賀茂の家
路地型共同住宅団地の継承的再開発事業
浄土真宗本願寺派安養山正覚寺本堂／庫裡
諏訪神社／観音堂

〔本文〕
京都の景観・まちづくり
京都市の景観制度の歴史的転換／福島信夫
「景観」から「町」づくり―京都市景観行政10年／吉田秀雄
建築協定の運営と景観まちづくり／鈴木克彦
京都市の建築協定―住民自治による環境づくり―／望月秀祐
来てみて良かった京のまち　その願いが適うか？：過去・現在・未来をみる／蓮佛　亨
山紫水明の都は今／アレックス・カー
千年の都、生かすも殺すも京都人の考えしだい／山本良介
祇園町のまちづくり―南側地区―／杉浦貴久造
京都の匠と技
京町家　歴史性とその再生／大谷孝彦
現代数寄屋再考／上野益彦
今日の数寄屋　中村外二の技と心／中村義明
京の家―民家・町家・数寄屋／小林一彦
柊屋新館の基礎的構成について／道田　淳
国際文化教室（アメリカ・ペンシルヴァニア州・ピッツバーグ大学内）／長瀬博一

京都支部創設60周年記念特集号特別編集委員
編集委員長：望月秀祐　　編集委員：神谷　治、山口　明、長瀬博一



柊家新館

所 在 地 ――京都市中京区麩屋町姉小路上ル中白山町
敷地面積 ――2,266㎡
建築面積 ――　373㎡
述床面積 ――1,353㎡
構造規模 ――RC、SRC、B1、3F
工　　期 ――2004年９月～2006年２月
最寄り駅 ――京都市営地下鉄東西線・京都市役所前
撮　　影 ――馬場道浩、道田淳（外観写真のみ）

設計監理　　エイト・エフェクト
施　　行　　清水建設・熊倉工務店　共同企業体



文政元年（1818）より京都で旅館業を営む老舗旅館「柊家」の新館である。江戸、明治、大正、昭和の各時代に様々な増改築を経験してきた旧館にとっては、最大規模の解体と増築工事となった。新館はSRC構造躯体の中に、厨房や機械室などバック周りの他に、開放的な大広間と個性の異なる７つの客室を内包している。

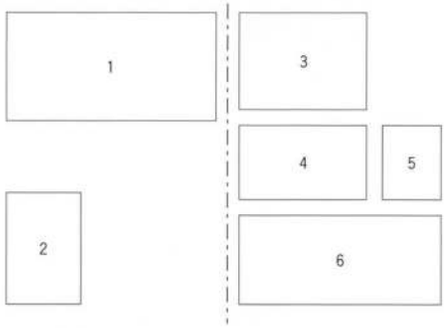
敷地周辺はマンション等が乱立し交通量も多く、創業当時とは全く異なる環境である。さらに敷地の一部は防火地域でもあり、古都の面影を残すような昔ながらの木造で計画を進めることは困難である。しかし既に古き良き旧館に対して、新しく良き新館となることを目指し、老舗旅館に相応しい快適な内部空間を実現するために、意匠のみならず様々な事を試みた。

中でも敷地の南側と西側に防火壁（一部は構造壁）兼目隠し壁を建て、「雪吊り構造」を採用することで１階大広間を無柱空間にすることが可能となった。同時に各客室に特殊防火設備を使わずに済み、旧館と同じく無垢木材、和紙、土壁など自然素材による室内設計が可能となり、異なるテーマやプランはもちろんのこと、手仕事と自然素材に支えられた、大小様々な見所が用意できた。

外観は旧館から続く塀と植栽を延長し、その上に特徴的な屋根を載せている。旧館（２階建）から新館（３階建）へと歴史が引き継がれて行くことを意識し、素材を旧館の瓦から硫化仕上げの銅板へと切り替え、かつ形状も滑らかに伸びやかに空へと繋いでいる。

（道田　淳／エイト・エフェクト）





1　外観（北東方向より）
2　広間外縁と雪吊り構造
3　浴室（壁：ヒバ材すり漆、浴槽：高野槇）
4　２階客室より旧館を見る
5　玉虫貼り細工の漆塗り床板
6　大広間







西賀茂の家

設計・監理　長瀬建築研究所
施工　（建築）上野工務店
（左官）佐藤左官工業所（建具）トクダ（瓦）光本瓦店
（木材）谷吉木材（石）芳村石材店（錺）成和金属建築
（電気）高崎電気工業（造園）京都庭園室

近郊農家の改修・増築で主屋・車庫・土蔵・門扉・土塀・庭の整備である。築約45年の主屋、江戸後期造の蔵・土塀等が内外共一新された。
家族の集いの場は、土間だったのを床上げし台所や家事室増築の上、天窓を付け室の一隅に２階に造った若い御夫婦の室への階段を設けた。また、納屋の在った所に３台収納の車庫を築き、大開口面は構造強化のため双柱とした。市内で置屋根型蔵は少ないが、壁面保護にも優れている。袴腰は杉材で覆い、弁柄塗とした。内部平屋使いだったのを収納階段をつけ２階建てとした。道に面した50メートル近い土塀は石積部旧状を生かし、何度も塗り込みを重ねた土壁は油土で仕上げ、瓦はリズミカルな無地鎌を使用。新設の車庫・門扉・新生の土蔵・土塀・移植の北山杉等が相まって凛とした表構えを形成し、近隣の家並みを引き締めている。

（長瀬博一/長瀬建築研究所）



土塀・門扉越しに新築の車庫



画面左に台所・家事室を控え中央に家族室



新築車庫内部

▼門を入って右手奥に主屋、手前に土蔵



路地型共同住宅団地の継承的再開発事業

設計・監理■
地域生活空間研究所

施行■
藤木工務店京都支店

本プロジェクトは、京都の旧市街地に多く存在する袋小路状借家の一団の土地（団地という）の改善モデルとして世に問うたものである。
当事務所が平成６年から８年にわたって把握した団地は、都心４区で2,853カ所も確認できたが、密度高く立地するエリアは、西陣織や友禅染、京焼、仏壇仏具などの伝統的産業の集積地区と重なったことから、この住宅は主に伝統産業従事者の借家として供給されたと性格づけた。しかし、昭和14年に打ち出された地代家賃の第一次統制と以降の再三の継続は貸家経営者に打撃を与え、昭和21年の財産税の成立以降は諸税の物納物件となり、官吏によって売り払われて、今日では、４割が持ち家となっている。これらの住宅には、通路部分の権利がないものも多いが、権利上の欠陥に加えて、建築基準法によって建て替えができないものも多数存在する。とりわけ借家では老朽化に対しての根本的対応策がとれていない。当然のこととして、その原因は住宅に対する保全策の放棄であるが、これまでの経過から地家主を攻めることはできないであろう。平成に入ってはじめられた京都市による袋路再生事業は、借家経営の再建や居住環境の改善などを考える地家主に希望を与えた。ここに紹介する２事例は、国をはじめ京都市や住宅供給公社と地家主、借家人そして採算を度外視して工事を請け負った藤木工務店の協力によって誕生したものである。
当事務所は、袋路実態調査から住民への啓発、企画、団地整備計画、建築設計、工事監理の業務にあたらせていただいた。

（上林研二・額田泰子／地域生活空間研究所）



左から設計者（上林）と再び居住がかなった従前借家人（やまわ小路団地）







▲１号上：遠景　左下：中庭　右下：正面

▼２号上：遠景　左下：中庭　右下：正面



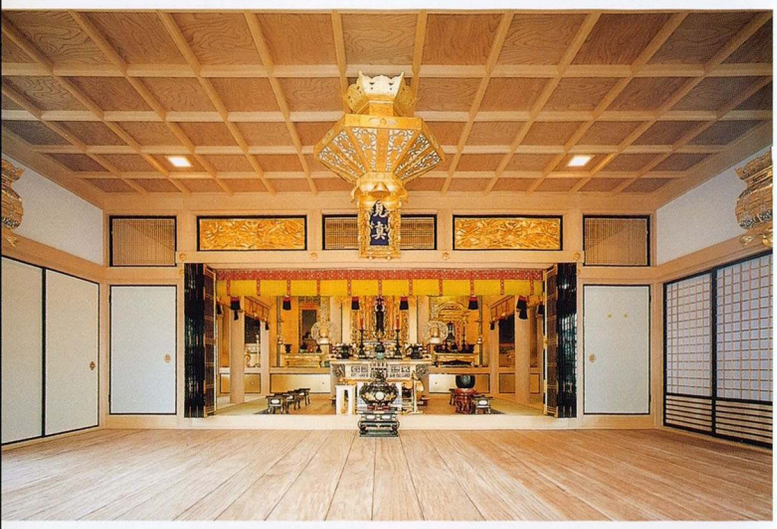




１号：優建事業玉屋山三小路団地新築工事
位置：京都市上京区一条通智恵光院東入鏡石町
施設：店舗-従前者用１戸・住宅-従前借家用３戸・特優賃用19戸・事業者用２戸
２号：やまわ小路団地新築工事
位置：京都市左京区新聞之町通二条下ル頭町
施設：住宅-従前借家用４戸・特優賃用12戸









浄土真宗本願寺派
安養山正覚寺本堂／庫裡

設計・監理　皆川隆樹建築研究所
総合請負　山本土木
施　　工　田中工務店

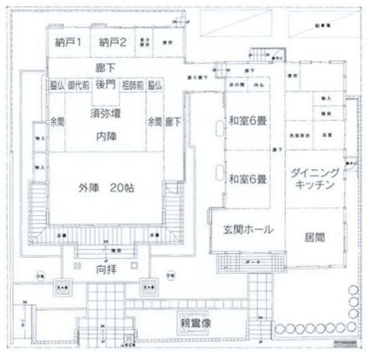
茨木市中心部より車で安威川沿いに北へ約20分、僅かな時間で市街地の喧噪から離れ、のどかな山間部へと移り、幾つかの集落を経て生保に着く。昭和46年北摂地域の治水および利水を行う多目的ダムとして安威川ダムが事業決定された。当時30数戸だった生保の村がダムに水没してしまうということで、村全体をそのまま代替地に移転ということになり、長期にわたる移転計画が始まった。

寺院は先祖を奉る大切な宗教施設、地域の儀式空間として荘厳でありたいと願う。限られた敷地の中にも本堂と庫裡が首尾よく収まり、明るく健康的な本堂となった。

寺院建築は建物、あるいは木柄の圧倒的な重量感が不変的な安定感と重なり合うところにあると考えているので、柱等も少し太く設定し計画をした。本堂の構法は昔ながらの伝統建築構法を用いて限界耐力による算定により本堂南面を全面開放とし、一部の仕上げ材を除くほぼ全てを天然無垢材で施工している。柱は吉野檜、内部造作材および外部見え掛かり材はカナダ檜、向拝柱は内地欅、本堂床はアフリカ欅を使用している。社寺瓦のいぶし銀、木の風合い、純白の漆喰壁の調和の中、垂木、長押、紅梁、木鼻、浜縁、建具、金具類のディテールを加え空間を構成した。内陣に本尊が安置され、ここにひとつの宗教空間が完成した。

（皆川隆樹／皆川隆樹建築研究所）

所在地 ——大阪府茨木市生保138-61
敷地面積 ——547.25㎡
建築面積 ——271.62㎡
延床面積 ——331.46㎡
構造規模 ——W、2F
工　　期 ——2005年４月～2006年10月
最寄駅 ——阪急バス、生保バス停
撮　　影 ——SS大阪



正覚寺平面図　1：500



諏訪神社、観音堂

監　　修　皆川隆樹建築研究所
設計監理　真中建築設計
総合請負　山本土木
建築主体　田中工務店

茨木市北部の安威川ダム建設に伴う、移転工事としてこの計画は始まった。敷地は小高い丘の上に設定され、20数戸の村の家々を見下ろすような形で地域のシンボル的な建物として計画させていただいた。宮司さんを始め、村の方々の意見をまとめ上げ、その熱意が形となって出来上がった。規模は小さいながらも一通りの機能を備えている。周りの木々が成長し繁ってきた頃に、更に神機的な雰囲気を醸し出してくれると期待する。

（皆川隆樹／皆川隆樹建築研究所）

設計に際して、神社の移転という通常では見られない計画となり、その敷地計画においても北側の風除林を鎮守の森と見立て、西に脇参道、東は開放、南に５m幅の参道石段を配し、鍵穴のような敷地とした。道路より社号、鳥居、燈篭、鳥居と通り抜け広場西に手水舎・祭器庫を設け、敷地北側を神域とする。拝殿は正面平入向拝付、幣殿は切妻造、本殿は一間社流造とし、拝殿は高齢者の参拝を考慮し、基壇を低く引分扉とした。幣殿・本殿は、神域であるので神社建築様式を踏襲した。木材には、米桧葉無垢材、内地杉・桧材で壁にも幅広無垢材を使用した。屋根照等は、神社建築の真髄であり細心の注意で計画している。屋根材は銅版葺で、後々緑青色となり廻りの自然と一体となると思う。また、本殿壁は、二重貼であり袖垣と共に一層厳格に区分けしている。なお、移転前の風情・風景を残すことと資材再利用の両面より、鳥居・燈篭・手水鉢は、既存材を移設している。　　（中西眞佐行／真中建築設計）

（諏訪神社）
所 在 地 ――大阪府茨木市生保138-53
敷地面積 ――601.13㎡
建築面積 ―― 54.83㎡
延床面積 ―― 47.47㎡
構造規模 ――W、1F
工　　期 ――2005年４月～2006年10月
最 寄 駅 ――阪急バス、生保バス停
撮　　影 ――SS大阪

（観音堂）
所 在 地 ――大阪府茨木市生保代替地内
敷地面積 ――16.00㎡
建築面積 ―― 3.80㎡
延床面積 ―― 3.80㎡
構造規模 ――W、1F
工　　期 ――2005年４月～2006年10月









京都市の景観制度の歴史的転換

福島信夫

京都市は平成15年に「国家戦略としての京都創生」策を打ち出し、京都の文化と景観を守り育てることを強力に推進することとした。これに沿って「時を超え光り輝く京都の景観づくり審議会」を設置して様々な検討を行い、施策化を図っているところである。特筆すべき点は、まず歴史的都心部を初めて位置づけ、建築物の高さ規制の切下げを実現したこと、また京都市の全ての景観制度を棚卸し、国際的に通用する景観保全システムへと総合的な点検・改善を行ったことである。本年は京都市の景観制度の歴史的転換の始りの年として長く記憶されることであろう。

主要な施策の方向

主要な施策の方向については前月号に詳しいので、ここでは簡単に概括しておきたい。

- 45m高度地区を廃止し、歴史的都心部（31m）を中央とし徐々に低減するよう高さ規制を市街化区域全域において強化。
- 旧市電の外周線以内及び伏見旧市街地を歴史的市街地と位置づけ、美観地区を拡大。種別基準ではなく地区別基準を明確化。
- 世界遺産周辺における風致地区等景観規制の拡大強化、他。
- 京都らしい景色（風景）保全のための新条例の制定。

転換にいたる経緯

直接的には日本建築学会が1998年から調査研究活動を開始し「京都の都市景観の再生に関する提言（2002年３月）」を行ったことが契機となった。京都創生策のために特設された京都創生推進室や景観企画課を先頭に都市景観部が総力で取組んできた。大局的にみると、時代がそれを受け止めたということができる。東西対立の終焉のあと世界的に歴史回帰や民族意識が高揚する時代となり、わが国でも美しい国づくり政策大綱が発表され景観法が成立した。京都学や京都検定が隆盛し京町家ブームが沸き起こっている。都心部の住民においても、高層マンションが林立するようでは京都が壊れるという危機感が広がり、これらが共鳴しあって高さの切下げに向かう機運が高まっているのが現状である。

ここに至るまでには長い期間を要した。その理由としては、私権制限を伴うまちなかの都市計画制限は市民の理解が特に難しいということと建築等の専門家の中での意識の変化に時間を要したということであろう。例えば、都市計画法の用途、容積、高度地区など全てが国の画一的な指導を受けており、都心部（商業地区）での高さの選択枝は31m、20mだけというのが始まりであった。その後規制緩和の流れに合わせ31m→45m、20m→31mと緩和された。近年の都市計画は地方の特色を活かせる領域が広くなったとはいえ、既得権益に制限を加えることは難問であった。また建築教育の面においては、桂離宮の美を紹介したことで有名なブルーノ・タウト（昭和10年訪日）が、伝統建築を評価せずコルビュジエを評価している日本の高等建築教育の誤りを指摘したことがある。しかし、近年まで修正されること少なく、風景やまちなみを理解しそれに配慮する建築設計者は少数であったことなど、専門家側の理解が遅れていたという事情もあった。

日本の宝としての京都を守り育てるための都市計画

京都市は発足当初から山紫水明の美を永遠に保持し続け、風景美を発揮することを都市計画の最重要課題としてきた。風致地区ではそれなりに保全の仕組みが出来ているが、市街地景観対策が立ち遅れていたわけである。昭和５年から始まった風致行政は景観行政の先輩であるが、長年にわたる改善の中で古都保存法や自然風景保全条例が加勢するとともに、地区別の保全計画や許可基準をそろえていることなどが先進的な側面であろう。それでも具体的な運用において、常に改善や工夫の必要が指摘されている。

新たな景観施策は市民的に分かりやすい制度設計が必要であるが、今後の運用における工夫やきめ細やかな配慮が重要であろう。特に歴史あるまちなみや京町家の持つ文化財的な価値を尊重しつつも、都市が緩やかに変化していくことを許容するパートナーシップ型の都市計画的手法を構築することが求められている。

人材育成と市民参加

建築学会第二次提言（2006年６月）では、地域の住民も参加した審査を行い、次に専門家による審査を行うという二段階制評価システムが提案されているが、その前段に、景観を理解する人材の育成が急務であろう。市職員はもとより設計者や関心ある市民も参加できる形で、京都らしい景観のあり方についての技法をトレーニングすることが肝要である。京都学における風景論を発展させ、京都らしい風景を守り育てる価値観を共有し、色彩やデザインについてコミュニケーションができるよう多くの概念や言葉を学び、京都市民の共通感覚をベースに具体的な表現や実践ができる人を育てなければならない。

利益追求型から成長管理型へという都市計画の歴史的転換は、京都市民が千年の都として大切にしてきたお互いの約束事に立脚してできたことでもある。近代化の様々な多忙な出来事の中で、一時潜在化せざるをえなくなっていた京都の誇り・美しい風景についての（洛中洛外図や都名所図会が流布したような）共通の価値観が、再び顕在化したということができる。町衆文化といわれるほどに市民社会が豊かに成熟した京都においては、美しい景観を求めることは必然のことであろう。世界遺産都市・京都の国際的な評価がより高まっていくことを期待したい。

（ふくしま　のぶお　京都市都市計画局都市景観部（土木）担当部長）

「景観」から「町」づくり－京都市景観行政10年

吉田秀雄

はじめに

平成18年８月、祇園町南側において、記念すべき催しが行われた。祇園町南側地区協議会（以下、協議会という。）発足10周年記念事業が開催され、その活動を「記念誌」と「法令集」にまとめ刊行された。また、この年は、京都市景観三条例が施行され10年を迎える。平成バブル期の土地騰貴と都心部の乱開発により、京都らしい町並みが失われるという危機感から、景観と土地利用に関し、緊急対策を講じるべきとの世論が高まり、景観三条例が平成７年３月に公布され、翌年５月に施行された。本稿では、その後の10年の経過と祇園町南側の町づくりを紹介する。

景観三条例の改正と創設

京都市の景観施策は、自然が主役の景観を「風致地区」で、建造物主役を「美観地区」で整備する棲み分けを行い、前者を「風致地区条例」で、後者を「市街地景観条例」で行ってきた。京都の山紫水明の風趣を守るために「風致地区条例」を改正し、その行政力を高めるために「自然風景保全条例」が創設された。市街地については、洛中や伏見の歴史的市街地の景観特性を守り・生かすことを主眼に、旧市街地景観条例を廃止し、「市街地景観整備条例」を制定した。

市街地景観整備条例の展開

市街地景観整備は、三種の制度で構成されている。第１は、京都の市街化区域をゾーニングするもので、「美観地区」は、旧市街地の景観特色を継承・再生することを目的とし、「建造物修景地区」は、新しい市街地の景観整備を行い、両者の架け橋を「沿道景観形成地区」が行う。第２は、補助金制度を設け、計画的に京都らしい景観を整備する制度である。地域の固有な景観特色を演出する「界わい景観整備地区」を基本に、歴史的な町並みを整備する「歴史的景観保全修景地区」と地域固有の景観資源を守る「歴史的意匠建造物」の三制度、第３は、市民の景観づくり活動を支援するもので、景観協定の締結を目指している。(＊1)

表１　景観三条例施行10年

条例	地区名	面積	指定年
風致地区条例（改正）			
	風致地区	17,831	1996年
自然風景保全条例			
	自然風景保全地区	16,202	1996年
市街地景観整備条例			
	美観地区	1,804	1996年
		1,934	2003年
	建造物修景地区	6,856	1996年
		6,726	2003年
	沿道景観形成地区		
	御池通	17.0	1999年
	歴史的景観保全修景地区		
	祇園町南	10.2	1999年
	祇園縄手新門前	1.8	1999年
	上京小川	2.1	2001年
	界わい景観整備地区		
	伏見南浜	25	1997年
	三条通	7	1997年
	上賀茂郷	22	1997年
	千両ケ辻	37	2001年
	上京北野	9	2001年
	西京樫原	18	2001年
	本願寺・東寺	26.5	2005年
	歴史的意匠建造物		
	伏見南浜地区	3件	1997年
	中京・東山	45件	1999年
	上京	60件	2002年
	景観協定		
	四条大宮	6.2	1999年
	西陣大黒町	1.2	2000年

注）面積：ha

表２　祇園南側制度変遷

年次	制度名
1996年８月	協議会発足
1999年５月	景観協定締結
1999年６月	歴史的景観保全修景地区指定
2000年９月	NPO法人設立
	私道の石畳化等開始
2002年１月	花見小路石畳舗装等竣工
2002年11月	地区計画指定（業種規制）
	防火・準防火地域の変更
2004年５月	町式目制定
2006年６月	三項道路認定（条例制定）

第２の制度については、平成９年３月に酒蔵と町家が混在する伏見南浜地区が「界わい景観整備地区」に指定された。地元では、文化財の保存制度ではなく歴史的な景観を生かす町づくりの制度として理解され、指定に反対する意見は皆無で好意的に受け入れられた。同時期に、上賀茂、三条通地区も円滑に指定された。以降、**表１**に示す地区が順次指定され、歴史的意匠建造物の指定も５年間で、百件を超えるに至っている。この地区指定後に、地域で町づくり組織が形成されるケースも見られる。

祇園町南側地区の町づくり

祇園町南側は、一力茶屋のある四条通以南の茶屋町である。町家建ての木造建築の宝庫であり、京都らしい町並み景観が継承されている。平成11年に、「歴史的景観保全修景地区」に指定された。当地区の町づくり活動は、この指定に関連し、平成８年度に町並み保全整備計画策定の調査費が計上されたことに始まる。整備計画に地元住民の意見を反映させるため、約300世帯の居住者を会員とする町づくり組織設立の総会に、住民150人が結集して「協議会」が創設された。

発足時の課題は、町並み整備と地区内の街路の美装化であった。平成11年、常に斬新な祇園らしさを追求することを目指し、上記の地区指定が採択され、それに先立ち、「景観協定」が締結された。これを契機に、祇園町固有の町づくりを実現する制度が次々に実現した。その歩みを**表２**にまとめている。町を文化財にしたくないとの思いが、建築基準法の制約をクリアして、伝統的な町並みを維持・更新する道を開いた。更に、祇園を日本、世界の魅力ある一流の社交の町にしていくことが決意され、業種規制や町の暮らしの作法を「町式目」で定めている。本地域の住民は、この10年で景観を共有することにより、新たな町づくりの門出を迎えたと思える。

注）＊１　市街地景観整備条例の制度概要を本誌1996年７月号、法令コーナーで紹介。

（よしだ　ひでお　畿央大学教授・京大工学博士）

建築協定の運営と景観まちづくり

鈴木克彦

昨年来、建築基準法等に反するような耐震強度偽装事件や不法改造問題等が表面化し、法制度の問題点や限界性が指摘されている。その一方で、住民自治により身近な住環境を自律的に管理・育成していく役割にも期待が高まっている。こうした中、住環境を良好に維持保全したり、よりきめ細かなまちづくりを目指して「建築協定」を結んだ住宅地が多くなり、京都市においても住民自治のもと持続可能な住環境づくりを推進していく手法として定着してきている。

建築協定を結ぶためには土地所有者等の全員合意が必要となるが、協定制度を有効に活用している地区では、住民合意にもとづいた増改築やコモンスペース等の共同管理を通じて、自主管理意識の高まりや協同的な住環境管理活動が展開されており、地域の課題を自ら発見し、解決していく能力を備えた地域力も醸成されている。こうした建築協定の長年の実績が評価され、2004年に新たに誕生した景観法にも建築協定制度と法的仕組みが類似している「景観協定制度」が盛り込まれており、住民主体による景観まちづくりを支援する制度として今後の普及が期待されている。

建築協定地区における景観まちづくりの特徴

建築協定地区でのまちづくりの特徴は、地域住民によって協定運営委員会を組織し、様々な住環境管理活動を展開している点にある。協定違反を未然に防止するための事前協議制度（建築確認申請前に工事内容を協定運営委員会に届け出、審査する仕組み）や日常のパトロール活動、有効期限切れに伴う協定更新や協定未加入者のための合意づくり活動等が展開されており、建築確認制度では十分にチェックできないきめ細かな対応が実現できている。個々の背景や事情に配慮して現実的に対応していけるという点も、住民自治による協定運営の効果の一つである。

また、建築協定には有効期間があり、期限に達した場合には改めて全員合意を確保して協定の認可申請をしなければならないが、建築協定の更新の際には協定内容を見直し、地域の事情や社会情勢に配慮して制限内容を変更している地区が多く見られる。こうした対応が可能なことも、建築協定制度の大きなメリットである。

実際の建築協定の運営では、活動内容に専門的な面があり、住民の憎まれ役にもなりかねないといった理由から、運営委員の人選にも手間取ることが多いが、日常的な協定運営をつうじて自主管理意識の高まりやコミュニティの醸成、人材育成といった様々な成果を挙げている。例えば＜河内長野市サニータウン緑ヶ丘＞（1974年認可）では、建築協定への理解を深めるためにガーデニングコンテストや冬のイルミネーションコンテスト等を実施し、協定未加入者の参加を促すような活動が展開されている。こうしたユニークな活動を行っている地区は、全国の建築協定地区に多々見られる。

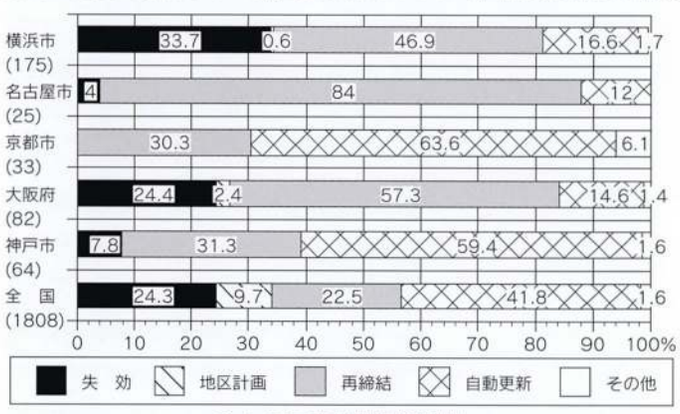


図1　建築協定の認可件数の推移（全国）

建築協定の締結状況

建築協定制度は、建築基準法の第69条から第77条にわたって定められている制度である。現在有効な建築協定は1980～1990年代に認可された地区が多くを占めるが、最初に誕生した地区は1954年に認可された静岡県沼津市の商店街である。京都市では、＜左京区下鴨第１住宅＞が協定第１号として1973年に認可され、現在まで継承されている。その後、1976年に一人協定制度[注1)]が創設されて以来、分譲住宅地に急速に広まるようになり、建築協定地区数は全国で約３千地区近くにまで増加している（**図１**）。京都市においても、これらのことが契機となって建築協定が広まることとなり、協定地区数は横浜市、神戸市に次いで多くなっている。

京都市の建築協定地区が他都市と比較して特徴的な点は、住民発意で締結された協定地区が多いことであり、合意形成が難しいとされている職住混在の都心部で７件の協定地区が誕生している。また、全ての地区で建築協定の更新に成功しているのも大きな特徴である（**図２**）。建築協定の更新は、多くの活動と時間を要することに加え、協定の更新に加わらない辞退者も発生しがちで、協定運営上の重要



注：（　）内の数値は調査協定件数

図2　都市別にみた建築協定の更新実態（2002年３月時点）

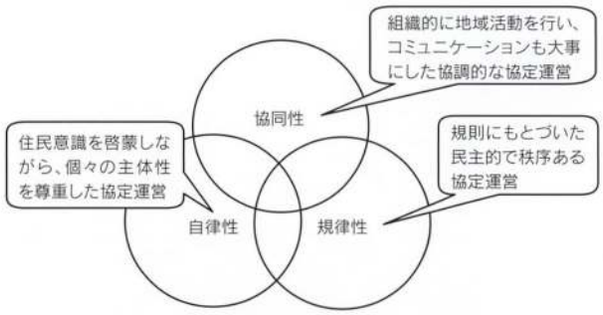


図3　協定運営活動を支える三つの側面

な課題となっているが、京都市でのこうした成果は、建築協定連絡協議会[注2)]を中心とした協定住民と行政との連携による継続的な努力の賜物である。

建築協定の運営による地域力の醸成

建築協定の運営活動は、協定の締結形態や協定運営年数、更新の有無等によって異なっており、地区ごとに特徴をもっている。そこで昨年、建築協定地区連絡協議会に参加している全国の協定地区を対象にしてアンケート調査を行い、協定運営の特徴を把握した。データの解析は数量化理論Ⅲ類という統計的手法で行ったが、協定運営活動には「協同性」、「自律性」、「規律性」という三つの側面があることが分かった（**図3**）。

これらの側面の醸成実態から建築協定地区の地域力を評価したらどうなるであろうか。まず、地域紛争等を契機に地区住民が自主的に締結した合意協定地区では、住民意識が当初から高いこともあり、「協同性」「自律性」とも高くなっている。一方、「規律性」は宅地開発事業者等が分譲前に締結した一人協定地区の方が高くなっている。これは、入居時から建築協定が存在し、住環境ルールに対する受容意識が高いためであり、協定運営年数が長い地区ほど「規律性」が高まっている。また一人協定地区では、建築協定を再締結した後には「協同性」と「自律性」とが高まっており、再締結をきっかけに協定運営が成熟している[文2)]。このような結果は、住民意思を再確認する手続きで進められた更新活動が、一人協定地区では特に重要な取り組みであることを裏付けている。

地域力を高める建築協定の運営方法

それでは、協定運営実態の分析結果から、各側面ごとに地域力を高めるような協定運営のあり方を提示したい。まず、「協同性」を高めるためには、運営委員になりやすい雰囲気づくりに心がけ、多くの住民たちが協定運営に参加して、コミュニティ形成を大切にしながら協定運営を推進していくことである。最も「協同性」が高かった＜横浜市西武金沢文庫＞（1972年認可）では、更新のたびに協定者数を増やし、協定区域隣接地に対しても建築工事の事前届出制を実施している。

また、「自律性」を高めていくためには、建築協定の更新機会を大切にして、住民の主体的行動に委ねられるような意識啓発を図っていく企てが重要であり、協定運営委員会を自治会とは独立した組織として主体的に運営していくことも大切となる。最も「自律性」が高かった＜横浜市桜台住宅＞（1981年認可）では、建築工事の際には関係者と工事協定を締結して、トラブルの未然防止に備えている。京都市の協定地区では、住民合意協定で市内最大規模となっている＜右京区大原野右京の里＞（2000年認可）で最も自律性が高くなっている。

表1　地域力を高める協定運営の方法

	協定運営の方法
協同性を高める協定運営	1）多様な協定運営活動を実施 2）未加入者への働きかけ 3）多様なコミュニティ活動を実施 4）工事内容の表示と監視 5）運営委員会を頻繁に開催
自律性を高める協定運営	1）運営委員を長期に務める 2）役所との連携を深める 3）信頼できる協定運営委員長の養成 4）住民からの協定違反の通報 5）日頃から未加入者との付き合いを重視
規律性を高める協定運営	1）生活ルールを設ける 2）多様な協定運営活動を実施 3）建築工事は近所の同意を義務付け 4）未加入者への協定PRや日頃の付き合い 5）運営委員を民主的に選出

三つ目の「規律性」を高めていくためには、近隣トラブルを生じないように豊かなコミュニティ活動を展開していきながら、誰もが建築協定を運営できるような確固たる協定運営体制に整備していくことが大切となる。そのためには、専門家がいなくても的確な協定運営を行えるように協定運用細則を設けたり、専門家が顧問のような形で運営委員会に参画すること等、協定運営の手続きを明確にすることである。最も「規律性」が高かった＜横浜市金沢文庫パークタウン＞（1984年認可）では、増改築マニュアルを発行し、協定違反者に対しては「違反事項確認書」を提出させるなどして建築協定の効力を高めている。

おわりに

住民合意をふまえずに締結された一人協定地区においても、協定運営をつうじて建築協定への関心が高まり、建築協定の更新の際には地域の実情に合わせて協定内容や協定区域を変更するなどの様々な対応がなされており、地域コミュニティによる持続的な住環境管理が定着しつつある。建築協定を活かすための運営方法では、運営委員が協定違反の監視・パトロールを行い、建築工事の際には近所の同意を義務付けて、協定未加入者に対しては日頃から建築協定への理解を深めるような取り組みが全体的な地域力を高めている。歴史都市京都の景観を保全・創出していく仕組みにも、このような協定運営の知恵を活かしていくべきであろう。

注1）一人協定制度とは、土地所有権者等が1人でも建築協定を締結できる制度で、協定認可後3年以内に所有権者等が2人以上になった時に発効する。

注2）建築協定地区連絡協議会は、各協定地区の運営委員会と連携して協定運営上の諸問題の解消を目的として活動しており、京都市では1990年に設立されている。他都市では、横浜市、神戸市、大阪府、名古屋市にある。

参考文献

1）鈴木克彦：建築協定の認可実態からみた協定更新の要因について－建築協定地区における持続的住環境管理システムに関する研究（その1）、日本建築学会計画系論文集、第601号、pp.9～16、2006.3

2）鈴木克彦：建築協定の更新による持続的協定運営の醸成実態について－同上（その2）、日本建築学会計画系論文集、第607号、pp.9～16、2006.9

3）鈴木克彦：建築協定の運営とまちづくり、鹿島出版会、1992.6

（すずき　かつひこ　京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科助教授、工学博士）

京都市の建築協定
—住民自治による環境づくり—

望月秀祐

建築協定制度のはじまり

京都市は歴史的・伝統的な千年の古都として、すぐれた建造物などの文化財を保存してきた。まず、昭和５年（1930）に風致地区、昭和42年（1967）に歴史的風土特別保存地区が指定され、自然景観の保全・保存が図られた。続いて昭和47年（1972）に美観地区、昭和51年（1976）に伝統的建造物群保存地区が指定され、市街地景観の修景・保存が図られてきたが、さらに平成19年度には都心部を中心とした新しい景観まちづくり制度が始まろうとしている。

しかし、一般的な住居系や商業系の用途地域内では、都市計画法に基づく建築基準法による普遍的な規制しかなかった。昭和25年（1950）に施行された建築基準法第１条（目的）で、「国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進に資するため、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する最低の基準を定める」としている。

意外にも、同法第４章で最低でない基準が存在していた。それは「建築協定」であった。

建築協定制度のあらまし

昭和47年（1972）７月６日、京都市建築協定条例が制定された。建築基準法第69条で、「建築協定」というミニ自治権を特定の市民に与えることについて、自治体の意志を決定するための条例化を義務付けたものであった。

建築協定の担当部局は、当時京都市住宅局建築審査課（現在は都市計画局建築指導部指導課）で、同課では新しい建築協定制度の普及のため熱心に市民へ呼び掛けた。

そもそも、建築協定の目的とは何か。同法第69条で「市町村は、その区域内の一部について、住宅地としての環境又は商店街としての利便を高度に維持増進する等建築物の利用を増進し、かつ、土地の環境を改善するために必要と認める場合においては、……（一部省略）土地の所有権者等が一定の区域を定め、その区域内における建築物の敷地、位置、構造、用途、形態、意匠又は建築設備に関する基準についての協定を締結することができる」とされた。

京都市における建築協定の第一号は、昭和48年（1973）12月25日付けで市長認可を受けた「左京区下鴨第一住宅地」であった。奇しくも同日付で当時での新用途地域制（第一種住居専用地域、第二種住居専用地域、住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域、及び工業専用地域の８地域）が施行され、その新しい基準に合わせて京都市の建築協定制度が始まったわけである。

その後、市内での建築協定区域は年々増加し、現在では71区域の多きを数えるに至っている。（図１）

建築協定制度は、宅地開発時期別に２種に大別される。

第一は既に宅地開発及び建築がほぼ終わっている地域で、一部に商業系用途地域（実態は住商混在）があるが、殆どは住居専用地域で、それぞれの望む環境を維持させるため建築基準法に定める基準より厳しくしようとするもので、「住民合意型」または単に「合意型」と称され、住民みずからの意思が強く反映されている。

第二は新しい宅地開発の許可を受けて事業に着手する時点で、宅地、建物開発事業者が単独で望ましいと判断した建築協定を締結し、後に土地・建物を分譲した時点で建築協定の効力が発生する制度で、「一人協定型」または単に「一人型」と称され、環境保全は自動的に継承されることになっている。

現在、合意型は23区域、一人型は48区域の割合になっている。

建築協定の手続き

建築協定を成立させるためには、建築基準法第４章（第69条から第77条まで）に定める手続きが必要となる。まず第一に建築協定地域を定める。第二に建築物に関する必要な基準を定める。この基準は用途地域内で本来認められる基準であっても、より良い環境を維持するため、例えば住居専用系の用途地域内にあっても、一戸建専用住宅に限り、共同住宅や長屋を認めない。道路や隣地境界線から一定距離以上建物を後退させる。敷地の最小の大きさを定めて敷地を分割させないようにする。宅地の地盤高・軒高の制限をする。外壁の色彩基準をつくる。など様々な基準をつくることができる。

その他、建築協定の有効期間及び建築協定違反があった場合の措置まで定めた建築協定書を作成し、市長の認可を受けなければならない。（同法第70条第１項）

ここで手続き上、大きな問題になるのは、建築協定書には、土地・建物の所有権者等の全員の合意がなければならない。（同法第70条第３項）とあることである。一人協定型の場合を除き、一定の区域内で公法上認められる基準より厳しい基準をつくろうとする場合、全員の合意を得ることは大変難しい。必ず相当数の不合意者が出る。この場合、建築協定区域は不合意地を除いた「穴抜き」の区域にならざるを得ないが、現在では手続き上はそのように進められている。

平成７年の同法改正で建築協定区域隣接地という新しい制度が追加されたが、隣接地といえども建築協定区域外である。したがって、この隣接地には建築協定の規制が及ばないから実質的な規制効果はない。ただし、隣接地を所有する権利者が、単独で市へ加入手続きをして建築協定の合意者の一人になり協定区域に入ることができる利点がある。



桂坂地区
建築協定地域
（一人協定型）



阪急桂南住宅地区
建築協定地域
（住民合意型）

建築協定の認可を得るまでには、建築協定の公告・縦覧（同法第71条）及び公開による意見の聴取（同法第72条）があるが、合意した人々だけの手続きであるから特に問題は出ない。

この建築協定の効力は建築協定の市長認可・公告があった後に、他人に転売されることがあっても、建築協定の効力は引き継がれる。（同法第75条）

建築協定の有効期間は、なかには５年もあるが、大半は10年で特に意見が出なければ、さらにもう10年自動更新できる制度も活用されている。また、建築協定を廃止するときは、過半数の合意があればよい。（同法第76条）

京都市建築協定連絡協議会の活動

平成２年、市内の建築協定区域の増加に伴い、各協定区域内の相互の連絡・協議・研修等を図るため、事務局を京都市とする京都市建築協定連絡協議会が設立され、すでに16年を経ている。

会の構成員は、各建築協定区域の運営委員の中から選出され、会長１名、副会長２名、会計１名、監事１名、実行委員若干名、事務局若干名（京都市職員）で、年10回程度の役員会、それぞれ年１回の総会・他都市見学会・地元建築協定区域との協議会を開催し、定期的に広報資料の配布を行うなど、この連絡協議会の運営は適正かつ円滑に行われている。

地区計画との関係

建築協定によるミニ自治体的環境整備は住民自治のモデルとなるものであるが、合意者のみの権利制限であるため、合意しない周辺隣接地に建築協定の意図に反する建築がされる場合がある。これは商業系の建築協定区域にその傾向が強い。

一例を挙げると、建築協定で建物の最高の高さ制限をしていても、その制限を受けない隣接地に高層マンションが建築されても、法的には拘束されない場合である。これを救済するためには「地区計画」という都市計画手法がある。この都市計画決定手続きは地区内の一部の権利者が反対しても、大半の権利者の賛成により決定される利点がある。難点といえば手続きに相当の日時を要することである。

実例を挙げると、平成元年８月15日、京都市中京区麩屋町通笹屋町地区の一部（近隣商業地域、一部商業地域）（図１）が建築協定区域に決定されたとき、合わせて全域に地区計画が決定され、条例化もされた。建築協定期間（５年）も更新を重ねて現在に至っている。当然のことながら、地区計画の効力は不変である。

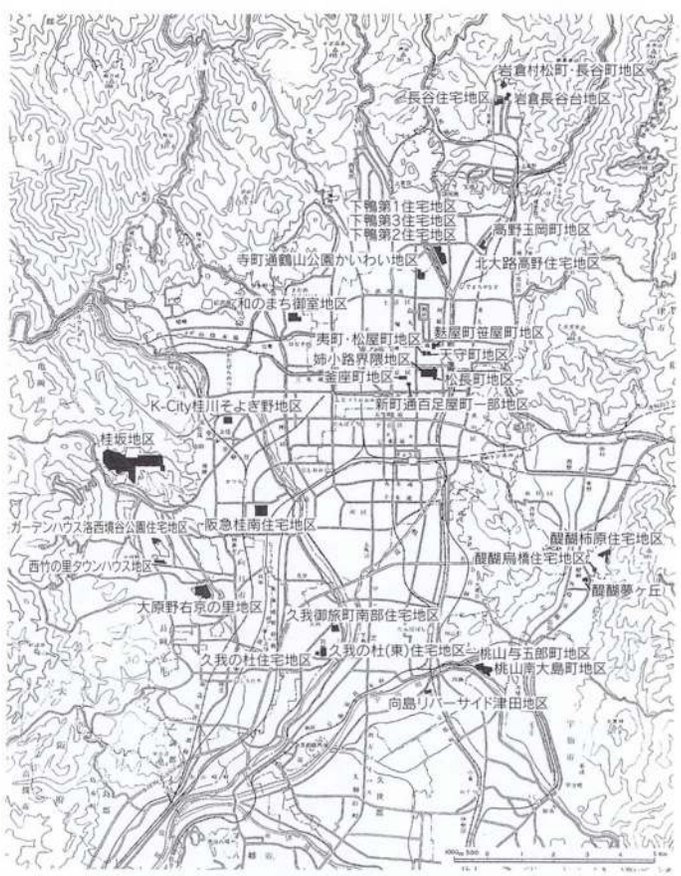
この他に京都市西京区桂坂地区（図１）にも地区計画決定が多く併用されているが、一人協定によるものであったのでその手続きは容易であった。建築協定と地区計画を併用することについては、この連絡協議会でも度々論議されているが、反対者への説得が相当難しいこともあり、今後継続して検討することになっている。

むすび

建築協定制度は、環境保全上、地域住民の真に切なる願いが込められている。とかく、新しいまちづくり制度は行政府が地域を特定し行政主導型で実行される場合が多い。しかし、建築協定は明らかに住民主導型であることは良い。

従来は、この住民主導型を地域エゴ的と曲解する向きもあったが、現在はその評価が明らかに変ってきている。これは地元の建築協定地区運営委員の長年の地道な努力に負うところが大きい。今後われわれ建築士もこの建築協定締結の諸手続きを進めるにあたり、直接参画する機会を積極的に持たれることを切に要望するものである。

（もちづき　ひですけ　㈱日本建築協会京都支部長・京都市建築協定連絡協議会会長）



京都市内の建築協定地区（図１）

来てみて良かった京のまち

その願いが適うか？：過去・現在・未来をみる

蓮佛　亨

まえがき

52年間、暮らし続けてきた京のまちはどうなっているか現実を見て論評し、意見を述べる機会を与えられて勇気を出して引受けた。私は建築設計監理を主体とする業務であるが、初期の頃より「都市と地方計画」の分野も詳しくなり、都市の有様をリアルに観察し、地域や町並みを建築のように生活する空間として見るようになった。1990年10月に鳥取県大山（だいせん）町で開かれた三つの大山町（大分・富山・鳥取）の共同セミナーにて講演した内容を土台に記述してゆきたい。「まちづくりに於ける構想計画」のテーマは、「歴史的景観とまちづくり」「まちづくりの構想」西山卯三著・都市文化社1990年６月発行を読んで纏めた。今回の最終答申によって、田中角栄に象徴される「土木国家・日本」への方向から脱却し、京都の歴史・文化と市民の生活と生産を基調にした都市像の積極的な創造（**挿絵Ⅲ**）に一歩ふみだす機会とすることが出来ると基本的に評価した。

土地価格高騰の波は東京からやってきた

生活空間の高集積は、非人間性を覆い隠した都市空間づくりというほかはない。1983年中曽根内閣は、第二次「列島改造」を行い、民間活力による自由な開発が出来るようにリゾート法など規制緩和を開始した。「四全総」は東京一極集中化を促進し、24時間稼働の世界都市に飛躍させた。ここで「狂乱地価」が出現し、見る見るうちに全国の大都市に波及し、それまでの町並みを破壊し、地上げ行為により、住民を追い出し、高層ビルやマンションの乱立状況を生み出した。この波は京のまちにも波及して来たのである。

1957年京都建築事務所創立以来、事務所は中京区に置いてきた。「京のまちの良さを生かし中京まちづくりを考える協議会」（1984年７月創立）の代表に就任し1996年退くまで、中京区の変貌ぶりを目の当たりにしてきた。人口は減少を続け、退任の直前には12万人が10万人を割っていた。建物の高層化と二条駅跡地利用計画の反市民的な計画配置に反対することを目標にして協議会は活動した。

土地の高騰を契機に住民は相続税の捻出に困るなどして土地を手離し、あちこちに発生する空地を地上げ屋が集積させ、一定の広さの土地が確保できると、企業・資本に売渡し駐車場として利用されているが、その裡に高層建築の企画を始め営業ビル、マンションとなる。1980年代初期より実施されたビルの規制緩和は、田の字型の大通りの沿道は45m、中の部分いわゆる”あんこ部分”は31mの高さまで許されたのである。さらに総合設計制度を適用（1988年）して京都ホテルオークラを建て、規制をはずし「特別地区」として京都駅舎の高層建築（高さ約60m）が許されたのである。さらに城南宮より南に京セラビル（高さ約100m）、南区向日市との境界には日本電産ビルが100m級の高さで建ったのである。これらを繋ぐが如く高架による高速道路が油小路を十条まで北上し、東に迂回して東山を潜り抜け大石神社に出て外環状線に繋がる。NO^2による空気汚染度は田の字型の中央部から更に北部までひろがり、自動車による空気汚染はただならぬところまで来ている。京のまちは三方を山に囲まれた盆地であり、比叡山から城南宮へと吹き抜けるかすかな涼しい風が蒸し暑さを凌がせたものであるが、汚染した空気は盆地の底に滞留しているのである。

規制緩和後のまちの出来事

1992年末に、都市計画地図を用いて幾つかの高層ビルにのぼり、故西山卯三先生（住宅・都市計画）と新聞記者と私の三人は東山を眺めつつ都市の姿をチェックして回った。二条城前の京都国際ホテルの屋上から鳥瞰図を描くことになった。先生は、私に描くよう望まれたが都合で辞退し、先生自らお描きになった。法廷での証言集「京都の景観・私の遺言」の表紙絵となり、先生の絶筆となった。高いところから鳥瞰図を描いて市民に示し、まちづくりの正しい認識を社会的に知らせなければならないと指導されたのである。このときの絵（**挿絵Ⅰ**）が示しているように、左手の京都新聞社の高さは31mで、その水平線の範囲に殆どのビルが収まっていて、ただ一つ市消防局の塔屋のみが突出していた。ところが12年後に私の描いた同位置からの絵（**挿絵Ⅱ**甦れ京のまち）は、多くのビルが水平線を越えており、その代表的なのが京都ホテルオークラである。ビルの頭部は凸凹になって見え、東山の美しい山並みの姿と対照的に、何ともいえない複雑な景観となってしまっている。

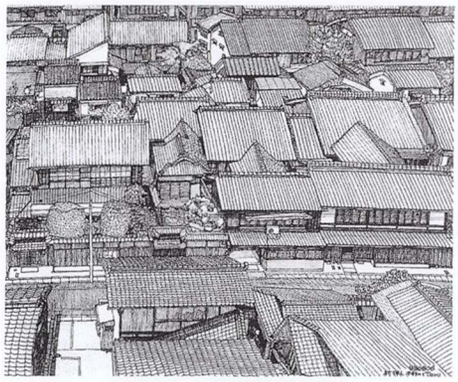
京のまちは坊条制の名残を生かして区画し、その中に敷地を割り付けたから、間口は狭く奥行きの深い区画割が、南北に振れないで配置されている。そこに空地が生まれてマンションが建つが一定期間は山の姿がよく見えて素晴らしい景色であっても、隣接する敷地



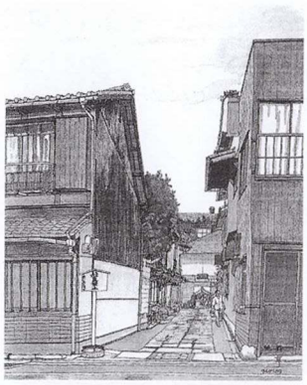
挿絵Ⅰ　西山卯三（1992年12月画）



挿絵Ⅱ　甦れ京のまち　蓮佛　亨（2004年11月画）



挿絵　Ⅲ　室町の屋並み



挿絵　Ⅳ　楠小路

京都市中京区と下京区の人口

単位・人	90年	98年	05年	06年
中京区	94,676	92,694	102,141	101,748
下京区	73,457	70,603	75,438	75,708
計	168,133	163,297	177,579	177,456

90年、05年は国勢調査人口。98年は10月１日時点、06年は４月１日現在。

一杯にマンションが建てば山の景色は見えなくなる。斜めに見れば建物の隙間から微かに見えるというのではなくて京都の場合は見えなくなるのである。隙間のない箱詰めのような生活空間となり後継者もなく空き家になってしまう恐れがある。行政はそんなことも考慮せず45mの高層マンションを許し、350棟は建ったとあるテレビは報道している。いわゆる鰻の寝床といわれる敷地には坪庭をもっている緻密な生活空間が存在していた。府立大学の林学関係者が調査した結果、坪庭に生えていた樹種は100種以上あり、御所に植生する樹種よりも多かった。ところが南北が殆ど振れていないため、南に高層マンションが建つと全面的に日陰となってしまい、陽射し３時間を必要とする樹木はやがて枯れ果てていく。高層建築が許されたこの20余年間に、どれだけ日照・通風など生活空間としての環境破壊が進んで行ったか計りしれない。日本の大都市の中でも京都は、最悪の住環境を作り出してきたと言える。

市民の歴史を印す町家建築群が残った

2006年３月「時を超え光り輝く京都の景観づくり審議会」の中間とりまとめがあり、同年４月市長のダウンゾーニング声明があった。それは主に次のようであった。田の字型幹線道路沿道地区は45mを31mにし（10階程度）職住共存地区（あんこ部分）は31mから15mに（５階程度）2007年度早々から施行すると。

中間とりまとめは京都の景観形成のあり方のところで、「悠久の時の流れの中で培われてきた歴史都市・京都の優れた景観を守り、未来の世代に継承することは、現代に生きる私達一人一人の使命であり責務である。このことを踏まえれば、京都特有の風土や伝統文化と無関係に変容し続けている京都の景観の現状は、容認されるべきものではない」。更に、「景観を構成する建築物、工作物、屋外広告物、緑地等が、たとえ"私有財産"であっても、景観が"公共の財産"であることを十分理解・浸透させてその高さやデザインなどを制御していかなければならない。そして、景観の公共性にたいする配慮に満ちた京都の優れた景観の価値をあらためて認識し、それを京都にとどまらず、日本や世界の共有財産として尊重する必要がある」と提言している。

更に、2006年11月に出された最終答申で、眺望景観や借景の保全について「永い歴史の中で京都の人々の共通の楽しみとして生活文化に根付いてきたものであり、見る側の文化的背景や感性も含まれたものとして、これらを総合的に捉えるべきである」とし「緊急的に保全施策を講じる必要のある視点場と視対象とを組み合わせた38箇所について、具体の検討施策の検討を行った」と述べている。

これでしっかりした答申を審議会は取りまとめたと私は高く評価する。京都市は永い歴史の過程で古都保存法の施行以来様々な条例を施行し古都を保存する手立てを積み上げてきた。その蓄積を基礎に国は、そこから学び「景観法」を成立させたといわれる。それだけに京都の場合はより積極的に景観法の趣旨をふまえてそれぞれの分野にわたって施策を実行しなければならない。にもかかわらず20年もの永きにわたって高層建築を許し、議会・委員会などでは法の理念や言葉は口にはするが行政上は実施しないことの繰り返しであった。この事実は指摘せざるを得ない。しかし、京都市民は規制緩和以後も町家建築群を残し守り続けて来たのである。その動向は地価の値下がりと呼応してか、手離したりはせずリフォームして、家賃は低くなっても収入をえつつ、ともかく、町家建築群を残し、町並みや景観を残し続けたのである。広範な市民を結集した「まちづくり市民会議」は昨年の６月で12回の総会を重ね、21年にわたって市民の運動を励まし続けたといえる。このことは高く評価すべき市民の自立的な取組みの成果であり、更に「まちづくり憲章」を地域・町内ごとに確認して、「地域協定・地区協定」の指定を求め地域の環境保全を進めて、粘り強く地道な努力を重ねてきたのである。最近は町家をリフォームする仕組み（町家ファンド）を作るなど町家を残すため市民の叡智を集め活動が始まっている。

京のまちの未来は！

京都の主要な建築設計事務所で構成している京都建築設計監理協会をはじめ、京都府建築設計事務所協会の会員や、建築士会の多くの建築士が認識して立上り、町家のリホームなどまちを残すために奮闘している形跡があちこちで伺える。しかし未だ未だテンポが遅く、安心ならない事柄も幾つかある。その第一は高層構築物であってもデザインが良ければ認めてもよいとしている。これは過去の経過からすれば今後抜け道に利用される。第二に容積率は規制していないので道路沿いの高さは規制に従っても、奥深く建て増しすることを許している。第三に人口が徐々に回復して来つつあるが、この住民は定住する市民になりうるかどうか不安である。もっと住宅の共同建て替えが（挿絵Ⅳ）進まないものかと思う。第四に既に建ってしまった高さ45mのマンションの今後をどうするか、空き家の発生は危険であり綿密な対策が必要となろう。第五に郊外地の交通過疎地域に対して公共交通網の整備とマイカー規制、コミュニテイバスの必要性など、高齢者の足をどうするかが緊急な課題である。市の行政の立ち遅れをどう克服するかが問われている

（れんぶつ　とおる　建築家）

山紫水明の都は今

アレックス・カー

日本への興味のきっかけ

私が通っていた小学校には中国語を教える授業があったんですが、授業を受けるうちに漢字に興味が湧いてきたんです。その後、中学２年生のときに父の仕事の関係で日本に来ましたが、小学校で習った漢字が周囲のあちこちにあったのが子供ながらに面白かったですね。私が日本ではじめて覚えた漢字は“株式会社”の４文字だったんですよ。道路を走ってる車によく書いてありましたからね(笑)。その時ですね、日本が私の中にスーッと入ってきたのは。その頃、横浜や東京都内にある日本家屋を観るチャンスがたくさんありまして、だんだん日本に興味を持つようになりました。

いずれアメリカに帰ったら大学に入って日本のことを勉強しようと中学の時に自分で決め、エール大学では日本学部に入って勉強しました。その後、ある私の先生に「日本をきちんと理解してずっと日本に住みたいと思うのであれば、中国を知らないとだめだ」と言われて、オックスフォード大学へ入って中国語や中国学を学びました。その間にも日本へはよく来てましたね。

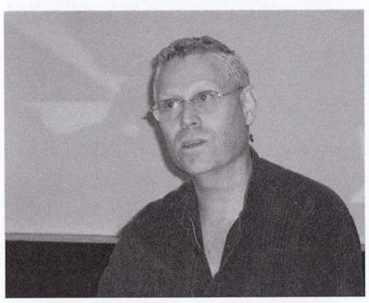
観光立国

日本はサービス業を抑えて専ら生産業に力を入れてきました。経済大国は観光で稼ぐものではないと考えられた。今でこそ観光立国などと言ってますけど、それまでの日本の考えは観光が発達していないのは良い事だと思っていたんですよ。外国人を日本に呼ぶことに日本もそれから京都も力を入れていなかった。ようするに観光を軽視していたんですね。

そのため、国内観光は世界のデザインセンスとサービスノーハウに遅れてしまいました。ほとんどの京都のホテルは蛍光灯、アルミサッシが目立ちますね。それから変なシャンデリアやピカピカの真っ白な大理石。壁に飾ってある絵は京都の絵ではなくパリの絵だったりしていますよね。世界レベルでみたら本当にちゃちなモノです。

僕は今、日本とバンコクを半々の割合で生活をしている。

バンコクはずっと観光業を大事にしてきましたから、とても魅力的な“まち”です。ホテルなどではタイの絵を飾っていたり、花は綺麗なタイの花を買ってきて飾ったりしている。日本にも素晴らしい資源がたくさんあるのにタイのように活用していないですね。



アレックス・カー（Alex Kerr）

それから京都では英字新聞を置いていないホテルがあったりしますけど、タイでは英字だけではなくフランス語、デンマーク語、イタリア語、ドイツ語、中国語などの新聞がズラーッと並んでますね。つまりタイのホテルは世界の嗜好、現代の嗜好にあったものを提供しているんですね。日本の場合、デザインにサービスとあらゆるものが遅れています。ホテルのマネージメントとは何か？ということを考えていないんです。その地域の文化を上手に取り入れながら、かつ、現代センスがあってはじめて魅力あるホテルなのに、日本の観光業はそれを勉強してこなかったのです。

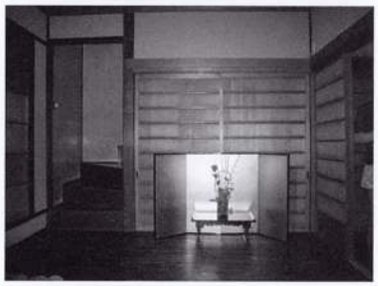
もちろん京都でも「ハイアットリージェンシー京都」や「俵屋旅館」のようにとてもよくできたところもありますが、多くの旅館の場合、「現代人」の嗜好にあっていません。たとえば、部屋の中は暖かいのだけど一歩廊下に出ると寒いなど館内全体に暖房がゆきとどいていなかったり、便所が遠かったり、素晴らしい江戸時代の玄関口なんだけど、きつい緑色の絨毯だったり、やたらと看板だらけだったりする。ホテルのデザインやレストランのデザインが、現代人（特に日本の文化人あるいは外国人）が喜ぶようなスペースになっていないですね。



観光とは何かを勉強していないんです。観光客が旅行に来てその町のすばらしい観光名勝を訪れたとしても、結局は宿泊するホテルや旅館、宿泊する部屋がその町の印象の５割から７割くらいを占めてしまうことを忘れてはいけない。外国人が何を求めて京都にやってくるのか…。つまり京都に観光に来る人の思いに答えていない。観光業って何か勉強していないから、外国人にアピールしようとしていない。国内の客とは違い海外の客はここのところをシビアな目でみているんですよ。旅館などは「美しさ」が勝負なのだからそこに徹底的に力を入れないといけない。京都に立派な世界遺産があるとしても泊まるホテルや旅館が面白くないと、それはやはり楽しくないんですよ。先ほど言った「俵屋旅館」は素晴らしい旅館ですけど、残念ながら結構高くてビップな人しか手が届かない。中間レベルの旅館が少し手を加えてくれたらみんなが喜んで泊まれるのにと思いますね。

「文化と歴史、シックで美しいデザインセンス、便利」それを上手に統合することは一種の技術なんです。日本の設計業界はそんな技術を学んでいないから、大理石とシャンデリア=豪華でいい！と単純なデザインセンスに陥っているんです。それは世界が思う豪華ではなく数十年前の古い豪華なのに。だから日本のホテルのロビー


①


②


③

①〜③
アレックス・カー氏
プロデュースの町家
「庵」

に入ったときに、古臭い、こんなものかと思ってしまう。日本はその意味でまだ発展途上国と言っていいですね。

私は経済大国であり先進国の日本が、なぜ次のステップへ行けなかったのか疑問なんです。実は現在、白川郷は土産屋と駐車場で環境がずい分とおかしくなり、世界遺産の危険リストに上がる寸前です。日本では世界遺産とは何なのか？観光って何なのか、観光業者と住民はあまり分かっていないですね。

京都に否定的な京都市と京都市民

京都市は、高さ制限、容積率、建ぺい率、そんなことばかりを指摘してきましたが、それは景観とは残念ながら遠いです。

京都の問題は、町家が壊された後に何が出来たかということです。町の味を取り入れる建物ではなく、むしろそれを否定するようなグリーンやイエローを使用し、まるでアニメから出てきたような色で家を建てています。つまりこのような色が文明なんだと思っている。京都の味にあった建物は古臭くて恥ずかしいという思いが強いんです。京都タワーや京都新駅舎は京都の美しさ、京都の文化を否定してきた京都市民の象徴ですね。だから、京都は非常に難題ですよ。京都に対する愛情が無い、無いから京都は到底救われないんじゃないかと思うんです。

京都らしさを残すにはどうするか。ひとつは税制面を緩めなければならない。町家などちゃんと残してくれた家に対して固定資産税を軽くする。パリやローマはそういうところをきちんとやっていますよ。次に新築する場合は色や材料を指定をする。ピンクやイエローは京都ではありません。それから、看板規制ですね。京都は看板規制をわりと厳しくやっていると言ってますが、あんなのは生ぬるい。マンハッタンの場合、ブロードウェイ以外では２階以上は看板が一切ありません。ハワイでは大型看板が一切禁止です。

色彩規制もありますね。京都市もやってはいますが、マクドナルドの看板の色を強い赤からちょっと焦げ茶色にした事をすごく自慢していますね。しかしあの程度で自慢するのは恥ずかしい。京都のやり方は大きなケガにバンドエードを貼るくらいのものですね。

なぜ西陣はお店が潰れてきたか。着物の似合わない町を京都がつくったんです。これでは着物産業はダメになるに決まってますよね。「経済性、経済性」と言いながら景観をダメにしてきたが、その景観そのものは京都経済の基盤でしたから、京都市は自ら京都の経済をダメにしたと思いますね。

これは京都市が景観を勉強していないということですね。ほかの文化都市がどういうことをしてきたか勉強していません。景観サイエンスが分かっていないんですよ。

再生の技術

例えば町家などを残す場合、大体の家の骨組みを残して、大事なところは職人さんのすばらしい技術を取り入れ、現代の材料を上手に取り入れながらバランスをもって綺麗にやっていくと、意外と安くできてしまうものです。

大事なところは大工や左官の技術を取り入れながら、現代的な材料や設備を設置することです。そうすると本当に家が光ってきます。みんな頭からそういうものは不可能だと思ってしまうから壊してしまうのでしょうね。もちろん、これにもやはり国や市の援助があれば改造したい人は助かるはずです。

日本の設計者と施工業者は再生の技術を勉強していないですね。古い家に住み続けるのではなくて、現代人が住めるような快適さに持っていかないとダメですね。つまり古い家の改造修理、維持をして現代人としての住み方、快適に住む技術を身につける。それをほとんど取得していません。だから古い家を持っている人は壊すしかないと考えるんです。たとえばパリやロンドンの郊外は、日本以上に萱葺き屋根の家がたくさん残っています。彼等はけっしてお金持ちではないですが、産業革命以降200年の間に家を維持していく知恵が少しずつ身についてきましたので、古い家に住みながら電気を取り入れ、下水道を取り入れるという技術があるんです。

日本の場合は、壊すか汚いままに住むかのどちらか極端な選択になってしまうのです。

一番大切なのは何か。それは「家に対する思い」ということです。これもある意味での技術かもしれません。サンタフェ、マンハッタン、サンフランシスコなどは頑張って一軒一軒に規制をかけて家を残してきました。京都市の行政も市民も残念ながら京都にプライドと愛情が無さすぎます。それがあれば残す方法はいろいろと見つけられるのに。こういうのは努力次第、気持ち次第です。サンフランシスコ、サンタフェ、ペニスの人々は外観を守ろう、町を美しくしようという思いがあります。だから、世界中の人たちが見に行きたがるのです。京都はそういうことを考えてなかったから、外国から観光客が来なくなったんですね。



（話：アレックス・カー　東洋文化研究者
聞き手：山口　明・長瀬博一　―庵にて収録―）

※アレックス・カー著書：「美しき日本の残像」（新潮社）
「犬と鬼」（講談社）

千年の都、生かすも殺すも京都人の考えしだい

山本良介

2006年の夏ガランとした御池通り、汗を拭き拭き、チョット用事があって歩いていた。太陽は容赦なく照り、風は無風である。

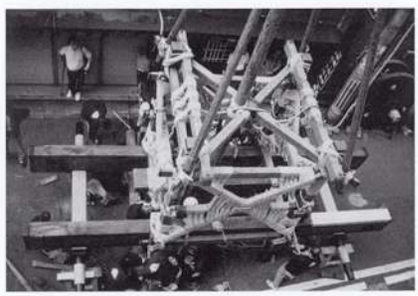
かつてこの道は欅の大木が日陰を作り歩行者には一幅の清涼で、欅から欅を渡り歩くこと、この通りの楽しみの１つであった。なつかしい風景が思い出されるのだが———。今は必要以上に「だだ広い」歩道が何の工夫もなくドーンと東西に通る。西日サンサンであること分かって整備をしたのだろうか。

（こんな道、誰が思いついたのかと汗を拭き拭き歩いた。しかも京特有の逃げ水が先へ先へ進んでゆく。…暑い。）

まるでどこかのビルに入って、雨宿りならぬ「汗取宿」をしながら、ビルからビルに渡り歩いて涼を取りながら前へ進めとの心優しい道なのか。せめて植木を千鳥に植え、西日をデザインする。いい影を落としてくれるだろうに。

聞くところによると、「祇園祭の巡行を見るために作り出したとか。観客席をつくって拝観料を取る。「せこいことするなよ」と、いいつつもお金を払って仮設の折りたたみ椅子に座って…。雨の中の観覧である。参った。





今度は今度で、京の洛中、田の字地区というのだそうだが、中高層建築ご法度との条例を作り出した。つい先日までこの地域、高度化をして土地効率を上げようとしていた地である。しかも建築論、京都建築の視点美、まだらにしか知識のない人が「ああしろ」「こうしろ」「こうでなければ建築建てさせん。」とたれごとを言う。

「山本さん、我が家の土地、もう建物が建ちまへんのか。」お会いする人ごとに質問される。「今までのようには建ちそうにありません。」「誰がこんな事決めはったんや」「人の財産クチャクチャにしてからに」「完全に今の商売見直さなあかん」「都市計画家とか建築家や、超優秀な大学の先生がたんとおいでやすのに、何したはりますねん。」いや、まったくその通りで…。

僕の場合、京都で仕事をすること、可能な限りさけてます。」訳のわからん妙な「条例」に、まったく意味不明の「開発申請」。それにつけても京都の消防法の考え方は「ニッチモ」「サッチモ」です。なぜなら、建築を建てたいと夢を持つ人、必要以上の設備で建設費がドンドン拡大する。個人の採算には到底乗らなくなる。「個人は建物を建てて事業などするな。」京の人の夢をつぶすことを楽しみにしているようだ。まさしく大資本優先型で、それぞれの条例がまかり通る。



近い将来京都は京都以外の資本に食いつぶされることになる。かつて京の旦那衆が思いのままに普請したなど「夢のまた夢」になってしまった。「京の没落」すぐそこに見えてきた。

そこで物申したい。

京都市行政の考えはチット片隅に置くとして、問題は市民の考え方にあるとみた。

かつて京都人は、自らの考えで「乱」を起こす、あるいは、世の中を乱したことはなく、常に時の権力者が出没して破壊したり再興

したりのやりたい放題でそのたびに京の人、めげずに時の権力者とすり合わせ、再生させつつ生きながらえて来た。時の権力者達は、その人流の町につくり替えるのだが…。

その歴史的事象はややもすると京の人「他人事」で「誰かが何とかしはりまっしゃろ。」今、今日生きる事が…であったのだろう。

しかしながら2000年を迎えた今、「時の権力者はいない」。「おれが京都をつくる」と行動を起せるスポンサーはいない。つまり「すり合わせをする相手がいない。」時代へと……なった。

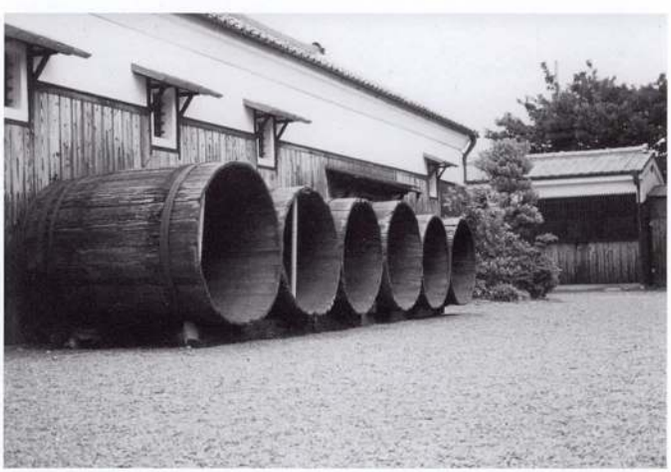
そしてハッと気がついた。「おばけ」の出現である。まさしく奇怪なしかも不透明な「顔のまったく見えない」覇権者の出現である。これが実にやっかいな代物で京都を攻め始めた。それは大資本の妖怪の出没である。日本らしい日本の「最後の砦」京都、まさしくターゲットにされてである。例えば「住まうこと」ゾッとする。1000年の都、春・夏・秋・冬の季節の変化。幽玄の世界、「あなたこの町に家を持って京都人しませんか」の一言で建てては完売。しかも「売り逃げ」である。聞くところによると関東方面の人が買いだめる。

かつて各地方のリゾート地にコンドミニアムが建ち並びそして経済破綻とともに空洞化。実によく似かよっている。「危ない」

僕は京都以外のひとを「外人」と呼んでいるのだが、その「外人」、京の「最大の武器・食」にも殴り込みを掛けてきた。「エセ京都食」をたずさえて、しかも京町家建築に土足で上る…？土足で上って何が悪い！の勢いである。1000年の都に外人資本が「土足で殴りこみ」を掛けて来た――。受けて立つのか、それとも避けて通るのか。「どうする京都の人。」ここが思案のしどころで、家に上る時ぐらい「靴脱いで上れ」と叫びたい。

京都1000年来の文化。ボロボロに崩れゆくこと、かなりの確立である。

先々週、イタリアへ行って来た。フィレンツェからサン・ジミニァーノそしてシエナ、ローマへ。いずれの町も意気盛んであった。





活かすものはしっかり活かし、新しい時代のものを取り入れて、しかも地元産業を育てつつ「旧と新」をみごとにコラボレーションさせながら世界中の人々を迎え入れていた。

京都はそれらの都市に負けるような「ショボイ」町ではない。京都とは世界に類を見ない集積されたものが山ほどある。京の人々ぼちぼち本気になって世界に冠たる町を。未来の京都人が生きるためのこれこそが「京の町」を…。そして本気ですごい京都にしよう。

何より外人部隊を京の町から撤退させて、京都が京都であることを一考も二考も。でなければ京の町、京の人々が自分たちの手で「ぶっつぶして」しまうことになるのでは。

1000年来からすれば、ささやかな事であるが、15年程前から京都の町を徘徊して写真を撮りまくっている。色々な京都が実に良くみえる。へぇ「京都とは」こんなとこか。いまさらながら…である。



地方の人から設計の依頼が度々いただける。「京都をつくってください。」と。スライドを探索しながら、ああでもない、こうでもない、の日々を過ごしている。その徘徊写真、学芸出版社から「京町家の遺伝子」副題「みつけた京の不思議」と銘打って出版させていただいた。2006年11月30日発刊である。お読みいただければ幸いです。

（やまもと　りょうすけ　山本良介アトリエ代表）

祇園町のまちづくり—南側地区—

杉浦貴久造

祇園町、特に祇園町の南側地区は、私達の先祖や先輩方の努力によって、その「伝統的な町並み」と、いわゆる「祇園情緒」と呼ばれる独特の雰囲気を現在に伝えてきた。これを、今後とも健全に保持し、「可笑しなもの」は改善し、良いものはより良く発展させ、継承していこうと、今から10年前（平成８年８月）に、この祇園町南側地区の住民全員が集まりつくったのが「祇園町南側地区協議会」で、その法人化組織が「NPO法人」の「祇園町南側地区まちづくり協議会」である。しかし、この町全体にわたる「伝統的な町並み」や「祇園町固有の情緒」をいかに保全し、あるいは改善し、再生していくかという問題は、大層難しい問題である。

まず、今迄やってきたことから私達が見付け出した結論は、「町並み」とは、その町、その町の「人並み」の「表れ」であり、それは、私達の町で古くから守られてきた様々な「習わし」や「慣習」、「生活の仕方の決まり事」「商売の仕方の秩序」等々の「約束事」の「表れそのもの」であるということである。

言い換えると、この「町の秩序」ともいえる「習わし」や「約束事」が廃れ守られなくなってしまえば、私達の町はもはや「祇園町」でなくなるばかりか、「町」ですら無くなってしまうということである。

したがって、町の景観のこと、町の外見等の上辺のことだけを議論しても意味が無いし、「町づくり」や「町並み景観の保全」は出来ないと言うことである。こうした訳で、私達が10年間、いろいろとやってきたことは、古くからの慣習や約束事を整理した上で、それらを「もと」にしての各種規則の作成とそれに対する地区内全住民、全地権者の合意、それに基づいての町の保全、再生の作業であった。

協議会を結成して約２年間、このようにし皆でいろいろと話し合って、地区内の住民、各家が守るべき建物の外観についての約束事とそれに基づく基準や規則を定めた上で、まず、「地域住民全員」で「景観協定」を締結した（平成11年５月）。

この協定締結に際して私達が確認し合ったことは、「町並み景観」とは「好み」とか「センス」の問題ではなく、「セオリー」の問題であり、「法則」の問題、「約束事」の問題であると言うことであった。

私達の町のそれぞれの建物の表構えには、一軒として同じものはない。それぞれが工夫を凝らし、粋を競い合っている。しかしそこには、自由なようであって、決して自由勝手でない厳格な約束事が存在しており、各自は、その約束事をキチンと守った上で工夫を凝らしていたのである。これらの約束事と、それを守った上での、それぞれの工夫は、歴史の長い時間をかけて、洗練され、見る人の目から見て、「町並みそのもの」の「美しさ」を感じさせるまでになってきたという訳である。しかし、この約束事は不文律で、文章化されたり、図形化されたりして保存されていなかったので、近年になり、各お家内で、世代間の申し送りや引き継ぎが旨く行かなかったり、新規に他地区からこの地区に参入された方がこの地区での約束事をご存じなかったり、あるいは無視されたり、たまたま、この地区のお家へ代々お出入りしていただいていた大工さんが廃業される等々の原因により、私達の地区での貴重な伝承が危なくなってきていた。

そのような訳で、こうした約束事を、手探りで探し出し、一つひとつ確認しながら、規則の形で文章化し、あるいは図面化することから始めた訳であるが、この作業は、10年経った今もまだ続いている。

これこそが、伝統文化の継承であり、町並み景観とこの町固有の情緒の保全、再生の基本だと信じているからである。

とにもかくにも、この作業がある程度進んだところで、これを規則化し、住民全員が確認した上で、「景観協定」を結んだ訳である。

丁度その頃、京都市でも「歴史的景観保全制度」というのを考えておられたので、多くの制度上の選択肢の中からその制度を選び、この制度に基づいて私達の「町並みの保全修景」を行うこととし、私達の地域の「歴史的景観保全修景計画」を市ご当局と私達が一緒になってつくらせて頂くことを条件に、京都市より「祇園町南歴史的景観保全修景地区」の「指定」を受けることにした（平成11年６月）。

それ以来、当地区での町並みの保全・再生に取り組んで来ている訳である。即ち、地区内での、建物の補修・修繕・改築・増築・新築がなされる度に、事前協議の名のもとでの無料相談・無料指導を行ってきた。その間、京都市から出して頂く補助金の制度も大いに助かったが、お陰で、以来、前年度末（平成18年３月末）迄の６年間で、当地区内全320戸の内の約半数の156件が、全て規定通りに、建物の外観を補修、復旧・再生して頂いた。

これはもう、大変な作業量であったし、町並み景観の保全というより、「町並み景観の再生と創生」と言った方が近いかも知れない。

また一方、そのために障害となるような法令や制度が沢山あったが、それらの根本的な見直しや新しい条例の制定をも積極的に京都市にお願いしてきた。その結果、京都市にては、当地区の町並み景観保全に関係する条例を５本もつくって頂いた。

一方、こうした建物の外観整備に係る事業の外、地区内道路での電線・電柱の地中化、電柱・電線の整理、道路面の石畳美装化、地区内新規転入・開業、業種規制活動、地区内私設屋外消火栓の完備と大規模消防訓練の実施、「生活の基本ルール」である「町式目」の制定などなど、次から次へと色々な仕事が出来てきているが、結局は、このような、「気の遠くなる」ような回りくどい、面倒な仕事の連続こそが、即ち「まちづくり」なのだと、覚悟を決め、役員はじめ、住民全員が、これからも取り組んで行こうとしている。

（すぎうら　きくぞう　祇園町南側地区協議会会長）

京町家　歴史性とその再生

大谷孝彦

京町家は歴史都市京都とともに千年に及ぶ歴史を重ね、その間、密度の高い都市という環境の中でそこに暮らす人々と町家をつくる職人たちの経験、知恵と工夫が積み重ねられ成熟してきた。京町家には「建物」とその場における「くらし」の相互関連があり、また、個々の町家のくらしと共に、日頃のくらしや祭りなどを地域として共有する暮らしがある。そして、自然とのかかわり、人と人のかかわりを大切にしたくらしの場としての歴史的木造建築である。奥深い魅力を持ちながら、今も京都に息づいている町家においてはその中に歴史性を体験、検証することができる具体的な対象である。

再生……歴史性の確認

近現代の社会の進歩には歴史性に対する持続的なかかわりが希薄であり、経済性優先の価値原理、急速な技術の進化のもとにハード面が先走り、建物の巨大化・高層化、デザインの個性主義化、建物ライフサイクルの短周期化など、歴史性と断絶し、歴史性を破壊してきた。その結果、物理的な環境の悪化のみでなく、その背景としての文化、精神的環境の破壊をも招いている。改めて持続性のある豊かな環境を再生する必要がある。

再生とは歴史性を確認し、それを確かな根拠として、そこから新たな歴史的展開を計る持続的創造行為である。そして町家再生は建物、暮らしとそれにかかわる人々の意識の再生でもある。京都における住み手と職人の意識と感性は都という都市の文化的環境と山紫水明の自然や季節感のある地理的環境の中で繊細に洗練されつつ育まれてきた。伝統職人技術は常に地域の風土と一体化し、永年の経験とその伝承の中で改良を重ねながら蓄積されてきた歴史性の濃い技術である。自然とのかかわりが大きい故に合理性があり、また、京都における都市的感性の下で、実用性と美的感性、科学性と芸術性を合わせ持っている。住み手と職人はお互いの意に通じた連携の基に、秩序的感性、美的感性のある洗練された町家、町家文化を創り上げてきた。

町家の修復再生を共有することによって、持続する歴史性をまちづくりのアイデンティティーとして共有する基本的な根拠をつくることができると思われる。様々な法制度もそれを支える市民の意識があってはじめてその効果をみることができる。アイデンティティーの共有の結果、町家にかかわる技術とくらしの中にある秩序・美の感性とそれを創り出してきた包括性のあるしくみが再現される。高さ、ボリュームを押さえる物理的規制としての法制度、ハードの手法とともに、精神的抑制というソフトの手法が働き、都市づくり、景観の公共性への理解など市民サイドの協力と実践的な行動が得られ、地域から地区協定などの意思表示が活発になる。

京町家再生研究会

京町家再生研究会は、祇園祭りご町内の町家を本部として1992年に発足した。急激に失われていく町家、町並みの保全再生のため、建築家、研究者、建築職人などの専門家と町家居住者が集まり、京町家に関する調査研究、再生実践、情報発信など、総合的な活動を展開してきた。設立から10年余りを経て、徐々に町家への社会的関心も高まり、新たな町家居住や、町家を再生した飲食店や物販店舗などの新たな事業活用も増え、国や地方の行政においてもストック活用のまちづくりが取り上げられるようになってきた。再生研究会も個々の町家再生に取り組みつつ、平成2000年にNPO法人の認証を得て、活動を強化し、町家再生によるまちづくりへと活動を展開した。

我々の活動は市民主体のまちづくり活動であり、有機的ネットワークによる活動を特徴として、活動の実績、効果を上げている。再生の手法、理念、システムの構築と具体的な再生事例の実践という、ソフトとハードの両面を合わせた総合的な取り組みである。

当初、個別の町家対応から始まった活動は12年の活動経過のなかで、NPO法人京町家再生研究会（ネットワークのコーディネーター）、京町家作事組(再生、改修工事の実戦部隊)、京町家友の会(町家再生を学び、広める市民の集まり)、京町家情報センター（空き町家の有効活用のための不動産情報のとりつぎ）の4組織の有機的なネットワークの活動へと自然に発展し、活動の成果を大きく高めて来た。町家再生という共有理念の基に、それぞれの活動主体が専門的な領域を持ち、特化された機能を最大限に活かしつつ、総合的なしくみの中での友好的な相互連携を持っている。今後の更なるネットワークの広がりを目指して、平成15年には京都において「全国町家再生交流会」を開催し、多くの地域の活動グループとの対話を持った。また、町家のアピールのために町家十数カ所を会場としての町家活用イベント「楽町楽屋」を実行し、多くの評価を得ている。

今後に残された緊急、かつ、大きな課題として町家再生の資金の問題があり、昨今から今年度にかけては町家の不動産証券化が試みられ、ようやく町家3軒を対称としての証券化事業が成立した。しかし、そこには多くの困難な条件があり、町家再生資金は市民の主体性と地元金融機関の積極的参加を得ながら、今後も継続して取り組むべき課題である。

京町家ネットは新たな京都の歴史展開を目指して、個々の町家再生と共に、町家再生のアイデンティティー共有の情報発信を続けていく。

（おおたに　たかひこ　武庫川女子大学生活環境学部建築学科教授・NPO京町家再生研究会理事長）

現代数寄屋再考

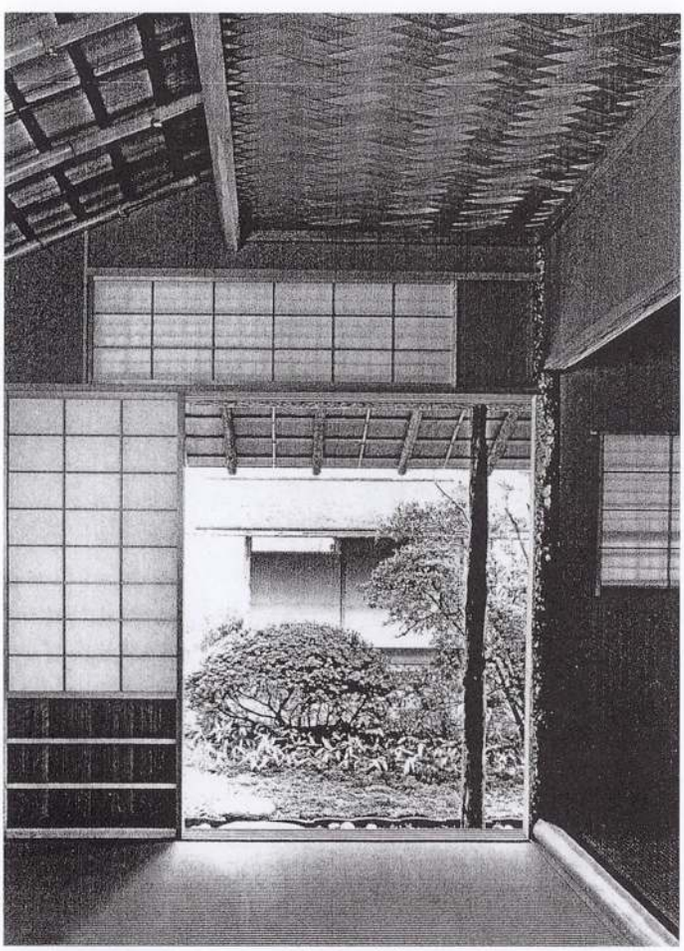
上野益彦

日本建築の美的感覚は見る人によって異なるが、その中でも書院建築や民家建築等と比べると、数寄屋建築は、少し細め、薄めに仕上がった方が美しく感じられる場合が多いと思う。

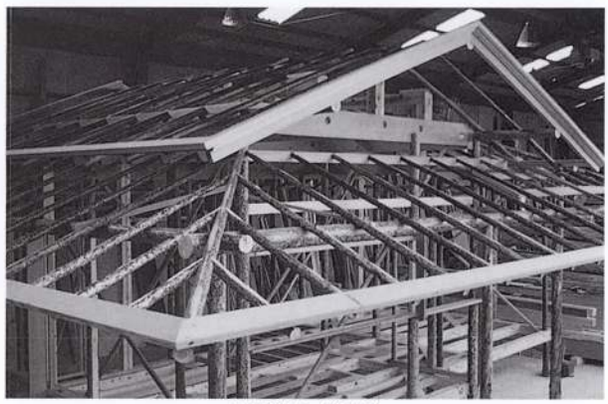
木造建築に於いては、構造的なものからなる物理的に適った寸法から出てくる美しさというものがあるが、時には少し無理をしても意匠を優先にして、より薄く、細く仕上げたい時には、材料の吟味と隠れた部分の技法が必要になってくる。

特に屋根の納まりについては、その場所が起伏の多い傾斜地や、風当たりの強い場所、特に風が下から吹き上げてくるような所では、軒の出の深い土庇や屋根仕舞いには十分な配慮が必要で、柱の根石を貫通し、基礎から柱、桁、棟木、そして屋根の広小舞、淀木に至るまで特殊な金物でひとつに締結させ、また、野地板も少し厚くして、普通の釘よりも少し長いビス等を使って野地板、野垂木、化粧垂木を固定し、屋根全体がひとつに固まるような工夫も大切になってくる。

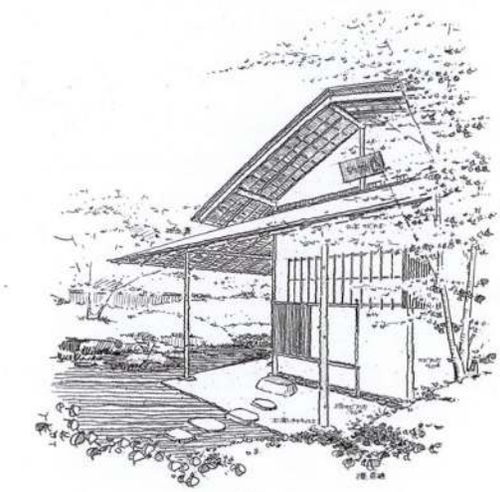
このように、数寄屋建築の風に対しての弱点は、薄くみせるための蟇股、軒の出の深い庇にあると思うが、使用する木の特色、特にその木が持っている癖も十分に考慮し、長尺で使う時にはその継手



土庇のある茶室



土庇軸組（仮組）



土庇　外観スケッチ

にも補強金物を使うなど、場所に合った長所、短所をよく見極める事も大切である。時には二重庇にしたり、桔木を利用することによってより以上にその弱点を補うことが出来ると思う。

起りのついた屋根の美しさは、木造建築の大きなデザインのポイントでもあり、棟木、柱、独立柱の位置をずらしての非相称の均衡と幾重もの屋根の重なりによる美しさは、平面的にも空間を自在に付加融合させる数寄屋建築に出来る特色でもある。しかし、それゆえに美しい繊細な線は、隠れた技法を怠ると短期間の内にその美しさが失われる事になりかねない。

数寄屋の特色は目障りになるものを出来るだけ避け、技巧を控え、全体の調和と余白を大切にしたものであって、深い庇、土庇から生まれる影は建物に落ち着きを醸し出す役割と太陽の光を和らげるという機能があり、日本の風土には欠く事の出来ないものである。この庇に和らげられた光の中で、日本の美意識と文化が育まれてきたのであるならば、より以上に繊細な形を保つ配慮と工夫が大切になってくる。

（うえの　ますひこ　株式会社上野工務店代表取締役）

今日の数奇屋　中村外二の技と心

中村義明

京都に中村外二は昭和六年から本格的に住居を構え、木造の「比叡山ホテル」や住宅、料亭の工事に清水組の手間請け大工として従事し、三ヶ月間の入隊で終戦を迎えました。戦後最初の仕事は、大阪「大和屋」の仕事で中村外二工務店の請負として施工です。昭和二十年代は、木屋町「大千賀」の女将の紹介で多くの料亭、旅館等を施工し、昭和二十八年から裏千家に出入りすることになりました。淡々斎宗匠並びに嘉代子奥様にご贔屓になり、裏千家の隆盛と共に各地で生涯二百軒に近い茶室を施工、海外はインドやニューヨークで茶室を施工しました。この多くの裏千家流茶室は淡々斎家元の三男である大谷巳津彦先生の設計で大谷先生逝去の後は、仙アートスタヂオ堤順市郎先生の設計となりました。堤先生は私共、外二が裏千家出入方になる前の出入方大工棟梁である岡田英斎氏に従事されていたので、堤先生の「線」の太さは外二に比べると大変細く、その後この二人の間の意見は互いに激しく対立したりしましたが、上手いハーモニーとなった作品を生み出しまた。

生来、外二は富山県の生まれで豪雪地帯の出身。大工修行は大正時代に始めたことからも建築美における「線」は太い。外二の職人たちも多くは日本海側の小浜方面や富山方面からの大工であり、大正時代に育った人々で「野村別邸」等を施工した大棟梁北村捨次郎も小浜市の山寄りの町から京都に来られました。外二を含め、私の一世代前の棟梁や職人は、大正のおおらかな気風やデザイン性にとんだ作品の中で仕事に初めて接したことが大きく彼らに影響し、作品の骨格となったことが推察できます。外二の初期の作品は柱が太く、代表的な例は間口十尺、一間半は三枚建具になり、柱は直径四寸近くになっており、他方明治時代数奇屋修行をした岡田英斎氏は、一間半は四枚建てで柱寸法は直径三寸前後で数寄屋らしい建築空間を醸し出しています。柱の太さは他の木割りに大きく影響し、鴨居や天井材、棹の大きさ、本数、天井板の幅にまで及びます。外二の昭和三十年代の名品「かなや」（京都、南禅寺付近）は桁や鴨居を細くし、天井棹の本数を減らし天井板を広くし、天井高を抑える手法をとって建築の調和を計っています。

※　※

外二は基本的に建築自体の寿命を延ばすことが第一条件で、石口（柱から土間）を二寸とすることが基準で、湿度の高い場所等では二寸五分等と、柱の根元の腐りを防ぐことの大事さを常々心掛けていました。茶室の壁止めも白竹より栗を使用したり、場所により耐久性を重視し、時には建築家と対立しました。池などに柱を立てる場合も、二段になった川石などを使うことによって池からの湿気を防ぎ、床下等も換気口を無双で作ったりしました。伊勢神宮の茶室以来、歴史的建造物になる茶室や迎賓館は布基礎コンクリートに土台が直に接しないよう御影石を伏せ、土台の桧も赤味だけとするなど足元からの工夫が始まります。屋根においても広小舞や淀が古い建物において、厚みが五分（15ミリ）である所を、厚みを一寸として少し重い感覚があっても屋根の水切りや構造を重要視したのです。

これらの外二の作品から見られることは、十三歳から大工として仕事に従事し、多くの手直しや建築の欠陥に取り組んだ結果だと思います。平成四年の大型台風時に宮崎市の現場で、現場の大工世話役や大工たちが現場から危険回避のため宿舎に戻ったことで激怒し、世話役を京都に帰したことなどは、大工が経験が大事で、台風の時どのように風や雨が建物に影響するかを知る大事さを我々に訴えました。風速57メートルという風雨は、通常なかなか体験出来ない経験です。命も大切ですが、仕事も命がけでやらなければ大成しないことを教育されました。多くの知識や体験は、時には想像力を阻害しますが、建築にはデザインと機能があります。利休の教えで庭の飛び石を伏せる心は「渡り六分に景色四分」。歩き易さという機能が六分に景色が四分である。この点、場合によって渡りという機能は歩き易さだけでなく、渡る人に対して緊張を与える機能も必要であるのです。

※　※

建築空間において、各々の施主の行動実態に沿って空間の機能があり、建築の立地条件においてもその機能については変化するのである。多くの建築家が施主を無視し、機能についての各々の結論に心配りせずデザインを優先した建物が多く見られる今日、建築家の素質や経験、思想の貧しさからくる表面的模範の建物は、外二にとって心苦しいものであったものです。建築の素材の不勉強。素材を用いて建物を作る各職人の技術認識などに関する不勉強。これらは現場の各職方や施工者との対話の中で知覚出来得ることであるが、メールやファックス、電話等、図面上と書き込み仕様書だけで行う関係は、単なる金儲け主義で、好きで建築をしているのかと不思議に思います。書院にせよ数奇屋にせよ各々の建築物は施主の器であり、建築物だけで存在しません。床の間に軸や花を掛け、茶の道具を置き、そのしぐさ、点前を知り、その茶会の流れや意図を知った上で茶室は成立します。外二は施主を知り、柱を決め、空間を施工したのです。時には外二自身の知覚より建築家のデザインが良いと信じた時は、原寸大の模型を作って工事を進めたのです。設計変更は当たり前。「設計変更の無い建築家はだめだ」は口癖で、外二本人の家も実験ハウスで窓の形は多種多彩。原寸大で考えることを九十歳まで七十数年間、大工一筋で命を懸けて生きたと信じています。

（なかむら　よしあき　中村外二工務店代表）

京の家—民家・町家・数寄屋—

—小林一彦画—

小林一彦

石田家住宅—日本最古の民家



京都府の丹波地方は、早くから文化が開けたところである。この地方に流れる由良川の上流に、山深い美山町がある。山は杉で覆われた林業の町である。この町に日本最古の民家の石田家住宅がある。現在のところでは建築年代が確かな民家としては日本最古で、1650年に建てられた。北山型がこの地方で近世民家として成立した。その初期の記念碑的な遺構と考えられている。入り母屋造り、茅葺、妻入りで、由良川の支流の小さい谷に面している。屋根のやわらかな茅葺の曲線、周囲の山並みに呼応して、現代の硬い材料ではとうてい表現できない美しさがある。北山型は棟通りに柱を密に立て、平面を左右に分割していること、「にわ」と呼ばれる土間は床の高さに近くまで上がっていて、ここでは「あげにわ」と呼ばれている。また小屋組も「おだち鳥居組」になっていて、叉首より古い形式で畿内の周辺部でのみ残っている。このように面白い特徴がいっぱいある。

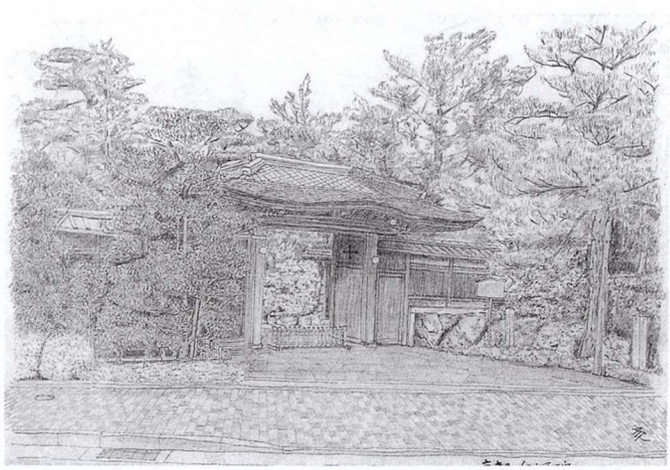
京都は天明８年（1788）、元治元年（1864）の大火によって現存する民家はすべて両大火以後に建てられている。しかしながら両大火によって町家は失われたが、その建築手法はそれ以降も大きくは変化していない。従って今日残っている町家にみるさまざまな形式手法は江戸時代のものとつなっがていると見なせる。

表構えとして町家に共通する要素として、門口（入口）、揚げ見世（ばったりしょうぎ）、出格子、通り庇（おだれ）、むしこ窓が挙げられる。これらの要素は京都の町家か日本各地に伝わり、各地の町家にも見られる。それら以外にも京都の町家は、京間の横に広いプロポーション、むくりのついた屋根、糸屋格子の繊細さ、犬矢来や駒寄せなどの優美な形で町家の足元を引き立てるしつらえなど、多様な要素で構成されている。

湊家住宅—京都の町家



白河院の門—数寄屋の門



白河院は「植治」の池泉回遊式庭園があることで知られているが、この門のこと、数寄屋の座敷のことはあまり知られていない。座敷も門も武田五一の設計である。大正８年に呉服商の邸宅として建てられた。数寄屋造りの座敷は欄間のデザインが和風の意匠から逸脱しているので武田五一と聞くと納得がいく。門は「唐破風」で桧皮と瓦葺きである。普通の唐破風に比べるとアーチ部分の成が低い。同じ武田五一設計の清水の順正にも唐破風がある。それは扁平で奇妙な唐破風である。唐破風は武田の好みだったのか。ここでは成の低さが、より優美で、はんなりとした美しさを作り出す要素になっている。違和感がない。天井は台杉の詰め打ちが見事に納まっている。屋根を支える構造も工夫があって面白い。伝統的な手法を用いながらも洗練された数寄屋の門である。唐破風の門としてけっさくだと思う。

（こばやし　かずひこ　京都建築事務所代表取締役専務）

柊家新館の基本的構成について

道田　淳

文政元年(1818)創業の老舗旅館「柊家」にとって、平成18年(2006)２月に竣工した新館は２代目となる。現新館完成前には、同じ敷地に昭和40年（1965）に完成した旧新館が建っており、客室10室の他に厨房、従業員室、機械室、倉庫などが入っていたが、設備的にも老築化が目立ち、大改修の運びとなった。

計画では、残った旧館の営業を続けながら新館建設を進めることが大前提であったために、まず敷地内の駐車場にプレハブによる仮設厨房及び設備棟を建設することから始めた。次に旧館を改修し配膳ルートの確保や仮営業中の設備接続工事など各種準備をしてから、旧・新館を解体撤去し、母屋側の壁面や屋根に耐火などの様々な補修工事を済ませ、ようやく新館着工となった。現在、仮設厨房及び設備棟は解体撤去され、元の駐車場となっている。

新館の空間構成を大きく特徴づけているのは、特殊な構造によるところが大きい。新館へは創業当時からの玄関から渡り廊下を経由してくるが、この間、来客者が目にするのは伝統的な木造の骨組みである。新館ではいかにもRC構造といったスケールの異なる構造を見せないように、様々な面において細心の配慮と工夫をしている。

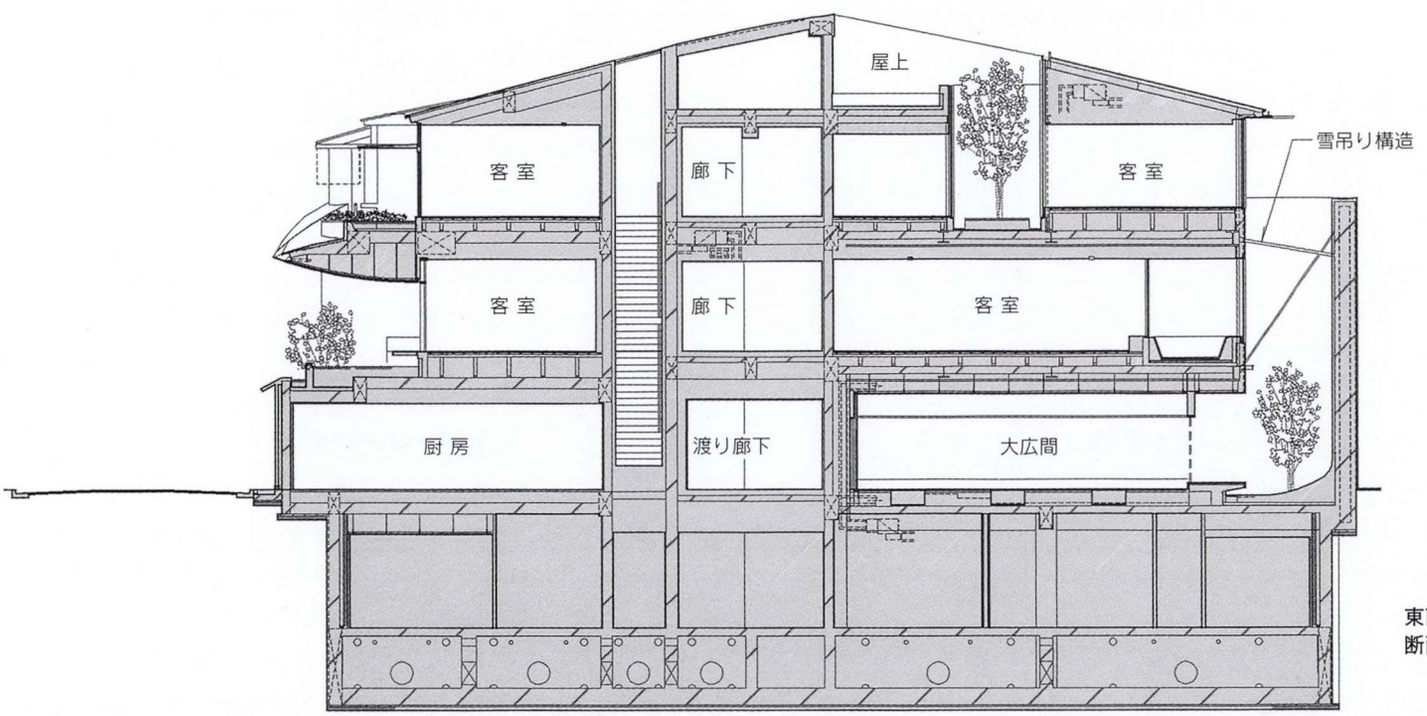
本計画では、新館の大広間をあえて地上階奥に配置している。敷地は市街地であり、周辺には駐車場やマンションが乱立しているので、２階以上では景観に相当の注意を払う必要がある。そのため、南と西の２方向を防火壁、北側は旧館外壁で囲むことで、大広間において三方向に連続する庭を生み出し、宿泊施設に必須の静寂な空間を確保することにした。

また大広間を囲む三面を連続したパノラマでみせるために、西側の防火壁兼構造壁より、我々が「雪吊り構造」と呼ぶ特殊な構造で上階の客室部を支えている。雪吊り構造は、２階を支える５本の圧縮材とその股を通り二階を引っ張る引張材から構成され、計３組が新館を支えている。圧縮材は直径120mm全て長さの異なる3.0m前後の特殊鋼を細く削り出して、京都特産の北山丸太の面取丸太に似せてある、引張材は直径36mmの特殊鋼の線材からなる。

雪吊りという名のとおり、昔から寒超え時の庭園において仕立物の松に養生のため行う作業から着想を得ているが、これにより魅せ方だけではなく構造的にも一層安定することとなった。また庭の上部に巨大な梁が姿を見せることが無くなり、昼間は南から雪吊りに差し込む太陽光が木漏れ日のような影を壁面に映し出し、庭の樹々と一体となっている。さらに１階大広間における三面を総ガラス張り（北側はサッシで全面開放が可能）にすることで、水平方向に連続的に展開する眺めという当初の目標が実現できた。

上階の各客室の窓からの眺めについては、遠景のビル等はできるだけ見えないように配慮し、その代わり近景に専用の坪庭を用意している。客室内部では数寄屋の基本要素である自然素材に、新たに開発された照明器具、手漉き和紙による袋張りの壁、玉虫張りの漆塗り床框、重要無形文化財保持者による床板など、昔ながらの技術と新しい技術を活かした様々な特注品に溢れており、老舗旅館の持つ伝統に更なる魅力を付加できるよう努めている。

（みちだ　じゅん　有限会社エイト・エフェクト代表）



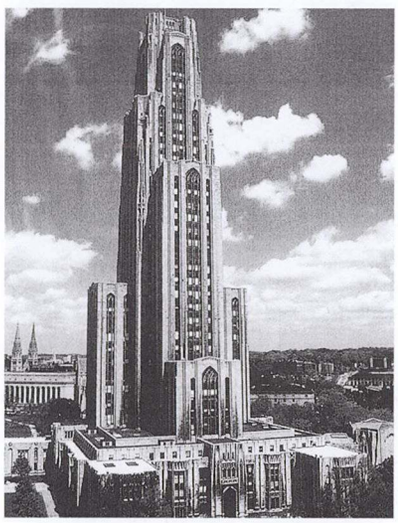
東西方向
断面図

国際文化教室
(アメリカ・ペンシルヴァニア州・ピッツバーク大学内)

長瀬博一

事業内容とその沿革

イギリスに始まり、地球各地からの移民により15世紀末建国され、今や世界最強国であるアメリカ。その東部ペンシルヴァニア州ピッツバーグ市のオークランド地区に在るピッツバーグ大学内に中心施設「The Cathedral of Learning」(1920年代竣工42階建超高層ビル)が在り、その1・3階に現在24ヵ国の「国際文化教室」が完成している。(日本室は3階)



The Cathedral of Learning
(ピッツバーグ大学内　1920年代竣工)
「国際文化教室」は1、3階

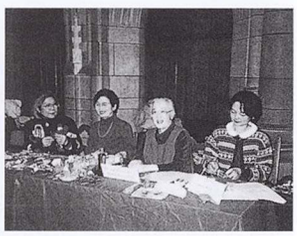
これは各出身国の伝統建築を踏まえたデザインで内装され各室は、その国の言語や諸文化に関する講義等に使用され、また、講義時間外は公開されており、観光客や市民、学校関係者等、年間の来訪者は10万人余りという。それは、常設の野外民族文化博物館の室内版ともいえ、各国の伝統建築文化と生活文化の一端を垣間見ることが出来る。室の広さも国により様々である。大学の「国際文化教室」の企画のもとに運営されており、日本における県人会の如く、ピッツバーグ市在住の各々の出身国の人々が中心になり集まって資金を工面し内装設計と施工に要する費用を捻出し、無性格で機能的な単なる教室を内部解体して、出身国の文化をアピールできる室に改装し、家具・備品を備えた形で学校側に寄付されてきた。1930年代に始まり現在24ヵ国完成、今なお進行中の米国本土でも他に類例のない企画である。各室共、出身国別のまとまりをもった(県人会の如く)メンバーの方々が活動母体である。

事業推進母体

以下1999年に完成した「日本文化教室」の例を述べる。

事業の企画(運営)母体として忘れてならないのはピッツバーグ市在住の日本人の方々が委員会(JACCP)を結成され、内装築造のための資金づくりに大変な尽力をされてきた事である。その構成メンバーの方々の中には心臓移植で世界的に有名なこの大学医学部で指導されている先生方や木工家具で活躍中の作家はじめそのご家族の方々など、多くの方々の並々ならぬ熱意と継続的な尽力がある。その活動目的は単に教室の完成、しつらえ、メンテナンスにとどまらず交換留学生制度等へも及んでいる。







上左:JACCPメンバーと施工メンバー、大学関係者
上右、下:JACCPメンバー

計画内容・テーマ

1997年、企画・設計の相談をうけ、当初日本の伝統建築のどのスタイルを選ぶかについて、京都に最もその優れた範例が集中する「数寄屋造り」で検討が始まった。ところが、家具・備品を含めピッツバーグ大との協議の中で、完成後の維持管理上も支障の出にくいものを、従ってより堅牢なものを求められ「民家」に変更となった。

計画条件

この企画に基づき設計を進めるにあたり、学校側から出された遵守すべき条件は次の通り。

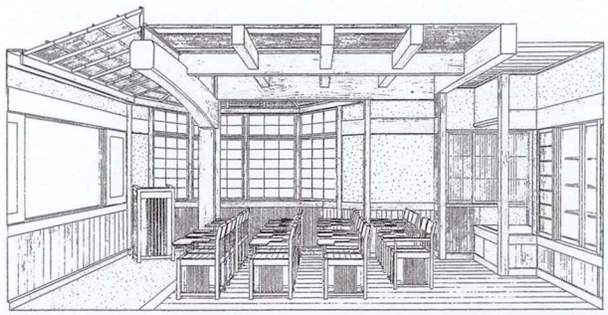
①室の広さ(国により様々)に応じた数の筆記台付の椅子を備える
②講師用演台
③黒板及び映写スクリーン、エアコン設備
④教室として使用するに適わしい照度
⑤車椅子利用者に支障がないように室内に決して段差をつくらないこと

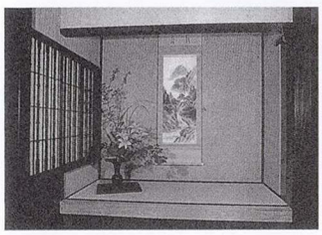
構成と使用材料

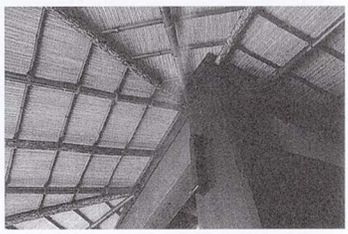
プランは民家の所謂、下屋庇下に土間を表現し主屋側は、本来床上げの板間を想定し、床材・天井の構成でそれを表現した。一方教室の外部の窓側はベイウインドー状に多角形状の開口部がありそれ等を包括する必要があった。

民家の構成要素のエッセンスを採り上げ、大黒柱・小黒柱(欅)、丑梁(うしばり)〔ゴロンボ〕(地松太鼓落し)、煤竹張大和天井、庇部天井は

葭張、化粧垂木は桧錆丸太と煤竹交互（小舞も煤竹）、壁はジュラククロス、窓はワーロン製明障子、家具は楢材、全て古色塗とした。エアコンや照明等設備関係は現地のJACCPメンバーである日系建築家に担当していただいた。

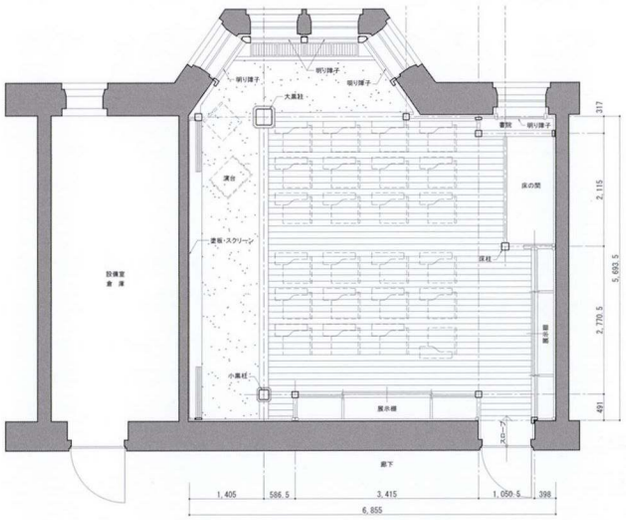






施工

建築内装は、数寄屋をはじめ木造建築で数多くの優れた実績を持つ京都・鈴木工務店、家具は京都の伝統的和家具に精しい井口木工所が担当。施工期間は、1998年（4～12月）延8ヵ月余を要した。即ち、各主要材を工務店で加工、コンテナーにて船便で現地へ送り現地組立、その他工事に2ヵ月余りをかけ完成。木工事関係や柱足元の根石据付等に京都から棟梁・大工・番頭が渡米し常駐で仕上げ、設備や現場塗装等は現地の職人さんの協力で完成した。工事中には、JACCPのメンバーの方々は勿論、普請好き？のピッツバーグ市長も来訪された。

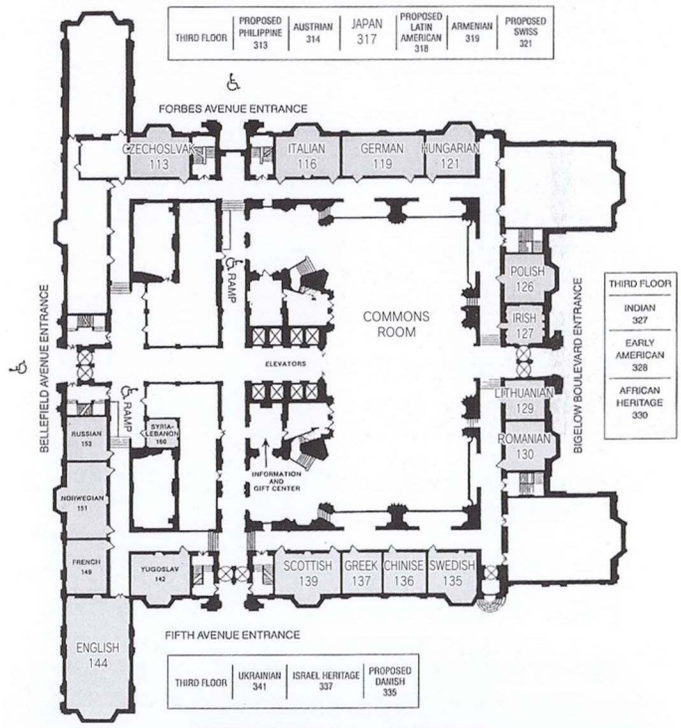


完成

1999年夏竣工式典が行われ、その折ニューヨークから日本の大使を迎え記念スピーチが披露された。室内の造り付け展示ケース内には、日本の大工道具や諸工芸品が展示され、室内一隅の床の間には掛軸と花が生けられ、来訪者を迎えてくれる。こうした室内のしつらえも全てJACCPメンバーの方々の尽力に依るものである。

世界各国の文化交流と相互理解のえにし（縁）ともなるこの企画、今後とも参加国が増え続けますますの発展を願うものである。

（ながせ　ひろかず　長瀬建築研究所代表）



「国際文化教室」1、3階平面図



日本文化教室

建築士法の改正—建築士制度の見直し等—

中迫悟志
大阪府住宅まちづくり部建築指導室建築企画課

都道府県や特定行政庁では、平成18年6月21日に公布された改正建築基準法の施行に向け、準備が進められている。改正法において義務化された構造計算適合性判定を実施する機関の指定については、本年3月末までに施行される。

これらの建築確認や検査の厳格化などの建築基準法を中心とした改正が進められるなか、平成18年4月から7月にかけて社会資本整備審議会建築分科会基本制度部会が5回開催され、平成18年8月31日に「建築物の安全性確保のための建築行政のあり方について」が答申された。

この答申を受けて昨年12月に公布された建築士法の概要を紹介する。

建築士法等の改正の目的

建築士の資質・能力の向上、高度な専門能力を有する建築士の育成・活用、設計・工事監理業務の適正化、建設工事の施工の適正化等を図り、耐震偽装事件により失われた建築物の安全性及び建築士制度に対する信頼の回復を目的とした改正が行われた。

建築士の資質・能力の向上

建築士に対する定期講習の受講義務づけ

建築士事務所に属する建築士、今回の改正で創設された構造設計一級建築士及び設備設計一級建築士は、一定期間ごとに、国土交通大臣の登録を受けた機関において実施される講習を受けなければならない。

建築士試験の受験資格の見直し

一級建築士試験の受験資格者を、大学等において建築に関する一定の科目を修めて卒業した者で、卒業後、建築に関する一定の実務経験(設計及び工事監理等)を2年以上有する者とするなど、一級・二級・木造建築士試験の受験資格が見直された。

高度な専門能力を有する建築士による構造・設備設計の適正化

構造設計・設備設計一級建築士証の交付

一級建築士として5年以上構造設計業務に従事した後、国土交通大臣の登録を受けた機関が行う講習を修了した者は、国土交通大臣に対し、構造設計一級建築士証の交付を申請できる。

また、一級建築士として5年以上設備設計業務に従事し、前述の講習を修了した者は、国土交通大臣に対し、設備設計一級建築士証の交付を申請できる。

なお、これらの交付の実施にあたっては、指定登録法人制度が創設され、国土交通大臣が指定する「中央指定登録機関」で行わせることができると規定された。

構造設計・設備設計一級建築士による法適合チェックの義務づけ

高さが20mを超える鉄筋コンクリート造の建築物等、一定の規模の建築物の構造設計については構造設計一級建築士が、3階以上で床面積の合計が5,000㎡を超える建築物の設備設計については設備設計一級建築士が、関係規定に適合するか確認することとなる。

この改正と併せて、建築主事において、法適合チェックが行われていない確認申請書の受理禁止が、建築基準法に規定された。

設計・工事監理業務の適正化、消費者への情報開示

管理建築士の要件強化

管理建築士は、建築士として3年以上の設計等の業務に従事した後、国土交通大臣の登録を受けた機関において実施される講習を修了した建築士でなければならないと、要件が付加された。

管理建築士等による重要事項説明及び書面交付の義務づけ

建築士事務所の開設者は、設計・工事監理契約の締結前に、建築主に対し、管理建築士等による重要事項を記載した書面を交付して説明をさせなければならない。

設計または工事監理業務の再委託の制限

分譲マンションなど発注者とエンドユーザーが異なる一定規模以上の設計または工事監理の業務を、それぞれ一括して他の建築士事務所の開設者に委託してはならない。

建築士名簿の閲覧

国土交通大臣は一級建築士名簿を、都道府県知事は二級建築士名簿及び木造建築士名簿を、閲覧に供さなければならない。

なお、建築士の登録・名簿の閲覧事務の実施にあたっては、一級建築士においては前述の「中央指定登録機関」、二級建築士及び木造建築士においては都道府県知事が指定する「都道府県指定登録機関」において行わせることができると規定された。

団体による自立的な監督体制の確立

建築士事務所協会等の法定化及び協会による苦情解決業務の実施

建築士事務所協会及び建築士事務所協会連合会が法定化されるとともに、「建築士事務所の業務の適正な運営及び建築主の利益保護を図る」目的達成のため、事務所開設者に対する指導・勧告等、事務所の業務に対する建築主等からの苦情の解決、事務所開設者及び事務所に属する建築士に対する研修等の業務を行うことが規定された。

建築士会等による研修の実施

建築士会及び建築士会連合会は、建築士に対し、業務に必要な知識及び技能の向上を図るための建築技術に関する研修を実施しなければならないと規定された。

建設工事の施工の適正化（建設業法の改正）

今回の改正は建築士法を中心に行われたが、このほか、

- 分譲マンション等、発注者とエンドユーザーが異なる一定の工事について、一括下請負の全面的禁止
- 資格者証の交付等を受けた監理技術者の配置を要する工事を、公共工事から学校、病院等の重要な民間工事に拡大

といった建設業法の改正も行われている。

*

新築住宅の売り主等の瑕疵担保責任履行のための資力確保措置に関する法制度の見直し等を残し、平成18年6月公布の建築基準法改正、今回の建築士法改正により、確認審査・検査及び設計・監理に関する一通りの見直しが行われた。今後示される政省令等を踏まえつつ、改正法が適確・適正に運用されるよう体制整備を図り、建築物の安全性の確保、建築業界に対する国民の信頼性の回復に努めていくことが求められる。（なかさこ さとし）

テンセグリティの実験を木造で実施

待永崇宏
大阪大学大学院工学研究科修士２年

本研究は、未来構造物と称されるテンセグリティを間伐材によって実現している（**写真1**）。専門家でも実現が困難であったものを、システムトラスの技術を用いて誰もが簡単に組み立てできるよう実現化したものである。

テンセグリティは連続的な引張要素と不連続な圧縮要素で構成され、各要素に自己釣合応力と呼ばれる軸力が存在し、自己釣合状態を形成している。かつて、R.Backminster Fullerにより提唱され、その起源をアートに持つテンセグリティは、浮遊感のある独特の外観を特徴とし、更なる軽量化の可能性、（展開型）宇宙構造への可能性等、他の構造形式にはない魅力があり、世界中で研究されている。

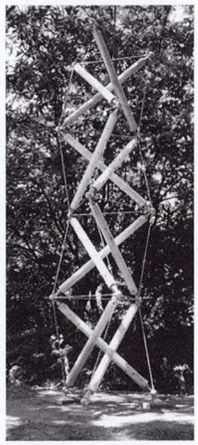


写真１　Tensegrity Tower

研究概要

建築への適用性を検討するにあたり、実大モデルの実験を行い、実用的問題を把握することは大きな課題である。本研究では、木造システムトラスにテンションシステム（PC鋼棒）を組み込んだシステム（**図1**）をテンセグリティに適用し、実大モデルでの組み立て及び載荷実験を行っている。その際、施工方法や荷重変形性状等を把握し、木造システムトラスとテンセグリティとの適合性とその基本構造特性を明らかにすることを目的としている。

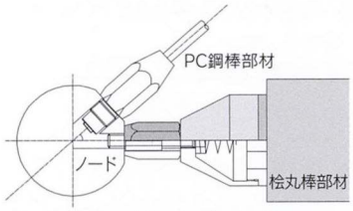


図１　ジョイントシステム

梁状テンセグリティ構造物

目的　本研究の最初の段階として、**写真2**、**3**に示す4ストラットモデル（基本ユニット）および梁状構造物の組み立て実験を行い、その性状把握を行った。テンセグリティの場合、自己釣合応力（軸力）が構造体の性能を決定すると既往の研究より明らかとなっており、軸力導入精度がテンションシステムのテンセグリティへの適用性を示す一つの評価項目となる。また、軸力導入されるまで構造体に剛性がほとんどないことを考慮すると、構造体として完成するまでの施工過程に困難があると推測された。

以上のようなことを踏まえ、検討項目は施工性の確認と試験体組み立て後の軸力導入精度及び形状発生精度とした。梁状構造物では、静的載荷実験を行い、荷重変形性状を検討した。



写真２　基本ユニット

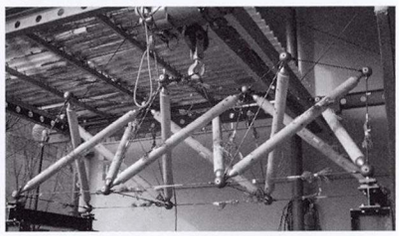


写真３　梁状構造物

実験方法　試験体は圧縮材にϕ80の桧丸棒部材、引張材にϕ7.25のPC鋼棒部材、ϕ90/82のノードを用いている。

軸力導入方法に関して、本システムでは、軸力設定値に応じてノード面間距離より部材長を短くしたPC鋼棒部材と長くした桧丸棒部材を組み立てることにより、自動的に軸力導入できる（**図2**）。有意な精度で軸力導入するためには、構成部材の材長管理を精度良く行う必要がある。桧丸棒部材の組み立て後の組み立て寸法測定値と設定値（約1332㎜）との差は、基本ユニットで-0.07㎜から0.10㎜の範囲内、梁状構造物で-0.17㎜から0.36㎜の範囲内にあり、十分な精度で実現されていた。PC鋼棒部材の寸法調整は、読み取り精度0.01㎜で行った。自己釣合応力は、この精度で材長管理された構成部材を組み立てることにより導入される。

また載荷実験方法に関して、試験体（梁状構造物）は4隅点の鉛直下方向移動のみを拘束し、下弦中央4節点に鉛直荷重を作用させた。

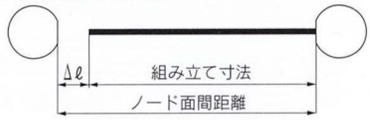


図２　組み立て寸法設定方法

実験結果　施工性に関して、基本ユニットでは作業人数3人で要する時間は10分程度、梁状構造物でも作業人数3人で簡便な施工が可能なことを確認した。また、下記のように基本ユニット、梁状構造物ともに、工学的に有意な精度の軸力導入が確認されるとともに、形状寸法がほとんど設計値通りであることが確認された。

基本ユニット：PC鋼棒部材102%、桧丸棒部材83%

梁状構造物：PC鋼棒部材104%、桧丸棒部材82%

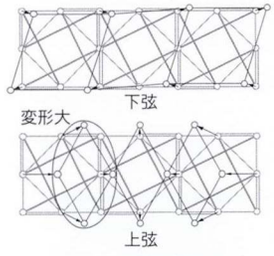


図３　変形概要

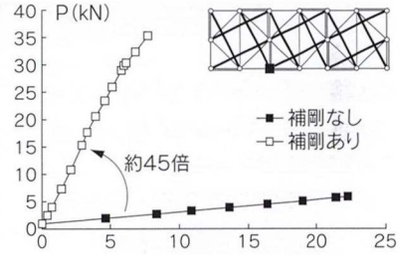


図４　補剛ロッドの効果

載荷実験より、梁状テンセグリティ構造物の基本構造特性を確認した。各節点における荷重変位関係はほとんど線形であった。また、大きな変位が各節点でみられ、特に上弦面の菱形に大きな変形がみられた（**図3**）。そこで、上弦面の変形を拘束する補剛ロッドを試験体に追加配置すると、その効果により、載荷点荷重変位関係の初期剛性が約45倍となることが確認された（**図4**）。

以上の組み立て実験より、木造システムトラスで構成されたテンセグリティが工学的に有効なシステムであること、載荷実験より追加部材（補剛ロッド）を有効に設置すれば構造体として十分に成立することを確認した。

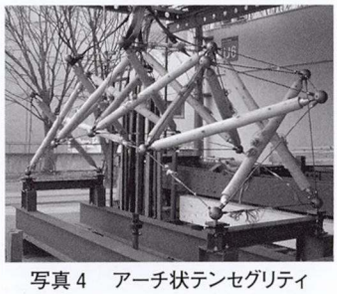


写真４　アーチ状テンセグリティ

＊

梁状構造物に続き、アーチ状構造物（**写真4**）、シリンダー状構造物についても実大実験を行い、その有効性を確認している。今後もテンセグリティ構造物の実用化を目指し、設計用の参考資料となる研究を続けていこうと思う。

（まちなが　たかひろ）

フォーラム「都市はこどもを守れるか」

子どもたちへの凶悪な犯罪は偶然そこで起こったのではなく、そこを選んで起こっている。
NPO法人西山夘三記念すまい・まちづくり文庫が開催する“すまい・まちづくりフォーラム関西21”は、犯罪現場をくまなく踏査している千葉大学・中村攻教授を招き、子どもが犯罪の犠牲者とならないまちづくりを考える。

日　時　2007年2月10日(土) 13：30～16：00
会　場　梅田スカイビルタワーウエスト　22階会議室
　　大阪市北区大淀中1-1-88
　　JR大阪駅北出口から徒歩10分
参加費　1,000円（文庫会員と学生は500円）
講　師　中村攻（千葉大学園芸学部教授）
　　「都市はこどもを守れるか―子どもを犯罪から守るまちづくり―」
　　コメンテータ／室﨑生子（平安女学院大学非常勤講師）
申込み　当日先着順100名
　　問い合わせはnpo@n-bunko.orgへ。

「ストップ地球温暖化」

京都議定書が発効した2月16日を記念して、大阪府は「ストップ地球温暖化」大阪シンポジウムを開催する。

日　時　2007年2月16日(金) 14：00～16：30
会　場　大阪府職員会館・多目的ホール
　　大阪市中央区大手前3-1-43
　　大阪府庁新別館北館4階
定　員　300名（参加費無料）
申込み　FAXまたはEメールで事前に下記へ申し込み。
　　大阪府環境農林水産部みどり・都市環境室地球環境課（Eメール midorikankyo-g13@sbox.pref.osaka.lg.jp、FAX 06-6944-6749）

・基調講演「地球温暖化の防止について」／大阪大学大学院教授・水野　稔
・「わが家でのエコ改修と省エネライフ」／大阪ガスエネルギー・文化研究所研究主幹・濱　恵介

2011年秋にUIA 2011東京大会

1948年以来、3年に一度世界各国で開催されてきた建築の会議・イベント「UIA」の東京大会が2011年に開かれる。UIAとはInternational Union of Architects（国際建築家連合）。世界120カ国の建築家協会メンバー130万人を束ねる建築家の職能集団である。
東京から世界へ、建築を通じて様々なメッセージを発信するこの大会は、東京国際フォーラム＋丸の内地区を主会場にして2011年9月25日(日)～10月1日(土)に理事会、総会、各国の展示、学生コンペ展示が繰り広げられる予定。
問い合わせは、UIA 2011東京大会日本組織委員会（TEL 03-3408-7125）へ。

2006年度・CM講習会開催

CMr（コンストラクション・マネージャー）を目指してみませんか。

日　時　2007年2月3日(土)・4日(日) 2日間
　　9：00～16：50
場　所　大阪府建築健保会館
　　大阪市中央区和泉町2-1-11
　　TEL 06-6942-3621
費　用　CM協会会員25,000円、一般30,000円
　　（他にCMガイドブック4,725円が必要）
申込み　日本コンストラクション・マネジメント協会関西支部　TEL・FAX 06-6251-1520

ひょうごまちづくりセミナー2007

日　時　2007年2月7日(水) 13：45～16：05
会　場　兵庫県公館大会議室（参加費無料）
主　催　兵庫県
申込み　2007年1月31日(水)までに兵庫県都市政策課
　　e-mail：kendo_toshi@pref.hyogo.jp
　　TEL 078-341-7711、FAX 078-362-9487
プログラム
第1部　第8回「人間サイズのまちづくり賞」表彰式
第2部　講演会「子どもが健やかに育つまちづくり」
　　講師／小澤紀美子（東京学芸大学教授）

建設リサイクル法説明会

日　時　2007年2月8日(木) 13：30～16：45
会　場　メセナひらかた　多目的ホール
　　枚方市新町2-1-5
　　京阪電車「枚方市」駅北口より徒歩5分
定　員　360人（参加費無料・事前申込必要・先着順）
申込み　2007年2月6日までに参加申込を下記へ。
　　FAX―寝屋川市まち政策部まちづくり指導課（FAX 072-825-2618）
　　電子申込み―http://www.pref.osaka.jp/kenshi/recycle/index.html

1）建設リサイクル法の概要と建設リサイクル法の届出・分別解体等
2）建設廃棄物の適正処理と建設リサイクル法の再資源化等
3）大阪府認定リサイクル製品
4）労働安全衛生法　石綿障害予防規則
5）大気汚染防止法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例（建築物等の解体等作業における石綿（アスベスト）飛散防止対策）
6）建築基準法及び建築基準法施行令（改正）（建築物における健康被害を防止するため、吹き付けアスベスト等の使用規制）
7）建築物の環境配慮制度

2007年秋、東京・中央通り照明デザインが一新される



最優秀賞を獲得し中央通りの道路照明灯に採用された「松井淳＋桜沢拓也」のイメージイラスト

国土交通省関東地方整備局東京国道事務所などをメンバーとする「銀座・京橋・日本橋／中央通り照明デザイン国際競技実行委員会」は、道路照明灯と景観のあり方に新しいモデルを提示することを目指し、国内外の様々なクリエイターからデザインを公募した。
海外17カ国を含めて280作品が集まったが、昨年11月17日の最終審査会（中村良夫審査委員長ほか11名）で、松井淳氏（前橋工科大学助教授）と桜沢拓也氏（DESIGN PLANETS）の共同作品が最優秀賞に決定した。
この作品は、この春から建て替えの始まる中央通りの道路照明灯のデザインに採用され、秋には銀座・京橋・日本橋の照明灯は一新される。

第5回エコビルド賞大賞決定

「地球環境・建築憲章」（2000年6月、建築関連5団体により制定）に沿って取り組みがなされた建築物を表彰する「エコビルド賞」（主催：エコビルド実行委員会、NPO法人グリーンシティ推進機構）の受賞作品が昨年11月24日に決定した。エコビルド大賞は、青山学院大学相模原キャンパス（日建設計）へ。

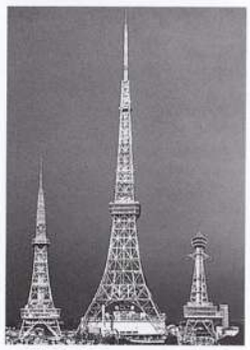
大阪証券取引所からたこ焼きミュージアムへ

NPO法人企業ミュージアムの協会の1月の見学先は、新装なった大阪証券取引所と、山岡金属工業㈱の創業50年を迎えて開設された「たこ焼きミュージアム」。

日　時　2007年1月16日(火) 10：30～15：30
　　10：30　大阪市営地下鉄北浜駅改札口集合
　　10：35　大阪証券取引所／売買室等の見学
　　13：00　京阪電車守口駅下車、タクシーで山岡金属工業本社「たこ焼きミュージアム」「夢工房 技術文化館・開発館 昭和歴史館」の見学
定　員　20名
参加費　一般参加1,800円（交通費・昼食代各自負担）
申込先　企業ミュージアムの協会事務局
　　TEL & FAX 06-6872-0969

内藤多仲と三塔物語

名古屋テレビ塔（昭和29年竣工、180m）、二代目通天閣（昭和31年、103m）、東京タワー（昭和33年、333m）。この三つのタワーはいずれも内藤多仲（1886〜1970）の作品。街のランドマークとして聳えている。



（中）東京タワー、（左）名古屋テレビ塔、（右）通天閣

INAXギャラリー大阪の会場では、三つのタワーの建設過程や竣工時から現在までの外観・内観、展望台から見える風景、塔を取り巻く人々を収めた希少な写真資料や模型類を紹介する。また「内藤多仲コーナー」では、多仲のサイン入り塔の図面や晩年の600mを超えるタワー案なども紹介される。入場無料。

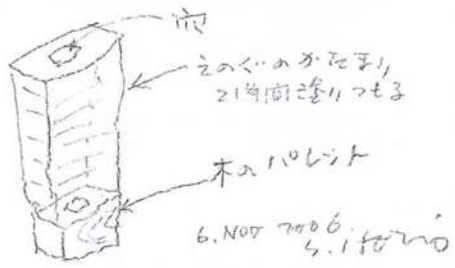
会　期　2006年12月1日（金）〜2007年2月16日（金）
10：00〜18：00　水曜日、12/27〜1/4は休館
会　場　INAXギャラリー大阪　TEL 06-6733-1790
大阪市中央区久太郎町4-1-3
伊藤忠ビル1階　INAX大阪ショールーム

■「タワーの構造設計―塔博士・内藤多仲のもとで」
日　時　2007年1月26日（金）18：30〜20：00
講　師　田中彌壽雄（早稲田大学名誉教授）
会　場　INAX大阪ショールーム・イベントスペース
伊藤忠ビル1階（参加費無料）
参加希望者は、予め電話（06-6733-1790）かFAX（06-6733-1791）でギャラリーまで申し込む。

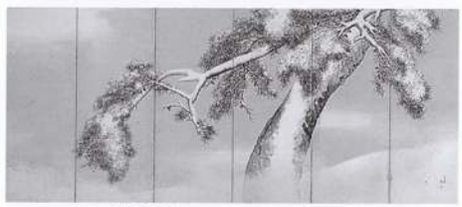
「あたりまえのこと（四角のこと）」展

「21年間使用してきた色塗り用のパレットを出品します。そのパレットというものの中心にどういうわけか四角の穴がある。その穴を21年見てきたのであるが、意識の中にとりこんだのは今度がはじめてで、……その四角の空気をいろいろと形にしてみようと考えています」（堀尾貞治）。

会　期　2007年1月9日（火）〜21日（日）
11：00〜19：00　月曜日休廊
会　場　アートスペース虹　TEL 075-761-9238
京都市東山区山科三条通神宮道東入3丁目



企画展「新春の寿ぎ」



国宝「雪松図屏風」円山応挙筆　18世紀

円山応挙の国宝「雪松図屏風」や国宝「志野茶碗　銘卯花墻」など60点を集めた三井記念美術館の展覧会。

会　期　2007年1月4日（木）〜1月31日（水）
10：00〜17：00
月曜日休館、ただし1/8開館、翌1/9休館
会　場　三井記念美術館（三井本館7階）
東京都中央区日本橋室町2-1-1
入場料　一般800円、大高生500円、小中生以下無料
出　品　・陶磁器「中興名物玳皮盞（鷂天目）」など
・絵画―「駿河町越後屋正月風景図」（鳥居清長筆）、重文「東福門院入内図屏風」など
・工芸品―「交趾写寿字文筒花入」など
招待券希望者は、日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

「日本画の風情」展

西宮市大谷記念美術館所蔵の日本画93点の中から、美人画、山水画、花鳥画、歴史画、南画など約50点を紹介。屏風や額装などの装丁も日本画の魅力である。



山元春挙「雪渓遊鹿図」

会　期　2007年1月2日（火）〜2月12日（月）
10：00〜17：00
水曜日休館、ただし1/3（水）は開館
会　場　西宮市大谷記念美術館
西宮市中浜町4-38
阪神電車「香櫨園駅」下車、西へ徒歩6分
入館料　一般500円、高大生300円、小中生200円
出　品　前田青邨「薔薇」、横山大観「若葉」ほか
招待券希望者は、日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

兵庫県美術館、新春の展覧会

■「ビル・ヴィオラーはつゆめ」展
映像アート、ビデオアートの第一人者ビル・ヴィオラ（1951年ニューヨーク生まれ）が、1980年から約1年半滞在した日本で、禅や能に大きな影響を受けて制作したビデオ作品《はつゆめ》（時間56分）を、兵庫県立美術館では、会期中は常時上映している。

会　期　2007年1月23日（火）〜3月21日（水・祝）
10：00〜18：00（金・土は20：00まで）
月曜日休館、2/12（月）は開館、翌2/13休館
会　場　兵庫県立美術館・企画展示室
神戸市中央区脇浜海岸通1-1
阪神電車「岩屋駅」から南へ徒歩8分
観覧料　一般1,200円、大高生900円、中小生500円
出　品　プラズマや液晶モニターによる映像作品9点
―《サレンダー／沈潜》《クロッシング》
招待券希望者は、日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。



《ラフト／源流》2004年　ハイヴィジョン・ビデオ、壁面投影、5.1chサラウンド・サウンド　Photo: Kira Perov

■「コレクション展Ⅲ」「没後10年　菅井汲」
兵庫県立美術館の収蔵品は現在7,000点以上。今回のコレクション展は7つの展示室に約200点、洋画・版画・彫刻・日本画・写真を展示。あわせて、阪急電鉄のデザイナーから出発した画家・菅井汲の50点以上を展示する。



呉本俊松《Float the Object》1980年

会　期　2006年12月2日〜2007年3月4日（日）
10：00〜18：00（金・土は20：00まで）
観覧料　一般500円、大高生400円、中小生250円
展　示　●菅井汲―《雷鳴》《ハイウェイの朝》ほか
●彫刻―船越保武《ダミアン神父》ほか
●絵画―小磯良平《斉唱》金山平三《秋の庭》
招待券希望者は、日本建築協会（TEL06-6946-6981）へ。

ジャン・ル・ギャック "ESTAMPE"



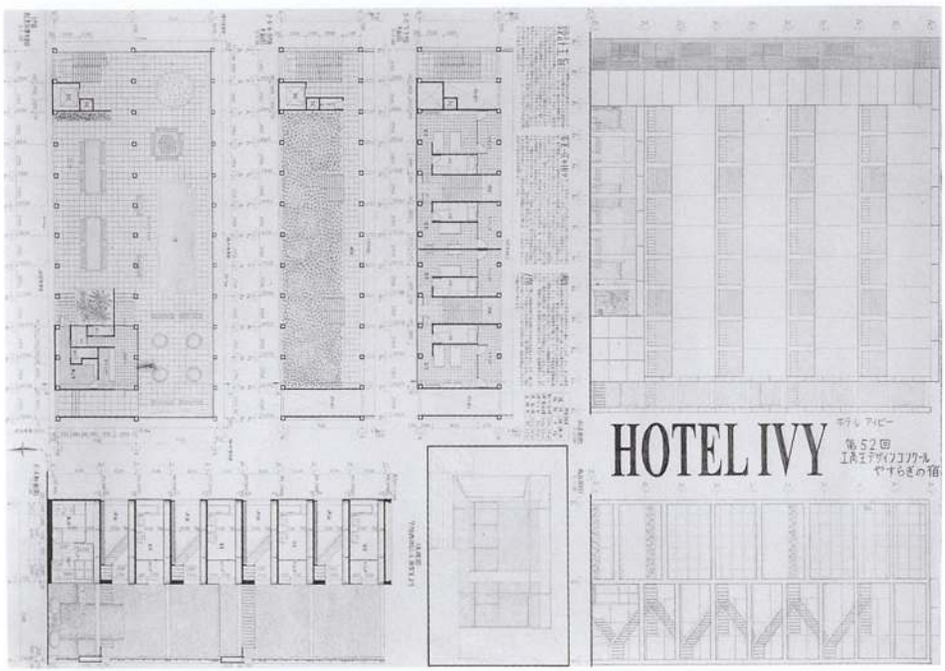
ジャン・ル・ギャック（1936年、南仏タマリス生まれ）は、社会における画家や絵画の果たす役割を、彼独特の揶揄とユーモアあふれる問いかけで追求している。本展は、少年のころ読んだ冒険小説の記述や挿絵にインスピレーションを得た作品などを紹介する。

会　期　2006年12月7日〜2007年1月28日（日）
11：00〜19：00　12月26日〜1月8日休み
月曜日休廊（TEL 078-391-1666）
場　所　ギャラリーヤマキファインアート（入場無料）
神戸市中央区元町通3-9-5　2階
JR「元町駅」（西出口）、阪神電車「西元町駅」より南西へ徒歩1分。
展　示　石版画、銅版画、写真など約20点

第52回 工高生デザインコンクール

設計課題／やすらぎの宿

応募校数●37校　応募作品数●131点
締切日●平成18年９月29日　審査会●平成18年10月14日　表彰式●平成18年11月18日



入選・最優秀賞　**渥美尚志**　静岡県立浜松工業高等学校３年

課題が「やすらぎの宿」ということで、日常にはない落ちついた空間を、極力現実的な方法でつくり出すことを考えました。

５月から９月までの５カ月間、資料を調べたり、先生の助言を受けたりしながら、地道に取り組んだ甲斐があったと思いました。

◀審査コメント／**寺岡宏治**

よくある地方都市の街中に計画されたホテルに対して、「やすらぎ」をいかに獲得できるかを現実的な側面から探った提案である。全体をあえて見せないプレゼンテーションは、計画のイメージをふくらませることに成功している。アイビーに包まれ、木漏れ日のような柔らかい陽光にあふれるホテルの吹抜空間の映像が目の前に浮かびあがり、日常に疲れを覚え癒しを求める人の心を的確に捉えた。

●**審査員**（50音順・敬称略）―職場は平成18年10月当時―
指田孝太郎／㈱日建設計理事設計部門代表―委員長―
足立　啓／和歌山大学システム工学部環境システム学科教授
荒谷省午／荒谷省午建築研究所代表
木多道宏／大阪大学大学院工学研究科助教授
黒田智子／武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科助教授
佐々木栄／㈱昭和設計都市・建築本部第１設計部部長
笹村欽也／㈱東畑建築事務所大阪事務所設計部部長
菅正太郎／すがアトリエ主宰
竹原義二／大阪市立大学生活科学部教授
寺岡宏治／㈱安井建築設計事務所設計部部長
長坂　大／奈良女子大学生活環境学部助教授
長瀬りか／RH⁺計画研究室主宰
林　浩二／㈱大林組本店建築設計部部長
増田俊哉／㈱竹中工務店大阪本店設計部第４設計部門設計担当副部長
吉井歳晴／WIZ ARCHITECTS主宰

審査総評　審査委員長　指田孝太郎

取り組みやすさを考慮して、ここ数年は１年ごとに住宅系の課題と一般建築系の課題が交互に出題されている。第49回「学校に建つメディアセンター」（応募作品数85点）、第50回「住宅」（150点）、昨年の第51回は「コンビニエンスストア」（87点）。そして今年第52回は「やすらぎの宿」（131点）。やはり工高生にとっては住宅が身近で一番なじみやすいのか、住宅系の年は応募数が多い。

さて今年の課題「やすらぎの宿」であるが、「宿」という言葉の持つイメージが強かったのか、旅館のイメージの延長線上で提案したものが多かったように思う。「あなたにとって心地よい、やすらぎを感じることができる空間とは何か」というテーマに対して、①どのような状況を‘やすらぎ’と感じるか＜構想力＞②‘やすらぎ’を得るためにはどのような空間がふさわしいか＜デザイン力＞③イメージした空間をどう表現し、相手に伝えるか＜表現力＞を審査のポイントとした。

１次審査は審査委員それぞれが10作品を選んで投票を行った。満票はなく、まず得票０の88作品を除いた。全作品131のうち、得票１以上が43作品あり、約３割の作品が何らかの評価を得たことになる。得票３以上の18作品に加え、得票１と２の計25作品の中から３作品を選出。１次審査通過を計21作品とした。２次審査では各自５作品ずつを投票し、３票以上を獲得した10作品を入選とした。最優秀１点、優秀２点の選出は一人２作品を投票して行ったが、同数票がなく、自然に順位が確定する結果となった。

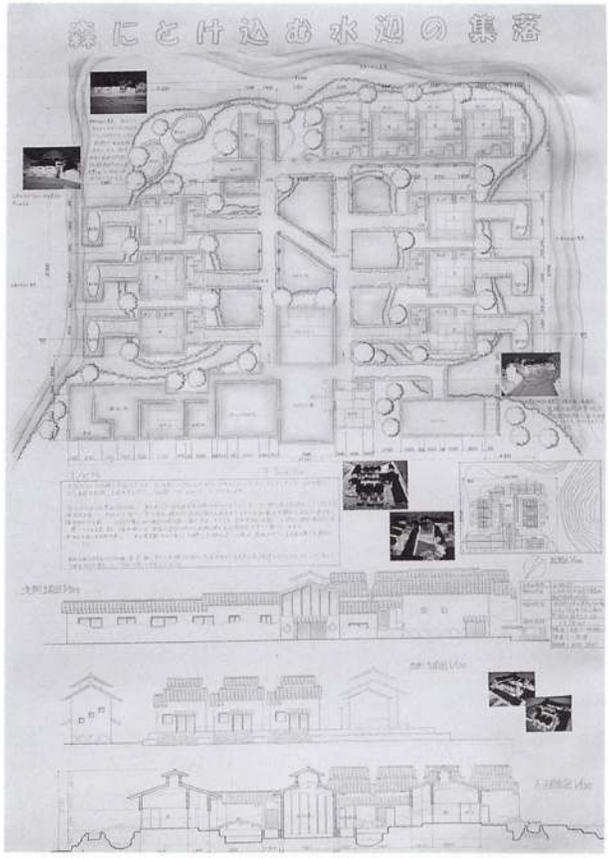
10の入選案には様々なアイデアの作品が選出された。自然の中にやすらぎを求め、ここちよさを素直に表現したものには、「森にとけ込む水辺の集落」（松田君）や「やすらぎの宿～森の楽園　日常からの湯飛行」（福元君）、渓谷に五感を感じる究極の温泉を求めた「sense～感覚～」（上原君・大迫君・西鶴君・東君）がある。

自然に加えて、音楽鑑賞や美術鑑賞、茶室や図書館など様々な楽しみのしかけを提案したのは、「体感“音”度…やすらぎフルコース…」（高木君）や「奏音の宿―Punk's lodge」（木下君）。一方、都会の中で模索したものには、「HOTEL IVY」（渥美君）、快適な読書空間をここちよいスペースとして提案した「Slow life」（砂原君）、斬新なアイデアでは、浮体ユニットによる浮島の海中部分に宿泊室を設けた「漂う宿」（石井君・佐藤君・堤君）、ビルの屋上に別世界を提案した「天空の宿」（高野君）、既存建物にまさに寄生するように設置された不思議な「都会の中のやすらぎ空間～寄生する宿～」（安藤君・山口君）があり、新鮮な発想に審査員の関心が集まった。

中でも最優秀賞の渥美君の作品「HOTEL IVY」は、密集するまちの中にたたずむホテルで、１階を大きくピロティーで開放し、一層ごとにオープンスペースを持つ、快適な滞在スペースの提案である。プレゼンテーションにおいてもA1の用紙全面を使い、むしろ意図して周辺の状況など余計な情報をあえて盛り込まず、心地よいモダンな滞在スペースを直球で提案しており、審査員の評価も一番高かった。

選外の作品の中にも優れたものが数多くあり、力作ぞろいであった。

今回当選された皆さん、残念ながら選に漏れた皆さん、本当にお疲れ様でした。この経験は皆さんの力になり、必ず次に活かされるものと確信しています。今後の皆さんの活躍を大いに期待しています。



入選・優秀賞　**松田健也**　埼玉県立熊谷工業高等学校３年

普通のコンペは比較的規模の小さな住宅ですが、このコンペは宿というテーマで規模が大きく、自由に設計できる課題だったので、挑戦しようと思いました。

締め切り直前まで作業をしていたので図面が雑になってしまって、これでは入選は無理だろうと思っていましたが、優秀賞を聞いた時は正直驚きました。それと同時に、初めて挑戦したコンペで賞がとれたのでとてもうれしいです。指導してくださった先生と、応援してくれた友達に感謝したいと思います。

▲審査コメント／**指田孝太郎**

宿泊室を水辺と緑の自然にうまくとけ込ませ、渡り廊下でつなげた分棟配置とし、水辺の音、光、風、薫りを感じることができる、こころやすらぐ空間の提案である。エントランスへのアプローチや隣棟間隔にもう一工夫ほしいところであるが、鉛筆による書き込みや秀逸な模型など力量が感じられる作品である。

入選・優秀賞　**髙木　瞳**　福岡県立福岡工業高等学校３年

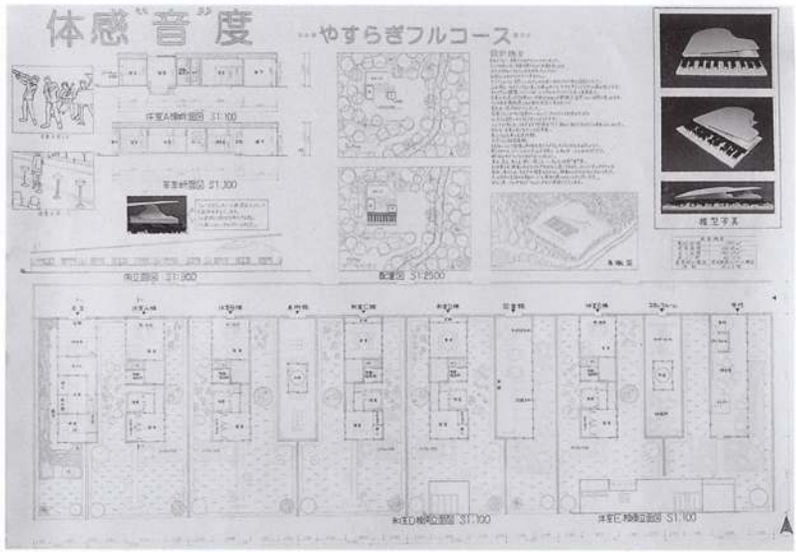
私は、小さい頃から音楽が大好きでした。特にピアノに親しみがあり、この設計課題を見た瞬間、大自然の中にある大きなグランドピアノが浮かんできました。この姿を建物として捉えていき、すべての人が「心も体も癒される宿」を考えてみました。

この作品を完成させるまでの大変な日々と、応援してくれた友達や先生方、家族への感謝の気持ちでいっぱいでした。私一人の力では、入選することは難しかったと思います。これからも、「人にやすらぎを与える建築」を目指して頑張っていきたいです。

▼審査コメント／**長坂　大**

「ピアノのかたち」といった具体的形態を参照すると、建築は陳腐な姿になりがちである。たとえば客室プランがピアノ型で蓋が屋根といったように。（ヴェンチューリのいう「アヒル小屋」だ。）

しかし、作者はそうはしなかった。彼女は、鍵盤を建築と庭の平面計画に変換したのである。そもそも黒鍵と白鍵の配列は、音楽が求める厳密な秩序によって数学的な美しさを獲得している。この作品はその美しいリズムを空間として実現していて秀逸だ。…けれども「ピアノの蓋コンサート屋根」は大失敗。笑える。まあ、これくらいは見なかったことにしよう。



●審査記録

10月４日　予備審査：応募作品について応募規定違反の有無を調べ、その検討を行った。（教育委員会・工高生教育小委員会）

10月14日　審査会：審査会欠席の審査委員３名による事前審査と審査委員11名による。

（審査時間13：30～17：30）

●審査経過

審査を開始するにあたり、本年度の応募校、応募数の報告と、大きな違反がなかった旨の予備審査の結果報告があった。続いて審査委員長より、審査方針の確認があり、審査に入った。

■１次審査（審査委員11名、事前審査３名）131作品→43作品

全応募作品について、審査委員１名が10作品を選んで投票し、当日欠席した審査委員の事前審査の投票を加え集計した。

得　票	11	9	8	7	6	4	3	2	1	0
作品数	1	2	1	2	5	6	1	7	18	88

２次審査に向け、得票１および２の25作品について審議した結果、得票１の作品から３点を２次審査対象作品として含めることを決定し、21作品を１次審査通過とした。

（審査時間　13：50～15：50）

■２次審査（審査委員10名）21作品→10作品

１次審査において３票と４票の作品について審議を行い、その後、投票に入った。全21作品について、審査委員１名が５作品を選んで投票を行った。

得　票	8	6	4	3	1	0
作品数	2	1	3	4	4	7

３票以上を取得した10作品を入選とし決定した。

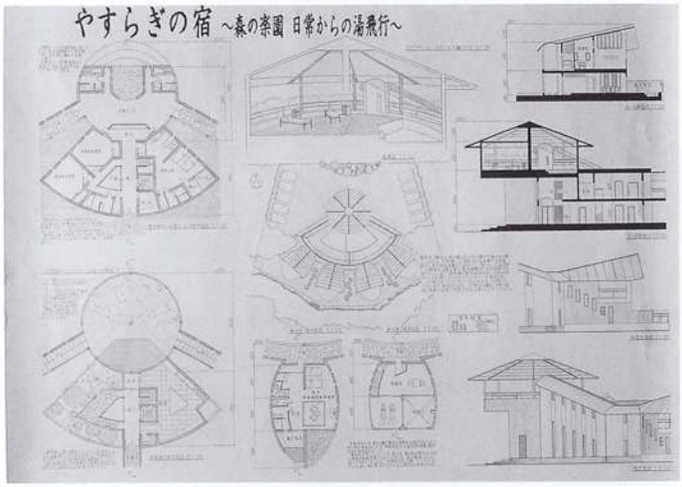
（審査時間：15：50～16：50）

■３次審査（審査委員10名）

入選の10作品を対象に審議を行い、審査委員１名が２作品を選んで投票を行った。

得　票	8	5	3	2	1	0
作品数	1	1	1	1	2	4

得票上位の３作品のうち、最高得票８の作品を最優秀作品とし、他２作品を優秀作品と決定した。入選作品について、一人の審査委員が１作品ずつを担当し、その評価を会誌「建築と社会」のコンクールでの紙面でまとめることを約束し、審査会を終了した。　（審査時間：16：50～17：30）



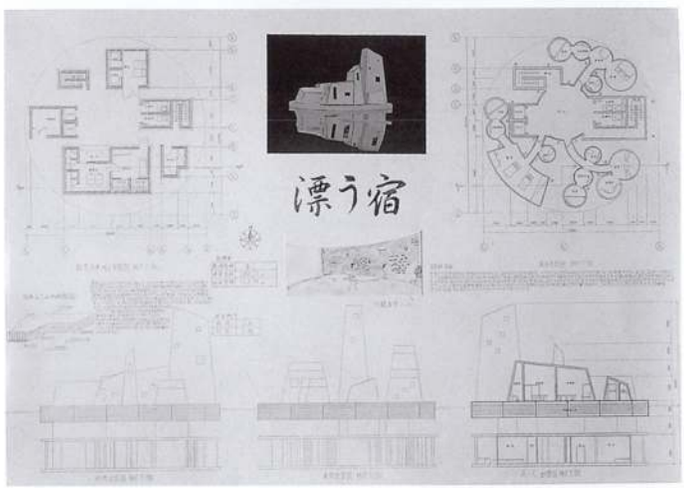
入選 **福元雄太** 東京都立小石川工業高等学校３年

課題研究で設計コンペに挑戦しようとさまざまなコンペを調べ、テーマ「やすらぎの宿」に惹かれ、今回のデザインコンクールに応募しました。設計をする上で、自分が老いたとき、宿泊してやすらげる宿になるよう考えました。

夏休みを返上して取り組みましたが、遅くまで学校に残ってアドバイスをいただいた先生方の協力あっての受賞だと思うので、感謝しています。

◀審査コメント／**竹原義二**

福元君の作品は宿泊棟を４室に限定し、それぞれを分棟として計画することで、宿ではあるが、自分の別荘に帰ってくるような雰囲気をつくり出している。そして、自然とどう対峙し、安らぎという行為を空間の中でいかに体感することができるのか、というところに注目し、最上階にリラクゼーションの場を外の部屋として計画したことが高く評価された。今後の活躍を期待する。



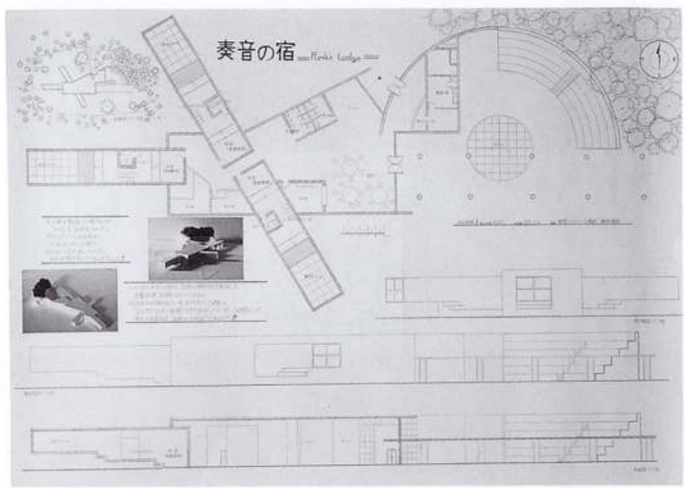
入選 **石井晴奈・佐藤弘樹・堤直哉**
静岡県立沼津工業高等学校２年

私たちは、やすらぎとは何かから考え、海にたどり着いた。私たちの考える海とは、母なる大地・やすらぎ・波の音や、鳥などの声でいやされると思い、海の中を漂うように設計をしました。

とっても嬉しく、私たちの作品が入選し驚きました。夏休みからコンセプトを考え、３人で意見をぶつけ合い、「漂う宿」が完成した。設計することは難しく大変だったが、完成した時は、とても嬉しく楽しかったなと思いました。

◀審査コメント／**笹村欽也**

海を「癒しの場」とした作品が何点か応募されていた。その中でも企画構成力に優れ、タイトルどおり「漂う」心地よさを体感できる点が評価された。海上に浮かぶ建築物の造形、海中にある泡のような空間処理は巧みである。ただ、海上に漂う象徴的建物がバックオフィスというのがもったいない。できれば海中に「誘う場」として、もう一工夫欲しかった。



入選 **木下冬樹** 堺市立工業高等学校３年

山や川などの自然の中にもやすらぎは存在しますが、そのほかにも“安らぎ”は数え切れないほどあると思います。私は、パンクという音楽にやすらぎを感じる人たちをテーマに、この宿を設計しました。

段々と嬉しさがこみ上げ、「積み重ねてきた時間と努力が認められた」という達成感とともに、先生やアドバイスをくれた人たちへの感謝の気持ちが溢れてきました。今回のコンペでは学ぶことが多く、私にとって大きな一歩となりました。

◀審査コメント／**菅正太郎**

大人たちが考える"やすらぎ"は退屈。音楽狂のための空間と言えるこの宿は、ギター型プランに、木々に囲まれたエピダウロスの劇場が組み込まれ、宿泊空間は三方に宙に浮いている。オリジナルアイデアが率直に満載されている。荒々しさが形の不整合さにもなっているが、ハーモニーだけが音楽ではないとの叫びにも聞こえる。



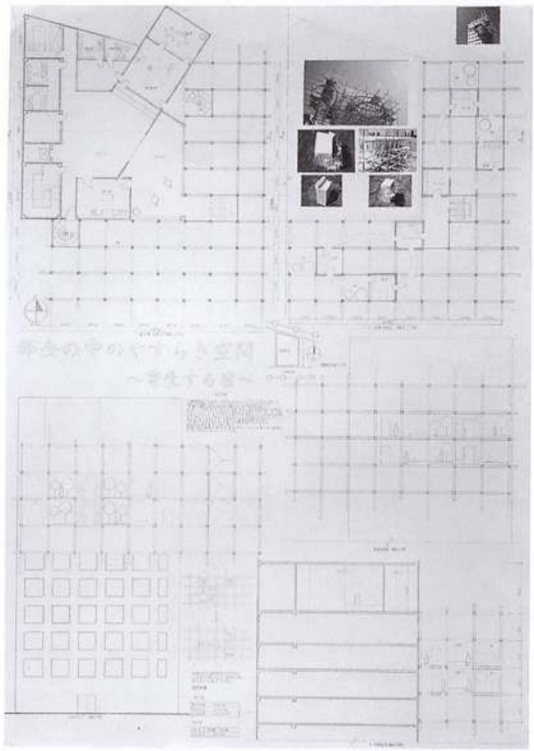
入選 **上原和大・大迫義文・西鶴竜也・東亮太**
宮崎県立小林工業高等学校３年

動機は、歴史ある設計競技で自分たちの設計製図に対する可能性を試したかったからです。テーマを見て、自分たちの住む霧島の麓こそがやすらぎ空間そのものだったので、そこに真の五感を感じられるように設計しようと思いました。

制作する時間があまりなく、やや不満な仕上がりとなったので、正直、入選するとは思っていませんでした。本当に驚きました。このような名誉な賞をいただきとても嬉しいです。

◀審査コメント／**佐々木栄**

自然の中にほんの小さなやすらぎを感じられる宿“SENSE”は、図面プレゼンテーションに秀でた注目の作品である。客室をはじめとした空間と川や自然のかかわり、空間構成に物足りなさは感じられたが、アプローチの造形や模型表現については評価は高い作品であった。



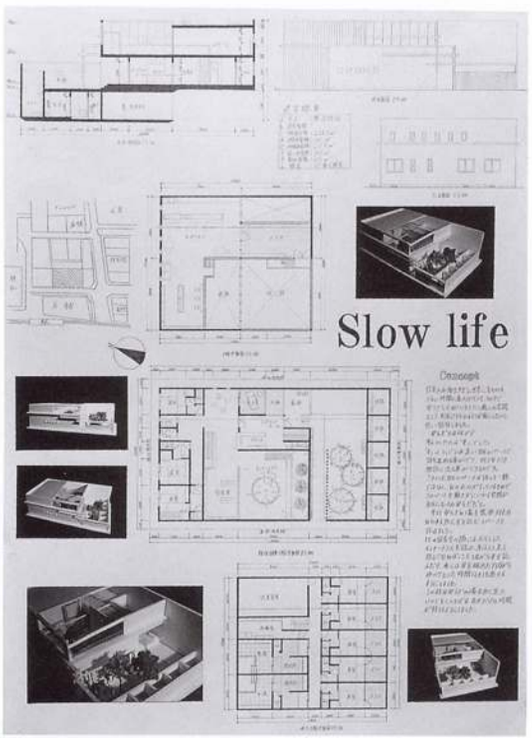
入選 **安藤匠・山口宗一郎** 静岡県立沼津工業高等学校２年

私たちが「都会の中のやすらぎ空間～寄生する宿～」という作品を設計した理由は、都会の中では、「やすらげる」という空間がないと思ったからです。ですが、都会では地価が高いため、普通には建てずに、高いビルに寄生させました。

入選ということを聞いた時は、予想にもしなかったのでとても驚き、うれしかったです。私たちはこのコンクールに参加して、建築ということを少し理解し、入選したことで凄い自信がついたような気がします。今後も、いろいろなコンクールに参加し、素晴らしい作品を設計していきたいです。

◀審査コメント／**吉井歳晴**

攻撃的で若々しく、アイデアコンペらしい案である。ともすれば優しくなりがちなテーマに対し、「寄生」「変化」という明解なコンセプトで都市の問題に向かい、将来的な展望まで提示できている点が評価できる。しかしその方法には既視感が残ること、また巧みで魅力的な模型写真に比べ計画の具体性や図面表現に粗さがみられたことが残念である。今後に期待したい。



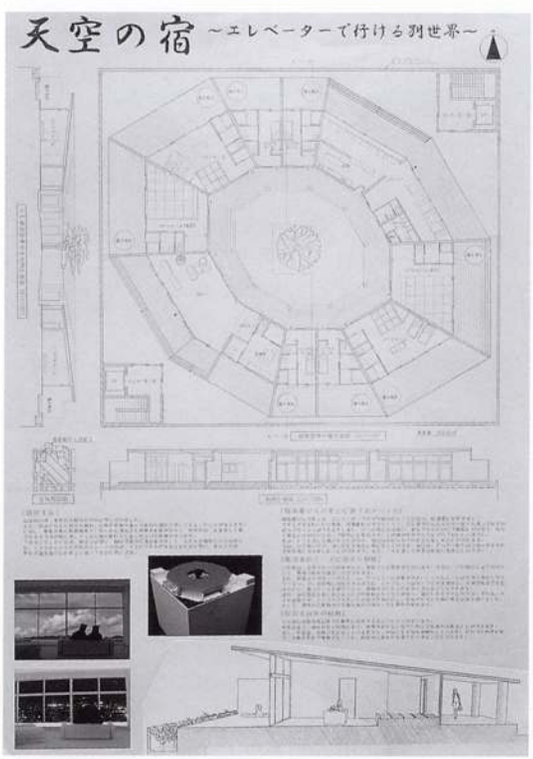
入選 **砂原友里枝** 大阪市立工芸高等学校３年

やすらぎとは「何か」。そう考えたとき、思いうかんだのが「本」でした。本は、自分のペースで読むことができ、そのペースをくずさずにいることのできる空間がやすらぎになるのではないかと考え、設計しました。

先生から入選したという報告を受けたとき、喜びよりもまず、自分が受賞したことの驚きのほうが大きく、時間がたってからだんだんと実感が沸いてきました。

審査コメント／**長瀬りか**▶

心の安らぎを形にするコンセプトに現実性があり、静けさのある客室や立体的なのびやかさのある共用空間など、性格の異なる空間をうまくつなげて構成されている。今後、空間における高さや建築的な工夫について、もっと自由にかつ細やかにイメージし、外界とのかかわり方に少し心を配ってみるなど、アイデアを豊かにふくらませる勉強を続けてほしいと思う。



入選 **高野翔太** 山梨県立甲府工業高等学校３年

やすらぎの宿をもとめて、行くにも帰るにも時間やお金がかかり、旅行中は大変楽しく過ごせるのですが、家に帰ってくると疲れてしまったという経験があります。「やすらぎ」といえば、とても静かで周りには海や森があって景色を見たり、温泉に入ってゆっくりするというのが私のイメージです。そういったものが身近にあればと思い考えたのが「天空の宿」です。

取り組む時間も短く、また図面を描くのが遅く、家に大きな製図板がないため、毎日、朝早く登校し、夜遅くまで学校で頑張ってきた甲斐がありました。先生方や友人たちの助けがあったからだと感謝しています。

◀審査コメント／**林　浩二**

超高層ビルの上部に設定した案がいくつかあったが、いずれも場所の設定にとどまっていたように思う。そこからさらに一歩進めて、ここを訪れる人たちの姿が描き出されて欲しい。

この案はパラペットの納め方に視界を遮らない工夫をしているという点で評価をした。ただ、実現させるにはもっと安全性に対する配慮とスケール感が必要。

●応募学校

・北海道
旭川工業高等学校
・北海道
帯広工業高等学校
・秋田県立
秋田工業高等学校
・山形県立
米沢工業高等学校
・福島県立
会津工業高等学校
・福島県立
勿来工業高等学校
・埼玉県立
熊谷工業高等学校
・国立
東京工業大学附属
科学技術高等学校
・東京都立
蔵前工業高等学校
・東京都立
小石川工業高等学校
・東京都立
田無工業高等学校
・山梨県立
甲府工業高等学校
・新潟県立
新潟工業高等学校
・静岡県立
静岡工業高等学校
・静岡県立
沼津工業高等学校
・静岡県立
浜松工業高等学校
・名古屋市立
工芸高等学校
・私立
名古屋工業高等学校
・岐阜県立
岐阜工業高等学校
・三重県立
伊勢工業高等学校
・三重県立
四日市工業高等学校
・福井県立
武生工業高等学校
・大阪府立
今宮工業高等学校
・大阪市立
工芸高等学校
・大阪市立
都島工業高等学校
・堺市立
工業高等学校
・京都市立
伏見工業高等学校
・兵庫県立
豊岡総合高等学校
・岡山県立
津山工業高等学校
・広島県立
宮島工業高等学校
・高知県立
宿毛工業高等学校
・福岡県立
福岡工業高等学校
・熊本県立
球磨工業高等学校
・大分県立
日出暘谷高等学校
・大分県立
鶴崎工業高等学校
・宮崎県立
小林工業高等学校
・宮崎県立
宮崎工業高等学校

入選者の感想文は誌面の関係上、委員会にて要約の上、掲載しました。
文責・岡本展好／教育委員会

写真撮影
スタディオ・クリオ

日本建築協会

月間の動き

【平成18年11月分】

理事会

第６回常任理事会
11月29日（水）16：00～17：30
出席者　佐野会長ほか７名
議　事（１）平成18年度収支予算執行状況について
（２）90周年記念事業関連事項について
（３）その他報告事項

編集委員会

第８回編集委員会
11月８日（水）18：15～20：15
出席者　設楽委員長ほか４名
議　事（１）来年の表紙デザインの検討
（２）12月号「私の空間作法」特集報告＋「伊丹産業㈱埼玉精米工場」報告
（３）１月号「京都支部設立60周年記念号」特集報告
（４）２月号「学校新時代」特集報告
（５）３月号「東海支部」特集の企画
（６）４月号「90周年記念号」特集の企画
（７）５月号以降の特集の検討
（８）作品作風の報告・検討
（９）収支状況報告
第１回計画系分科会
11月20日（月）18：30～21：00
出席者　三宅幹事ほか４名
議　事　2007年５月号計画系特集の企画
第１回インテリア・住宅系分科会
11月13日（月）18：30～20：00
出席者　高野委員ほか１名
議　事　６月号特集の企画
第９回構造分科会
11月10日（金）18：00～20：15
出席者　中塚幹事ほか５名
議　事（１）４月号「90周年記念号」企画経過報告
（２）「構造の頁」の企画
（３）広告の企画
（４）勉強会
第８回法令分科会
11月14日（火）14：00～16：00
出席者　赤井幹事ほか６名
議　事（１）「法令コーナー」の企画
（２）「90周年記念号」の企画
（３）情報交換
第８回作品作風小委員会
11月30日（木）19：00～20：00
出席者　井上副委員長ほか７名
議　事（１）作品の選定
（２）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（３）「gallery」掲載報告・予定
（４）前回の編集委員会の報告
（５）90周年記念号企画委員会からの報告
第８回広告企画小委員会
11月８日（水）17：00～18：15
出席者　設楽委員長ほか３名
議　事（１）広告企画小委員会副委員長の選出
（２）12月号「私の空間作法」特集報告＋「伊丹産業㈱埼玉精米工場」報告
（３）１月号「京都支部設立60周年記念号」特集報告
（４）２月号「学校新時代」特集報告
（５）３月号「東海支部」特集の企画
（６）４月号「90周年記念号」特集の企画
（７）単発広告企画頁のテーマとその具体化
（８）広告掲載状況
（９）収支状況報告
第３回90周年記念号企画委員会
11月17日（金）18：00～21：00
出席者　設楽編集委員長ほか７名
議　事　４月号「90周年記念号」の企画

事業委員会

第５回情報見学小委員会
11月９日（木）18：00～19：00
出席者　瀬戸川委員長ほか７名
議　事（１）茶室見学会について
（２）講演会について
（３）委員会体制について
（４）来年度事業案件について

出版委員会

第７回出版委員会
11月16日（木）18：00～19：00
場　所　住まいの研究室
出席者　上原委員長ほか11名
議　事（１）〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
（２）進行中のテーマ報告　４件

教育委員会

第１回講習会小委員会
11月２日（木）18：00～20：00
出席者　山形委員長ほか６名
議　事（１）平成17年度 講習会実績について
（２）本年度の方針
第52回工高生デザインコンクール表彰式
11月18日（土）14：00～16：00
場　所　OMMビル２階 ４号室
出席者　受賞者　12名（同伴９名）
指田孝太郎審査委員長ほか１名
山形教育委員長ほか２名

入会者（敬称略）

〔個人正会員〕
大江　泰輔（マニエラ建築事務所）
大島　茂彰（オオシマ創建）





▲11月16日、井上委員事務所での出版委員会&懇親会



◀11月18日、第52回工高生デザインコンクール表彰式（前列中央が指田孝太郎審査委員長）

日本建築協会企画・販売

出版図書一覧

1917年3月に創設された日本建築協会（当時・関西建築協会）は、すでに昭和初期には大阪近辺で住宅博覧会や建築講演会を開く一方、当時は入手しにくかった建築の情報を図書の出版という形で会員に提供していた。

＊

以後、創立周年記念事業として、その時代の動きをとらえて単行本を出版している。

50周年、60周年、70周年、そして80周年に、図書の出版が企画され、現在も継続して発行・販売されている出版物は、以下のとおり。

＊

購入希望者は、㈳日本建築協会事務局（TEL06―6946―6981、FAX06―6946―6984）まで。

日本建築協会創立70周年記念出版

住宅近代化への歩みと日本建築協会 1988年

A4判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会創立75周年記念出版

工高生デザインコンクール入選作品集 1992年

A4判　企画・発行：日本建築協会　本体価格2,000円

昭和生まれ　関西の建築家50 1987年

A4判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会建築クラブ朝食会300回記念講演記録集

講演記録集 **話のはなし** 1997年

B6判5分冊　企画：日本建築協会建築クラブ　頒布価格2,500円（税・送料込み）

民間（旧四会）連合協定

工事請負契約約款

工事請負契約書・仲裁合意書・契約書使用上の留意事項

1部￥230（税込み）送料　実費

日本建築協会事務局（06-6946-6981）で頒布

日本建築協会創立60周年記念事業

建築技術選書

企画：日本建築協会
発行：学芸出版社

A5判・130頁～160頁　本体価格￥1,200～￥1,400

各冊￥100割引頒布中〈日本建築協会事務局（06-6946-6981）にて〉

- 3 マイコンによる構造設計のすすめ（改訂版）　魚木晴夫
- 19 住宅設計とインテリア　福岡喜久雄
- 24 鉄骨構造の話　金多潔・甲津功夫・西沢英和
- 27 建築積算業務　生島道道
- 28 建築金物の知識　立野一郎

日本建築協会創立60周年記念事業「建築技術選書」姉妹篇・四六判2色刷イラスト入

〈プロのノウハウ〉シリーズ

企画：日本建築協会　発行：学芸出版社　本体価格￥1,600～￥2,500

- 躯体工事監理のチェックポイント100　須賀好富
- 空調設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
- 衛生設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
- 鉄筋工事・本音の現場学　荒川治徳
- 建築基準法の難解条文を読みこなすコツ　高木任之
- 建築と音のトラブル　中川清ほか
- 木造住宅監理の話　山田　修
- 環境と共生する建築25のキーワード　大西正宜
- 鉄骨工事の現場学　石田満裔
- 仕上工事監理のチェックポイント　日建設計監理業務研究会
- 木造住宅のしくみ　在来工法の基本と応用　浅野平八・東　敏博
- コンクリート工事のチェックポイント100〈新版〉　加賀秀治
- インテリアコーディネートの100ポイント　町田ひろ子監修／松本　茂・村元俊子著
- 木づくりの常識非常識　上村　武
- 建築トラブルにみる常識非常識　荒川治徳
- 建築関連法規を読みこなすコツ　高木任之
- 徹底解説〈大改正〉建築基準法　高木任之
- 建築の現場管理システム　伊東貞夫
- 新版建築物の消防法を読みこなすコツ　高木任之
- 新版コンクリート工事のチェックポイント100　加賀秀治
- 建築基準法の性能規定を読みこなすコツ　高木任之
- 新版　都市計画法を読みこなすコツ　高木任之
- 新版　建築基準法を読みこなすコツ　高木任之
- 建築工事の祭式　「建築工事の祭式」編集委員会
- 飛躍する構造デザイン　渡辺邦夫
- 改訂版　都市計画法を読みこなすコツ　高木任之
- 改訂版　建築基準法を読みこなすコツ　高木任之
- 改訂版　建築物の消防法を読みこなすコツ　高木任之
- プロが教えるキッチン設計のコツ　井上まるみ

日本建築協会創立70周年記念事業・B5判

選書特装版

企画・日本建築協会　発行・学芸出版社　本体価格￥2,800～￥3,800

- 水にまつわるトラブルの事例・解決策〈建築篇〉　「建築漏水」編集委員会
- 水にまつわるトラブルの事例・解決策〈設備篇〉　「設備漏水」編集委員会
- 建物の汚れ－トラブル事例と解決策　「建物の汚れ」編集委員会
- 建築デザインのための構造計画　須賀好富
- 入門・建築積算　生島道春
- 建物の結露－トラブル事例と解決策　「建物の結露」編集委員会

伝統の知恵と心を学び
明日に生かす

■ 建築科　（昼間　２年制）
■ 建築科二部　（夜間　２年制）
■ 伝統建築研究科　（夜間　１年制）

・創立５５年を誇る伝統校
・少人数制のきめ細やかな教育
・京都市内唯一の建築専門学校
・卒業と同時に二級建築士受験資格





学校法人京都建築学園
京都建築専門学校

〒602-8044 京都市上京区下立売通堀川東入東橋詰町174
TEL 075(441)1141　FAX 075(441)7330
http://www.kyotokenchiku.ac.jp
e-mail　info@kyotokenchiku.ac.jp

《プロのノウハウ》 企画・日本建築協会

現場で学ぶ 住まいの雨仕舞い



玉水新吾 著
TAMAMIZU Shingo

定価2100円（本体2000円）
四六判・224頁 ISBN4-7615-2390-5

〈本書の内容〉

序　雨が漏る前に
第1章　住宅の雨漏りとは
第2章　雨漏りの要因
第3章　雨漏りの事例（屋根～軒先編）
第4章　雨漏りの事例（外壁編）
第5章　雨漏りの事例（バルコニー編）
第6章　雨漏りさせないために

雨漏り事例をもとに説く
トラブルのない家づくり

学芸出版社 〒600-8216 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
tel 075-343-0811　fax 075-343-0810
http://www.gakugei-pub.jp/　E-mail info@gakugei-pub.jp

NPO 京都府指令６府民第１号の85
特定非営利活動法人

近未来の環境とコンクリートを研究する会

理事長　望月秀祐

〒615-0022　京都市右京区西院平町７番地　西院第一ビルディング7F
TEL（075）316-1715　FAX（075）315-5317

京都の伝統文化を今日まで受継ぐ　京建具

株式会社　トクダ

〒601-8355　京都市南区吉祥院石原堂ノ後16-3　TEL075-682-1515　FAX075-682-1511

URL　http://www.kyoto-tokuda.co.jp

ISO9001・ISO14001 認証取得
花園・外構・文化財庭園整備・樹木診断・治療・立木鑑定・屋上緑化・芝生グランド工・ビオトープ
設計・責任施工・管理

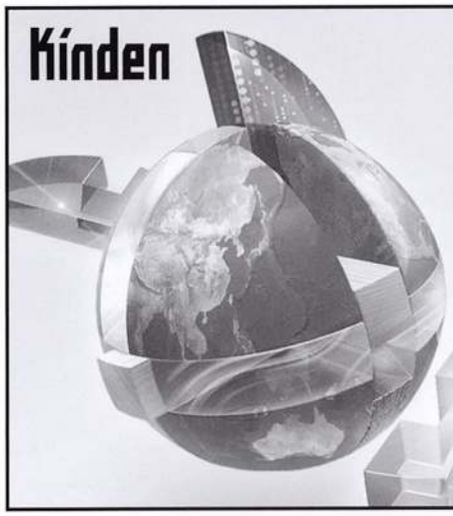
花豊造園株式会社

代表取締役　山田昌次（技術士・樹木医）

本社
〒600-8361　京都市下京区大宮通五条下る
TEL(075)341-2246　FAX(075)361-0961
URL　http://www.hanatoyo.co.jp

営業所
（宇治・大阪・滋賀・和歌山・奈良）
E-mail　home@hanatoyo.co.jp

Kinden



時代のニーズを、
確かなフォルムに。

ひとつひとつのピースがしっかりと結びつき
美しい形を完成させる球体組みパズル——。
きんでんは電気をはじめとする様々な技術をピースとして
社会生活の安定を支える
確かな結びつきを創造しています。



未来のことを はじめています。
きんでん

本　店　大阪市北区本庄東2丁目3番41号
〒531-8550　☎06-6375-6000
東京本社　東京都千代田区九段南2丁目1番21号
〒102-8628　☎03-5210-7272
http://www.kinden.co.jp/

謹賀新年 亥 平成19年元旦

淺沼誠夫
株式会社 淺沼組
会長

〒543-8688 大阪市天王寺区東高津町12－6 TEL(06)6768-5222

名誉会長
佐野正一
株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役相談役

〒540-0034 大阪市中央区島町2－4－7 TEL(06)6943-1371代

髙木嗣郎
株式会社 大林組
専務取締役

〒540-8584 大阪市中央区北浜東4－33 TEL(06)6946-4701

名誉会長
市川宏
株式会社 東畑建築事務所
取締役相談役

〒541-0044 大阪市中央区伏見町4－4－10 TEL(06)6202-0391

佐野吉彦
株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役社長

〒540-0034 大阪市中央区島町2－4－7 TEL(06)6943-1371代

立成良三
財団法人 大阪住宅センター
理事長

〒542-0081 大阪市中央区南船場4－4－3
御堂筋アーバンライフビル4F
TEL(06)6253-0071 FAX(06)6253-0145

奥村正樹
株式会社 オクジュー
取締役会長

〒530-0047 大阪市北区西天満5－3－7 TEL(06)6312-4131

設楽貞樹
株式会社 安井建築設計事務所
常務取締役大阪事務所副所長

〒540-0034 大阪市中央区島町2－4－7 TEL(06)6943-1371代

谷淳之介
株式会社 東畑建築事務所
代表取締役社長

〒541-0044 大阪市中央区伏見町4－4－10 TEL(06)6202-0391

嘉納秀一
三宝電機 株式会社
代表取締役社長

〒530-0047 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル)
TEL(06)6364-1471

菅谷節
ダイダン 株式会社
代表取締役会長

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1－9－25 TEL(06)6441-8231

月城則男
新東洋合成 株式会社
代表取締役

〒550-0004 大阪市西区靭本町2－9－11 TEL(06)6446-6121

川口順弘
社団法人 日本建築協会
監事

〒659-0032 自宅・芦屋市浜風町6－10－2 TEL(0797)38-7623

杉山泰生
社団法人 日本建築協会
監事

〒578-0947 東大阪市西岩田3－1－15－113 TEL(06)6784-0761

内藤正克
株式会社 内藤建築設計事務所
相談役会長

〒675-1379 兵庫県小野市上本町240 小野ビル TEL(0794)62-4757代
〒675-1362 自宅・兵庫県小野市久保木町1063 TEL(0794)62-4668

佐々木徹
西日本建設業保証 株式会社
取締役社長

〒550-0012 大阪市西区立売堀2－1－2 TEL(06)6543-2553

錢高一善
錢高組
社長

〒550-0005 大阪市西区西本町2－2－11
なにわ筋ツインズ ウエスト
TEL(06)6538-7801

中村光男
日建設計
代表取締役社長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4－6－2 TEL(06)6203-2361

沼田　亘

株式会社 昭和設計
代表取締役社長

〒552-0007　大阪市港区弁天1－2－1－800　TEL(06)6575-5555

薬袋公明

名誉顧問

日建設計
顧問

〒541-8528　大阪市中央区高麗橋4－6－2　TEL(06)6203-2361

和中　勝

株式会社 和中商店
取締役相談役

〒531-0072　大阪市北区豊崎5－8－11　TEL(06)6371-0731～5
〒150-0031　東京都渋谷区桜丘町11－5　TEL(03)3464-9723
〒453-0804　名古屋市中村区黄金通3－34　TEL(052)481-7338
〒662-0836　自宅・西宮市大畑町10-22　TEL(0798)67-0386

原　眞一

コーナン建設 株式会社
代表取締役

〒531-0075　大阪市北区大淀南1－9－10号　TEL(06)6456-4311

宮本博司

株式会社 宮本工務設計事務所
代表取締役
ISO9001認証取得（創立62年）
〒665-0022 宝塚市野上1－2－34（宮本ビル）
TEL(0797)71-0431大代表　FAX(0797)71-5139 受信専
E-mail : mto@gold. ocn. ne. jp URL : http : //宮本設計. jp. io
神戸支店　TEL & FAX（078）997-0371

人見尤浩

社団法人 日本建築協会
常務理事兼事務局長

〒540-6591　大阪市中央区大手前1－7－31　TEL(06)6946-6981

村石　全

株式会社 クトクコーポレーション
代表取締役社長

〒556-0021　大阪市浪速区幸町2－5－3　TEL(06)6568-3671
〒596-0011　工場・岸和田市木材町9－3　TEL(0724)37-2524
〒649-7167　工場・和歌山県伊都郡かつらぎ町移430番地
TEL(0736)22-7880

藤井　實

エスケー化研 株式会社
代表取締役社長

〒567-0034　茨木市中穂積3－5－25　TEL(072)621-7720

森田司郎

財団法人 日本建築総合試験所
理事長

〒565-0873　吹田市藤白台5－8－1　TEL(06)6872-0391
http://www.gbrc.or.jp

古元眞美

株式会社 シブタニ
代表取締役会長

〒542-0082　大阪市中央区島之内2－13－7　TEL(06)6211-7335

山本貴士

朝陽電気 株式会社
代表取締役

〒530-0005　大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビルディング内
TEL(06)6385-1361代表
〒565-0873　自宅・吹田市藤白台4－23－8　TEL(06)6871-0851



松本壮一郎

愛知工業大学工学部都市環境学科建築学専攻
助教授

〒470-0392　豊田市八草町八千草1247　TEL(0565)48-8121
〒465-0083　自宅・名古屋市名東区神丘町2－17
三旺マンション神丘公園303　TEL(052)703-2610

與謝野　久

日建設計
都市建築研究所所長

〒102-0072　東京都千代田区飯田橋2－18－3　TEL(03)5226-3030

謹賀新年　亥　平成19年元旦

設計事務所有志

株式会社 伊東建築設計事務所

代表取締役　岡　本　清　彦

〒556-0016 大阪市浪速区元町1－5－7　TEL 大阪 (06) 6646-0161(代)

株式会社 伊藤建築設計事務所

代表取締役会長　織　田　愈　史
代表取締役社長　森　口　雅　文

本社・名古屋事務所　〒460-0002 名古屋市中区丸の内1－15－15（桜通ビル）TEL（052）222-8611
東京事務所　〒101-0021 東京都千代田区外神田3-5-12（聖公会神田ビル）TEL（03）5294-6211

株式会社 瀬戸本淳建築研究室　ISO9001

代表取締役　瀬　戸　本　淳

〒650－0024 神戸市中央区海岸通1－1－1 神戸郵船ビル　TEL（078）333－0138
http://www.jsao.co.jp

株式会社　東畑建築事務所

代表取締役社長　谷　淳之介

本社・大阪事務所　〒541-0044　大阪市中央区伏見町4-4-10　TEL（06）6202-0391
http://www.tohata.co.jp
大阪・東京・名古屋・九州

日建設計

代表取締役社長　中　村　光　男

東京　102-8117　東京都千代田区飯田橋2－18－3　TEL（03）5226-3030
大阪　541-8528　大阪市中央区高麗橋4－6－2　TEL（06）6203-2361
名古屋　460-0008　名古屋市中区栄4－15－32　TEL（052）261-6131

安井建築設計事務所

代表取締役社長　佐　野　吉　彦

本　社　〒540−0034　大阪市中央区島町2−4−7　TEL（06）6943−1371（代表）
支　社　大阪・東京・名古屋・広島・九州　　http://www.yasui-archi.co.jp/

謹賀新年　亥　平成19年元旦

建設業有志

人・都市・自然のシンフォニー
Asanuma
株式会社 淺沼組
代表取締役社長　淺　沼　健　一

本社・大阪本店　大阪市天王寺区東高津町12－6　TEL（06）6768-5222
東京本店　東京都新宿区荒木町5　TEL（03）5269-3111
名古屋支店　名古屋市中村区名駅南3－3－44　TEL（052）571-5571
支店　北海道・東北・北関東・横浜・神戸・広島・九州

OBAYASHI
株式会社 大林組
取締役会長　大　林　剛　郎
取締役社長　脇　村　典　夫

東京本社　東京都港区港南2－15－2　TEL（03）5769-1111
本店　大阪市中央区北浜東4－33　TEL（06）6946-4400
支店　札幌・東北・横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州

奥村組
OKUMURA CORPORATION
これまでも、これからも。
100
おかげさまで100周年
代表取締役社長　奥　村　太　加　典

本　社　〒545-8555 大阪市阿倍野区松崎町2−2−2　TEL 大阪（06）6621-1101（代表）
東京本社　〒108-8381 東京都港区芝5－6－1　TEL 東京（03）3454-8111（代表）

100年をつくる会社

鹿島
KAJIMA CORPORATION
本　社：東京都港区元赤坂1丁目2番7号
電話03（3404）3311
関西支店：大阪市中央区城見二丁目2番22号・マルイトOBPビル
電話06（6946）3311
http://www.kajima.co.jp/

人がつくる、人の場所。

SHIMIZU CORPORATION

清水建設

取締役社長　野村哲也
専務執行役員 関西事業本部長　小橋鴻三

本　　社　東京都港区芝浦１－２－３　電話（03）5441-1111
関西事業本部　大阪市中央区本町３－５－７　電話（06）6263-2800

大地への愛　人間への愛

錢高組

社長　錢高一善

本　　店　大阪市西区西本町２－２－11
なにわ筋ツインズ　ウエスト
TEL（06）6531－6431
本　　社　東京都千代田区一番町31番地
TEL（03）3265－4611
支社・支店　大阪・東京・北海道・東北・北関東・千葉
横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州
URL　http:// www. zenitaka. co. jp/

TAISEI

大成建設株式会社

社長　葉山莞児
常務 関西支店長　寺下均

本　　社　東京都新宿区西新宿1－25－1新宿センタービル　TEL（03）3348-1111大代表
関西支店　大阪市中央区南船場１－14－10　TEL（06）6265-4504
ホームページ　http : // www. taisei. co. jp/

株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹中統一

〒541-0053　大阪市中央区本町4－1－13　TEL（06）6252-1201（代表）

戸田建設株式会社

代表取締役社長　加藤久郎
執行役員支店長　野村昇

本　　社　〒104-8388　東京都中央区京橋1－7－1　TEL 東京03(3535)1354
大阪支店　〒550-0005　大阪市西区西本町1－13－47　TEL 大阪06(6531)6095
支　　店　東京・千葉・関東・横浜・北陸・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州

謹賀新年　亥　平成19年元旦

建材・報道・学校・団体有志等

TOF（フッ素樹脂積層被覆鋼板）、COM（耐酸被覆鋼板）製造及び責任施工

金属製屋根、外装、換気装置工事業

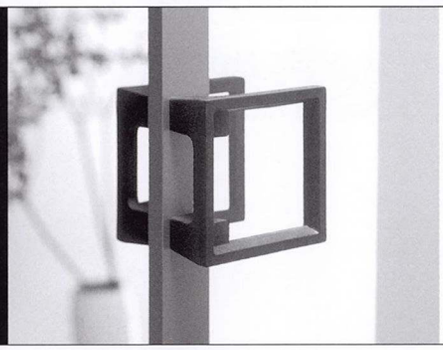
OSHIMA OHYO

代表取締役会長　貞利政和
代表取締役社長　吉田晃

本社／大阪本店　大阪市旭区太子橋1－15－22　TEL 06－6954－6521
支店、営業所　東京・名古屋・新居浜土木建築・四日市・岡山・広島・宇部
工場　新居浜・寝屋川

大島応用化学工業株式会社

Door Handle



建築文化を創造する
UNION 株式会社ユニオン　代表取締役社長 立野純三

iso 9001　iso 14001

www.artunion.co.jp

本社 ——— 大阪市西区南堀江2-13-22　〒550-0015
大阪支店 ——— 大阪市西区南堀江2-13-22　〒550-0015　tel 06-6532-3731　fax 06-6533-2293
東京支店 ——— 東京都江東区白河2-9-5　〒135-0021　tel 03-3630-2811　fax 03-3630-2816
名古屋営業所・ショールーム ——— 名古屋市中川区舟戸町3-20　〒454-0805　tel 052-363-5221　fax 052-363-5255
上海事務所 ——— Room 305, 555 Building, 555 Nanjing Road West, Shanghai 200041 PRC
tel ＋86-21-52130430　fax ＋86-21-52130431
北京事務所 ——— Room 1903, Dongyu Building, A Shuguang (W)A1, Caoyang Area Beijing 100028 PRC
tel ＋86-10-58220780　fax ＋86-10-58220779
アトリエユニオン／東京 ——— 東京都中央区日本橋室町4-5-1　〒103-0022　tel 03-3517-1818　fax 03-3517-1819
アトリエユニオン／大阪 ——— 大阪市西区南堀江2-13-22　〒550-0015　tel 06-6532-8920　fax 06-6533-0224

1955年創業

日報

建設業界でもっとも信頼　読まれている日刊情報紙

株式会社 **建設日報社**

社主 重村一

本社　〒550-0006 大阪市西区江之子島1－7－3　TEL（06）6444－2405－9
別館　〒550-0006 大阪市西区江之子島1－6－2　TEL（06）6444－6431－4

住安心空間のお手伝い

財団法人 大阪建築防災センター　URL http://www.okbc.or.jp
理事長 宮崎八郎
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17（ジョイント大手前ビル3階）　TEL（06）6943-7253

建築確認検査機構
（本所）〒540-0012 大阪市中央区谷町3－1－17（トレンザビル2階）　TEL（06）4794-8270
（支所）豊中・枚方・岸和田・八尾・堺

建築 インテリア 大工 設備 土木 環境 機械 CAD

モノづくりの学校
大阪工業技術専門学校 SINCE 1895

OCT
大阪市北区天満1－9－27　〒530-0043
0120-0910-19　FAX（06）6352-2861
URL http://www.oct.ac.jp



建 築 図 書 専 門 店

有限会社 柳々堂

〒550-0003　大阪市西区京町堀1-12-3
TEL(06)6443-0167　FAX(06)6443-1826
E-mail ryuryudo@osk4.3web.ne.jp
URL http://www4.osk.3web.ne.p/~ryuryudo

社団法人 日本建築材料協会

会　長　藤 井　實

〒550-0003 大阪市西区京町堀1－3－13 辰巳ビル9階　TEL(06)6443-0345 FAX(06)6443-0348
http://www.kenzai.or.jp/

社団法人 日本建築協会京都支部

支 部 長　望 月 秀 祐

〒604-0944 京都市中京区押小路通柳馬場東入 京都建設会館別館 TEL(075)211-2857·2877

社団法人 日本建築協会中国支部

支 部 長　古 林 敏 郎

〒730-0042 広島市中区国泰寺町1－8－4日興ビル内　TEL(082)244-2111

社団法人 日本建築協会東海支部

支 部 長　松 本 壮一郎

〒460-0008 名古屋市中区栄4－3－26（昭和ビル5階） TEL(052)261-1451

社団法人 日本建築協会和歌山支部

支 部 長　東 野 信 義

〒640-8045 和歌山市ト半町38番地 建築士会館内　TEL(073)423-2562

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

OKUJU
Space Creator
クオリティ＆コストパフォーマンス
ALTsシステム
スナップ工法
SP-600
メタルシステム天井
内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社オクジュー
本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530-0047
TEL(06)6312-4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・南九州・名古屋・上海

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工
ダイダン株式会社
本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見２丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

CHOYO
人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。
電気設備設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役　山本貴士
本　社　〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目 2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代)　FAX 06(6385)1050

www.naniwa.com
We have hope
■印刷事業 ポスター、カタログ、パンフレット、書籍、年鑑、社史、雑誌、文字、画像データ処理
■メディア事業 SPプランニング・コンサルティング、ITソリューション、web及びメディアコンテンツ企画制作、
株式会社NPCコーポレーション
本　社　〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19
tel:(06)6351-7271(代)　fax:(06)6352-7479
第二ビル　〒530-0043 大阪市北区天満1-11-8
tel:(06)6351-0128(代)　fax:(06)6351-0208
東京支社　〒105-0004 東京都港区新橋6-17-2
tel:(03)3433-5211(代)　fax:(03)5776-7733
(旧社名ナニワ印刷㈱、日本データネット㈱)

地球環境を守り、100年建築に貢献する
NACL のアルミ表面処理
株式会社日本電気化学工業所
http://nacl.jp　E-mail:sc@nacl.co.jp
本部営業部　〒560-0036 大阪府豊中市蛍池西町2丁目7番26号 NACLビル2階
TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632
東京事務所　〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目7-2 東京NACLビル
TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・京丹後（0772）72－2220
舞　鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

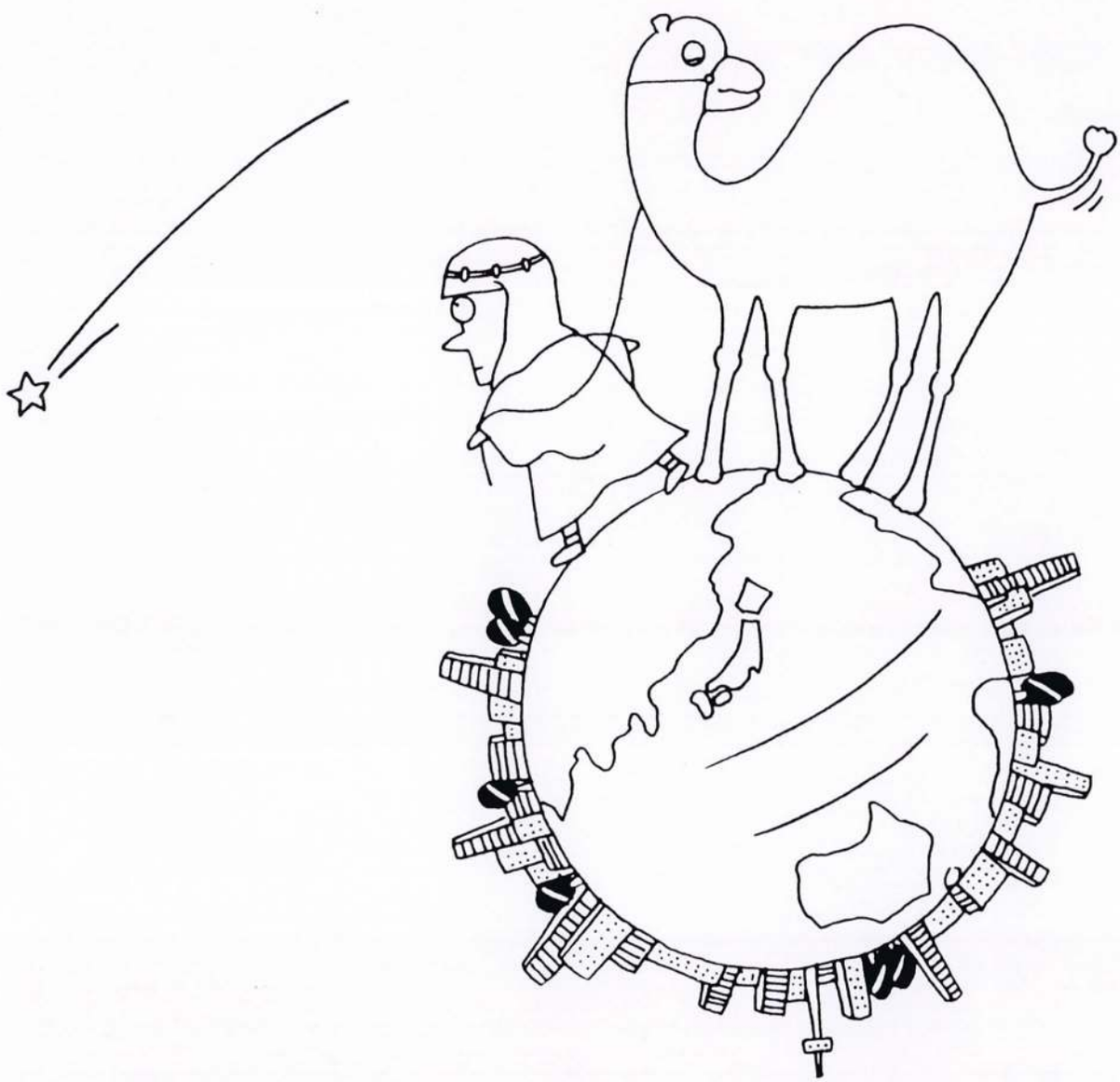
小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252－6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL　　大阪（06）6877－1581

建築と社会　2007.01　Vol.88 No.1018
社団法人 日本建築協会　〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 電話：06-6946-6981 FAX：06-6946-6984 http://www.aaj.or.jp
毎月1回1日発行 昭和24年3月19日第3種郵便物認可 ISSN 0912-8182
定価1,200円（税込）　正会員の講読料は会費に含めて徴収

技術でつくる未来（あす）へのかけ橋



電気・計装・通信・管工事・空調・土木・機器製作
SUN TEC
株式会社 サンテック

本社　〒102-8440 東京都千代田区二番町3番地13 電話03(3265)6181(代)
支社　北海道・東北・中部・大阪・広島・九州

大阪支社　電話06(6372)1664
大阪市北区中津1丁目7番8号
〒565-0071

雑誌 03379-1